

304  
M143n



\* 0002208000 \*

0002208-000

304-M143n

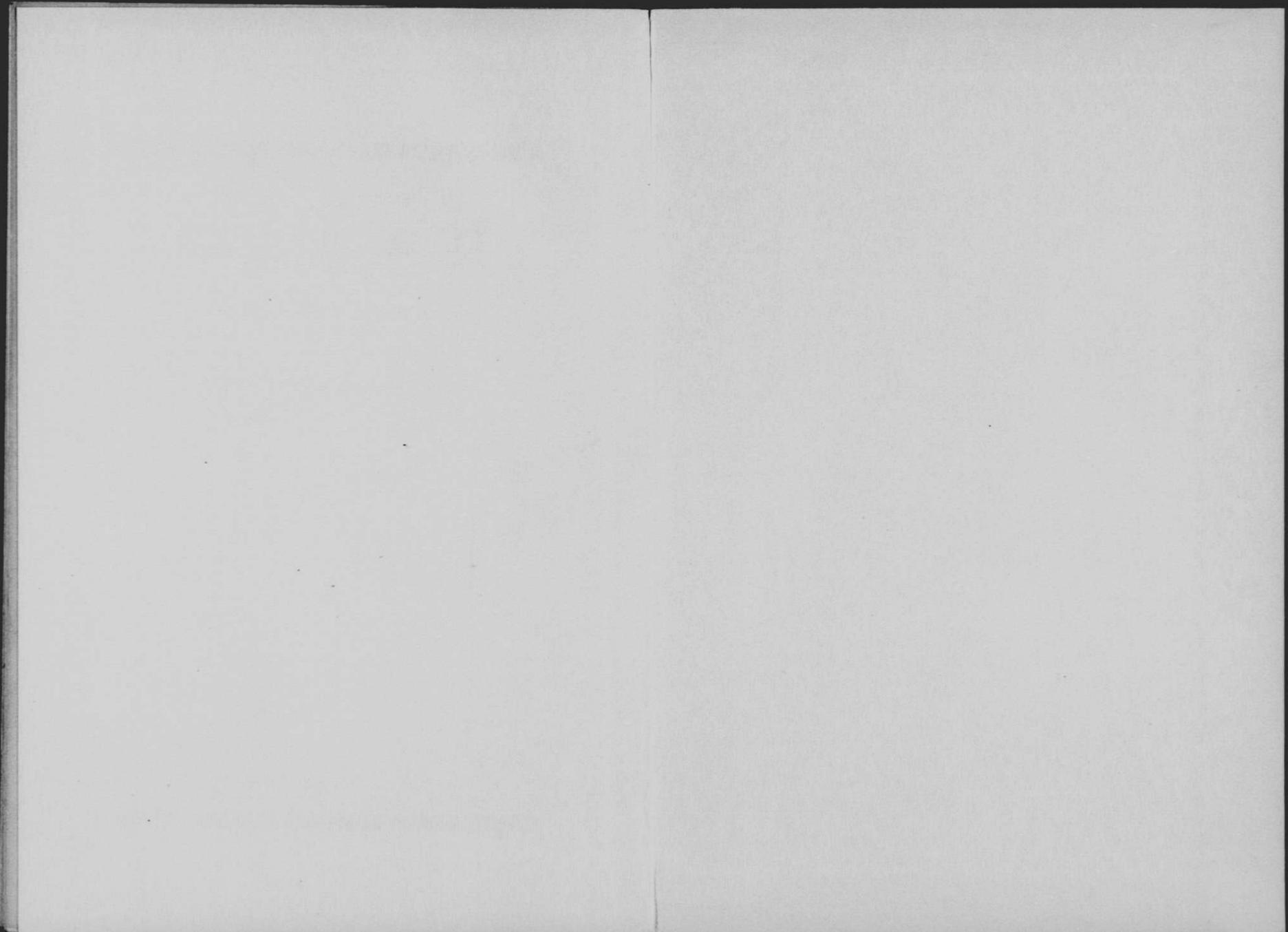
日本と支那

前芝確三・著

一元社

1932

AAC



12-41

---

# 那支と本日

—てしと心中を變事海上—

---

著 三 確 芝 前



◆ 版 社 元 一 ◆

---



上海目賈きの南  
京路、正面の三つ  
の尖塔は永安、  
新々、先施等の大  
百貨店



304  
M143m

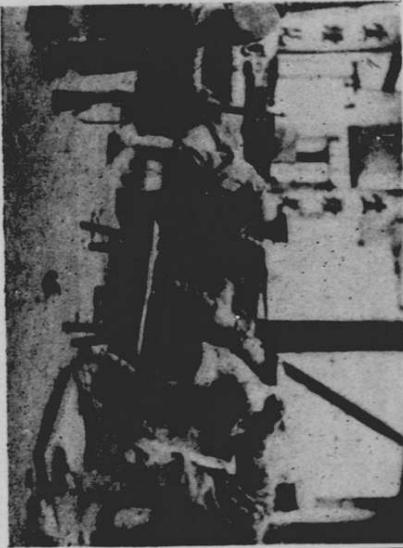


533096



上海郊外南翔のある湖  
の壁にかゝれた抗日ス  
ローガン、向つて右上  
の繪は白馬にまたがつ  
た女が血のしたる日  
本人の首をさげてある  
前の人物、向つて右の  
ソフト帽が著者

道路九十あるつよにドーケリバナい縄に筋付



筋附九十ある・つよに筋附に筋附して工の筋附日筋附





敵の監視するまへに送信装置



敵民の北朝海上たれき砲粉に火薬の爆木日

## はしがき

一、これは上海事變のために、「大阪毎日」および「東京日々」から特派せられた私が、そこで、見たり、聞いたり調べたりしたことを、漫然と書き流したものである。したがつて、そこには、一貫した脈絡はない。文字通り「断片」のよせ集めである。

一、もちろん、この中には、新聞紙上に、或ひは、エコノミスト誌上に、一度、掲載されたものもそのままはいつてゐる。しかし、大部分は、仕事の暇に新たに筆をとつたものである。そのくせ、なほ主要な問題——例へば農民問題の如き——を、幾多逸してゐる。暇があればこれらの缺陷を補ひ、もつと體系だつたものにしたいが、何時その暇が見つかるかも知れないので、とにかくこのまゝ上梓することにした。

一、この書のなかに述べた意見はすべて私の「私見」であり獨斷である。恐らく多くの先生諸氏から御叱りを要ることゝ思つてゐる。いやむしろ自分の勉強のためにそれを期待し

てさへゐる。だが、私はこゝで、出来得る限り「衣を着せぬ歎」を以て語つた。こうした見方も、なほ、何かの役にたつことを考へて……

一、支那は眼まぐるしく動いてゐる。本書をかき上げてからも、ことに排日運動、共産黨の勢力關係には多くの變化が起つた。しかし、基本的な線は依然として同じ方向に向つてゐると思ふから、敢えて筆を加へずそのままにして置いた。この點御諒恕を乞ふ。

一、やりっぱなし私を鞭撻して、とにかく一冊の書物にまとめて下すつたのは、「大阪毎日」経済部長、下田裕美先生である。こゝに改めて御謹を申し上げる。

なほ、私事に屬するが、私が動亂の上海を驅けまわつてゐる間に、日本では長女茉莉が生れ、母津禰子が亡くなつた。したがつて、この散漫な書物も、私にとつては忘れない一つの紀念なのである。

一九三二年八月

著者

## 目次

### 序説、へんに歪んだ横顔

### A、呪はれた資本主義・支那

一、事變直前の經濟情勢

二、動亂渦中の經濟情勢、素描

三、何故に「國貨提唱」は必要であるか

四、日貨抵制運動の分析

### B、二つの抗日戰線

一、ブルデヨア的抗日戰線の展望

## 二、抗日救國會の戰術

一七

## 三、戰線内の内紛悲喜劇

一七

## 四、もう一つの抗日戰線

一六

## 五、K・P行動日誌（動亂の上海に於ける）

一〇三

## C、簡單な中國共產黨運動史

一三

附、支那労働者の狀態

- 一、黨の創立から五・三〇まで ..... 一五
- 二、赤く染められた國民黨 ..... 一一
- 三、民族革命聯合戰線の分裂 ..... 一二
- 四、血にまみれて地下へ ..... 一三
- 五、嵐の中のローテ・フロント ..... 一四
- 六、「蘇維埃政府」への道 ..... 一五

## 七、割期的な一九三一年と現状の素描

一六

## 八、慘めな貿易奴隸の姿

一九

## 九、工場法、苦力、請負労働

一九

## D、金融危機・浙江財閥・上海自由市計劃

一九

## 一、潜在的な金融危機

一九

## 二、危機は去つたであらうか

一〇五

## 三、浙江財閥と國民黨政權

一〇〇

## 四、浙江財閥の陣容

一三一

## 五、上海を自由都市に

一三五

## E、曝露的断片

一六八

一、戦跡で拾つた理論	四
二、戦跡の素描若干	四八
三、宣傳では支那の勝	五三
四、憎みの種「圓」の下落	五六
五、抗日戰線の彼女たち	六〇
六、企業としての賭博	六七
七、アメリカ風の上海	七一
八、偶像孫中山先生	七六
九、反動亂舞、青帮のこと	七八

目次（続）

# 日本と支那

（上海事變を中心として）

## 序説、へんに至んだ横顔

冷たい水雨が降り續いた。

しつきりなしに、砲弾が炸裂し、機関銃がなりはためいた。そして、煙と血と泥の流れが街路をのたうちまわり、町の夜空を焦がして戦火は燃えつけた。こうして、鐵火の洗禮をうけた「國際都市」上海にも、停戰とともに、漸く、和やかな平和の春光が輝き始めた。春寒の灰いろの空から時々、ちらりと淡雪がこぼれて來はしたが、眞茹あたりの、砲弾に碎かれた土瓶のかげには、絢桃の花が、今を盛りと咲き誇つてゐた。

だが、かくして訪れた「江南の春」も、断じてその後の上海の、そして支那の、政治経済情勢を象徴するものではなかつた。

郊外の田園で、菜つ葉に肥をやる農民の、のどかな面ざしにも拘らず、また、南京路の舗道を

ゆく上海ガールの軽やかな靴音にも拘らず、底にはまだ、幾條かの暗流が、音をたてゝ渦まき流れれるるるのだ。

「五・三〇以前にかへせ！」

まづ、これが上海における資本主義列強の僥倖らさる要求であるらしい。いふまでもなく五・三〇事件は、千九百二十五年から二十七年に至る支那革命第一期の大暴揚の口火を切つたものとして有名だ。しかし、「五・三〇以前にかへせ」が何を意味するかを、はつきり把握するためには、こゝで、一應、この事件をふりかへつてみる必要がある。

五・三〇以前にも、支那における反帝國主義、反軍閥の闘争はかなり廣汎に展開せられてゐた。千九百十九年には、パリ講和會議における山東半島回収不能問題に端を發した五四運動、二十年には中國共産黨の生誕、二十二年には、五十餘日にわたつて頑強に戦はれた香港における海員工會の大罷業、および、村山知義の脚本「全線」（或は暴力圖記）で日本にも有名な京漢鐵道の大ストライキ等があり、國民黨も千九百二十四年の改組によつて「より左へ」の一步をふみ出したのであつた。これは「聯露容共」の言葉にも表現せられたごとく、ソヴィエート同盟との提

據、より明確なイデオロギイによる革命の指導が初められたことを意味する。

だが、何といつても、千九百二十五年までは上海における國際ブルヂョアジイは、まだこの國際都市を自己の安住の地として、充分、安價な労働力を「利用」することが出来たのであつた。しかし、客觀的情勢は、急速に變化しつゝあつた。千九百二十二年のメーデーに、廣東において「全國聯合總工會」が結成された時、組合數は百六十、組合員總數は三十萬であつたものが、二十五年の同じ日には組合數二百八十五、組合員數四十五萬にまで成長してゐた。しかも、總工會は、この期間内に量的に異常な發展をとげたばかりでなく、質的にも割期的な變化を閲みしたのであつた。「總工會」の赤色労働組合インターナショナルへの加入がそれである。かくして、今まで、急進的なインテリゲンツィア、小市民、國民ブルヂョアジイ等を中心とした支那民族革命運動の戰線には、共産主義的イデオロギイに浸透せられたプロレタリアートが、その強力なエネルギイを以て、公然と立ち現はれて來たのであつた。この事實は、その頃、上海に瀕發した待遇改善の要求に端を発する、執拗な幾多のストライキと、ひつたり符合する。五・三〇事件は、ちょうどこの年の五月に起つたのだ。……

この事件の發端は、上海の日本人紡績工場のストライキである。このさわぎで労働者側に死者を出したのに激昂した一團の急進的な學生たちは労働者と合流して抗議デモを組織した。この時、數名の學生が檢挙され工部局警察へ拉致された。五月三十日上海の各大學では、死んだ労働者の追悼祭を開いたが、それに出席した學生は、その場から直ちに示威行列を作つて工部局警察へ、檢束されてゐる學生の釋放を求めて押しかけたものである。この時の光景を親しく目撃したといふアチアカスは、その著、「廣東から上海へ」のうちに書いてゐる。

「彼らは南京路を經て警察の前庭の門前に達し、そこで行進を停止して一つの代表者團をつくり、二、三の逮捕された學生の釋放を求めたのである。數分後にはすでに銃聲が轟き、死者と負傷者は街路に充ちてゐた。すべての人は我勝に逃れようとして、露路へ大急ぎで逃げこんだ。死者および負傷者の大部分は背後に傷を負つてゐた——大通りはすでに全く空になつてゐたのに露路に逃げこんだものは、なほ背後から、銃火を浴びせかけられたのだ。すべては一瞬間に起つた。この「突發事件」の起つたすぐ近所の歩道から示威行列を見てゐた目撃者でさへ、その瞬間何が起つたかを全然知らなかつた位である。……翌日の夕刻には支那新聞の號外は、支那人大眾

の開戦決議を傳へた。學生、労働者の代表者、各路商界聯合會に組織されてゐる小商人、および上層ブルヂョアの組織たる總商會の代表者より成る工商學聯合會は、イギリスの「暴虐」に對する答として、イギリス市街における全支那商店の閉鎖による一般的ボイコットと、外國人工場におけるゼネラル・ストライキとを宣言した。やがて一擊、また一擊が續いた。……それは單にプロレタリアートのみならず、上海の人口の大部分による、帝國主義に對する大衆ストライキであり、荷上げ苦力から商店員、商人、銀行家に至るまでを含む大ストライキだつたのである。この「突發事件」のあつた翌日、六月一日にも再びデモ隊とイギリス官憲が衝突し、再び市街に銃聲がとどろき、群衆の血が流れた。かくて事態はますゞ険悪化する一方であつた。

列強の陸戰隊は續々上陸した。華やかに化粧した上海眼鏡の大通りにはパリケードが築かれ、巨大な甲虫のような装甲自動車は機關銃を觸手の如くふり動かしながら、地響きをたてゝ街を駆せちがつた。——まるで戰爭である。

支那人大衆はこれに對し、たゞ頑強な「罷市罷業」を以て答へた。七月末、上海の總工會は張作霖の軍隊の手で閉鎖せられたが、ストライキは九月まで續けられた。だが、ストライキの終焼を馳せちがつた。——まるで戰爭である。

今まで、大衆の間に次第に浸透しつゝあつた排外感情は、こうして、ます〳〵煽り立てられ、つひに焰となつて燃え上つた。「打倒帝國主義」の「口號」は支那全土に轟いた。この日以後、上海は、國際ブルヂョアジイにとつて、もはや昔日の上海ではなかつたのだ。

### 「五・三〇以前にかへせ！」

これは邪魔つ氣な國民黨政權の支配力及ばざる上海、プロレタリアートの抵抗なき、安價な労働力を自由に利用出来る上海を再現せよ、といふ要求にほかならぬ。

果敢なる日本軍の砲火は、上海に關する限り、國民黨政權の支配力を、今や、全く掃蕩し去つたかに見える。この意味で、日本は南支那に大きな利害關係を持つ資本主義列強の前衛たる役割を十二分に努めたわけだ。しかし、上海における國民黨政權の打倒は、「問題解決」の第一歩にすぎない。なるほど彼らは「中華」の稱もふさはしい、揚子江岸富源の咽喉上海から、自己の勢

力が根こそぎに掃蕩せられることを極度に恐れてゐた。だが、彼らはその本質上あくまで列強と對立的な關係に立ち得るものではない。それどころか、常に、列強の、あれ、またはこれに媚を呈しながら、漸く自己の立場をまもつて來た、卑劣な日和見主義者の一團である。時には、愚なる大衆の信頼をつなぎとめるために、排外感情の煽揚につとめたこともあるが、これとても、列強の對立關係の間隙を利用して巧みに自己の立場を有利に展開せんとする策動のあらはれにすぎない。これらの事情は、こんどの事變で、最初「打倒十九路逆軍」のビラまで撒いて、ひそかに、日本の臭息をうかごつた黨中央部の態度、滿洲事變勃發以來しきりに排日的言辭を弄しながら、いざとなると、首都を洛陽に移して長江筋を日本其他の列強にあけ渡してしまつた蒋介石の行動等によつて、充分、裏書きせられてゐる。だが、かくして、一應國民黨の支配下から切りとられた上海に、なほ、列強の勢力に抵抗するものが根づよく残つてゐるとすれば、それは、民族的な、また、階級的な、支那人大衆の「打倒帝國主義」の運動にほかならぬ。この運動を徹底的に終熄せしめ、この對立關係を完全に抹殺しなければ、上海を正確に五・三〇以前にかへすことは不可能であらう。この要求實現のために、日本を前衛として、まづその第一歩を踏み出した列

強の間には、いま、上海を自由都市とし、直接列強の協同支配のもとに置かうとする計畫さへも進められてゐる。しかも一面、列強の間には、こんどの上海事變によつて、しばく複雜な利害の對立關係が露呈せられた。だが、これも、多くは鮮血を流した「前衛」日本が、今後、對支關係においてとるかも知れぬ優越的地位を牽制し、自己の立場を出來得る限り有利ならしめようとする策謀の現れにすぎない。したがつて、かつてこの對立は、しばく危機をはらむが如く見えたし、今後もかく見える場合があるであらうが、その爆發は、今までのところ、資本主義列強對半植民地支那の、より鮮かな對立のうちに、辛よじて防止されて來た。今後、この列強間の對立關係がいかなる推移を迎るかは、にはかに豫断を許さないが、これが、支那人大衆の「打倒帝國主義」の運動とともに、「幾條かの暗流」の一つをなしてゐることは明かだ。

これらの事情を顧みる時、停戰を機として上海が急に五・三〇以前の狀態に、或ひは事變前の狀態に復歸するであらうなどとは到底考へられない。こんなことを考へるのは今の場合むしろ滑稽でさへある。

なるほど、三月の中頃には、すでに、虹口を中心とする日本人の密集地帶では、小賣商店もほんに至んだ横顔

とんど店を開き、バンドから南京路へかけての目貫きの場所は、まるで何事もなかつたの如く、華やかな雰囲を再現してはゐた。しかし開北の廢墟には、なほ、戦火の餘燐がぶす／＼とくすぐつてをり、こわれたパリケードのかけには馬の死骸が悪臭を放つてゐる始末だ。その頃、何氣なしに南京路を競馬場の附近まで散歩した私は、兩側の舗道をいかにも緩漫なテムボで流してゆく群衆の中からいく度か冷たい憎惡の視線を投げかけられたものであつた。——このへんに歪んだ横顔、むしろこれが今の上海のまことの姿なのである。

## A、呪はれた資本主義・支那

### 一、事變直前の經濟情勢

このへんに歪んだ上海の横顔のうちに、年若き支那資本主義は、いま、如何なる様相を示してゐるのであらうか。

この問題に近づくためには、少くとも最近の情勢を一應回顧してみなければならぬ。これは、とりも直さず、一月廿八日の運命的な夜以来、上海の一角にくりひろげられた凄惨な悲劇の背景を描くことになるであらうから。……

千九百三十一年の初頭、私はこの一年間の支那經濟情勢に對して、次の如き見透しをもつてゐた（エコノミスト昭和六年一月一日號）

「國民政府は、上述の如く、本年の新經濟方針として、自國產業保護と外資輸入歡迎を掲げた。しかし、この外資輸入は政府當局の制御し得る形態のみをとるとは考へられない。必然、そこには、それに伴ふ資本主義列強勢力のさらに一段の進出が見られるであらう。否、すでに、恐らくは政府當局ならびに國民ブルジョアジーの欲せざるところであらうが、列強の商品輸出にかはるべき資本輸出は中國の資本主義的發展そのものを脅かしつゝあるのだ。例へば紡績業にしても（中略）中國紡績は未だ技術的にも到底在支日本紡績を凌駕することが出来ない。（中略）また紡績業以外にも日本の資本輸出はます／＼盛んになつて來た。ことに、新聞稅率適用による商品輸出困難を見越してのそれは、昨年中相當の額に上つた。しかもこれらは消費資料商品生産のための中小工場の新設となつて現れたから、現段階における中國產業とは明かに對抗關係にたつものである。」

「かくて關稅障壁の築造にもかゝはらず、本年においても資本主義列強はます／＼中國政治經濟機構の内部に食ひ入つてゆくであらう。しかも、彼らは、一面において過剩生產商品の洪水を、ほとんどダムビングプライスに近き價格を以て中國商品市場にそゝぎかけることを忘れは

しないであらう。これらに抗して年若き中國資本主義はいかなる成長をとげるであらうか。少なくとも世界經濟恐慌の克服が世界資本主義にとつて未解決のまゝ残されるであらうところの、千九百三十一年内においては、政府ならびに國民ブルジョアジーの努力にも拘らず、そこに華々しい飛躍を期待することはほとんど不可能であらう。」

「さらにもた、慢性的な農業恐慌は國民ブルジョアジーの成長に對して極端に不利な環境を醸成しつづけるであらう。それは一面において幾多の飢民を資本主義存立條件の一たる產業豫備軍として都市に送り出すとともに、他面においては、國民ブルジョアジーの一部たる土豪劣紳を農村より掃蕩するところの土地革命實現のために好適な地盤を提供するものにほかならぬ」この見透しは大局においては殆んど間違つてゐなかつた。いや、事實は、もつと暗黙たるものであつた。こゝには、多少の修飾をのそまゝ許容するとして、最も手近な、中國銀行の報告書を参照しながら、千九百三十一年中の支那經濟情勢を跡づけて見よう。

まず、世界經濟恐慌のために、銀價低落によつて一時的に増加した輸出も一年を通算してみると前年に比して約七百萬圓減少した。世界的な物價低落は結局銀價下落による支那貨幣の對

呪はれた資本主義・支那

一四

外價值下落をこえ、このために増加した輸入は統七千萬元と見つもられる。支那の國際貸借に無形の輸出として多大の影響を及ぼしてゐた華僑の本國への送金もまた恐慌のために激減した。加ふるに支那資本家が銀價變動による損失を避けるためにやつてゐた外貨投資は、イギリスの金本位停止のみによつても二、三千萬兩の損失を被つてゐる。

さらに支那國內における水災、滿洲事變、赤軍の活躍によつて支那資本主義が蒙つた損失は非常に大きい。即ち昨夏の水災は罹災地域二十餘省、その最も甚だしかつた八省の損害だけでも次の通りだ。

省別	被災田畝 (千畝)	戸數 (千戸)	損失金額 (百萬元)
北	二七、五一三	二、一二五	一〇〇
湖	二三、九五〇	二、一五五	四〇
安	六一、四三一	三、六二七	一〇〇
江	二三、九五〇	一、一〇〇	一〇〇
蘇			
南			

河	三四、六九五	一、五八六	六〇
南	一四、二四八	一、〇三五	一〇
東	三〇、一三五	一、五五一	一〇
江	一五、七三六	九三二	三〇
計	二二一、六六八	一四、〇九一	四五〇

また滿洲事變によつて東北四省が戦時状態に入つたため、この地方のすべての産業は停頓し、住民の離散するもの数知れず、農産物は積出不可能に陥り、これら四省の商店、またはこの地方と取引を有する商店の倒壊、休止が相つて起つた。この結果、天津上海の金融機關は甚だしき打撃を受けた。加ふるに萬寶山事件以来、ますく熾烈となつた日貨抵制運動のため、支那商人の手に累積した「封存日貨」は價格に見つもつて約一億兩に達し、これが金融を壓迫した程度は相當大きい。

最後に、赤軍の異常な進出によつて、その影響下に奪取された地盤の生産額、および赤軍討伐

費を加へると、支那資本主義はこれによつて直接、年、二億元の損失を蒙つたことになる。一方、かなり早い段階で資本主義化の過程を辿りつゝある支那の工業はいかなる状態にあつたか——まづ第一に千九百卅一年初頭にはすさまじいインフレーションがあつた。それは、當時銀價格の「歴史的低落」といふ言葉によつて表現せられたあの現象に随伴して起つたものである。中國の貨幣制度が銀塊を中心として、その貨幣價值の絶えざる變轉をつゞけてゐることは周知の事實だ。したがつて銀價格の低落はすなはち貨幣の對外價值の下落、國內における物價騰貴、この反面、對外輸出における爲替ダムビングに等しい作用をよび起し、經濟機構全般にカンフル注射的な興奮狀態を惹起せしめたのであつた。

さらに、原料安による一般的生産費の低下（これについて、搾取の強化を見落してはならぬ）掛日貨の結果たる支那工場製品に対する需要増加は、支那産業に一應好影響をもたらした。最初の半年間においては、生糸のほかの工業はかなりの進歩を示し、利潤はたしかに前年より増加した。しかし、揚子江岸における慘憺たる水災、および滿洲事變は商品の市場を著しく破壊し、この年度全體としての利潤總額はあまりかんばしくなかつた。

この年に、相當著しい進歩を見せた工業はいふまでもなく年若き支那資本主義の重心たる輕工業部門、なかんづく、紡績産業であつた。もちろん、上海における支那人紡績はその勞働能率において（即ち、資本主義的合理化的程度において）したがつて生産費において、また、生産高において、まだ、この地における日本人紡績を追ひこすことは出來なかつた。即ち、その產額は

	綿糸 千ペール	綿布 千ペール
支那人紡績	五六〇	一四七
日本人紡績	六七六	二二六
これを全國について見れば、		
支那人紡績	一・四五八	三六〇
日本人紡績	一〇〇八	三一五

しかも総數は三十一年において支那人紡績概數二・三九六・〇〇〇鍾、日本人紡績一・六〇〇・〇〇〇鍾であるから一經あたりの生産額には非常な差違がある。これは、いふまでもなく日本人紡績工場の設備の新らしいこと、換言すれば勞働強度の著るしく高いことをその原因とするも

のだ。この年度における種類の増加も支那人紡績六萬に比して日本人紡績十萬でこの點においても支那人紡績は、たしかに日本人紡績の壓迫を感じてゐる。

しかし、銀價格の低落と關稅の引上は、たしかに、支那製細番手綿糸に對する需要を高めた。それは、これら商品の輸入價格が對外爲替の低落に反比例して高價になつたためである。支那紡績はこの方面からも非常な刺戟をうけ製品の高度化に努力したが、それが多少奏効したのは、上海中心の若干の工場のみで、北支那（黃河以北）では在支日本人製品を少たりとも蠶食する事が出來なかつた。また、この年においては、日貨抵制運動にも拘らず、在支日本人製品に對する需要は殆んど減退しないばかりか、價格も支那人製品より低廉で、その優越的地位には少しの搖ぎもなかつた。この狀態を、支那國民ブルジョアジーの一代表者は、

「支那人紡績は資本少く組織散漫、技術も拙劣である上に、しばし争議に悩まされてゐるので生産費が非常に高くつく。日貨抵制も一時的には好影響を與へるであらうが、到底この狀態は永續きはしない。したがつて支那人紡績が日本人紡績の壓迫に抗してどん／＼發展し得るかどうかは今のところ實に疑はしい。わが國紡績業の將來は當業者の努力と一般民衆の支持にかかる」

「つてゐる、といふほかはない」「

と慨嘆してゐる。一營利事業の繁榮について無條件に「一般民衆の支持」を要求してゐることなどやゝ滑稽に感ぜられるが、とにかくこの嘆聲は、國民ブルジョアジーとしてしごく、もつともである。支那人紡績は、現實には、まだ、何といつても在支日本人紡績の敵ではないのだ。製米業もまた日本のそれと對抗關係に立つものではあるが、生産設備が古く、繭の品質が悪いため年々五萬ペール餘を輸出するといふものゝ到底日本を凌駕することは出来ない。千九百卅一年においては、日本に生糸恐慌があつたのと同じ理由で、支那の製米業もまた憔悴たる苦境に落ちた。ことに、支那では、一單位あたりの生産費が日本よりはるかに高くつくのであるから、輸出先、アメリカ市場における糸價下落の打撃は、それだけ甚だしきつたわけである。市場價格が生産費の約半額に低落した結果工場の倒壊、閉鎖は相次いで起つた。上海にある百七工場中、卅一年中、辛うじて操業を續けてゐたものは僅かに廿、無錫においては四十九工場中、十餘、その他南京等の都市にある工場の八、九十パーセントはすべて閉鎖してゐた。したがつて江蘇、浙江における製糸工場の三十一年の生産額は、一十九年に比し四十パーセント、三十年に比し二十パーセント

の減少であつた。その輸出額も一九年五萬四千ペール、三十年、四萬二千ペール、卅一年、三萬二千ペールと急速に減退してゐる。政府は製糸業のこの窮状を見て、これが經濟のため八百萬元の糸業公債を發行した。しかし、市場はこの公債を歓迎せず、その實行が非常に悪かつたために、製糸業者は實質的には何らの「救濟」も受け得なかつた。しかも、この糸業公債の償還資金として、一ペール三十元の輸出稅增徵が決定せられたゝめ、輸出生糸の原價はそれだけ昂騰せしめられた。だからこんな「救濟」はむしろない方がましであつた。しかし、近年、製糸業の改善について多くの支那資本主義の指導者が大きな關心を持ち始めたゝめ、三十一年中江蘇、浙江の蠶種產額は約二倍に増加し、製糸工場中にも製品生糸の品質を均等ならしめてアメリカ市場の需要に適應せしめんと企てたものがあつた。いま、支那製糸業にとって最も必要なのは繭種の改良、生産設備の更改であるが、この企業には、中小規模の工場が多いため、ことに生産設備の更改は容易ではない。だが、これなくしては、支那の製糸業も大部分壊滅のほかないのであるから、恐らく、この生糸恐慌を契機として、この部門における資本の集中が急速に實現せられるのではないかと思はれる。

その他の工業は、最近三年間、輸入商品に比し國內製品の安價であつたことに刺戟されてかなりの活況を呈した。これは關稅引上げと「國貨愛用」運動の影響を見のがしてはならぬ。いふまでもなくこの兩者は、國民ブルジョアジーの代理人たる國民黨政權が、主人の意志を體してとり上げた自國產業保護政策のプログラムの重要な項目である。

一千九百卅一年における諸種の國貨工業の生産高は前年度に比して非常に増加した。卅年の生産高を百とすれば卅一年の生産指數は次の如くである。

製粉	一一〇	機械	一二五
染織	一二五	洋傘	六〇
イシク	三五〇	綿紡織	一二八
ゴム	一二五	メリヤス	一〇〇
製糖	二〇〇	マツチ	一二〇
味料	一一二	卷煙	一五八
エナメル	一一五	草	一五

造　漆　　一二八  
　　一〇九

化　粧　品　一二〇  
　　八九

製　煉　　一四三

毛　織　　一四三

毛織物と洋傘をのぞいたほかの諸工業は一齊に較著な進歩のあとを示してゐる。この生産増加は金額に見積つて約四千萬元、もし水災と蘆洲事變がなかつたら、この數字はもつと大きくなつたかも知れぬ。

「支那工業の基礎を薄弱ならしめる要因は數多くあるが、その主なるものは、

一、資本の不足

二、原料を海外から輸入しなければならぬこと

三、設備不完全な小工場の增加

四、外國工業製品の競争。ことに、次第に増加してゆく在支日本人工場諸製品との競争、である。これらの困難を克服するためには支那國民が國貨を愛用し、凡ての工場には充分な資本を供給し、技術の改善に努めることが何を置いても必要だ。さらに進んで企業の合同によつ

て無用の競争を排除し、一方労働者をして支那工業の生産を増加せしめるのは彼らの義務なることを信ぜしめ、勞資双方は、支那工業の基礎をかためるといふ見地から一致協力しなければならぬ」

中國銀行の報告書は、「工業」の項の結論として、こういふのである。國民ブルジョアジーがいま、何を欲してゐるか、こゝには、無邪氣なほど露骨に語られてゐるではないか。ブルジョア的な日貨抵制運動、および貧乏な自國労働者の搾取が、こゝでは愛國的口吻を以て堂々と要求せられてゐる。「資本主義のために」を、いつの間にか、「國家のために」といふ言葉にすりかえて、無智な大衆を僞瞞するのは、彼らの常套手段なのである。

次は農業——春季に雨の多すぎたこと、その結果たる大水災は農産物の收穫に非常な悪影響を及ぼした。米は二十乃至三十二パーセント、小麥は約十パーセントの減收だ。三十一年における米の入超は千七十三萬六千ビクル、六千二十一萬四千海關兩、小麥の入超は二千二百十九萬八千ビクル、八千百七十萬海關兩、麥粉の入超は四百七十九萬ビクル、一千六百二十萬海關兩であつた。これら食料品の輸入額を前年度に比較すると、小麥は六十パーセントの増加、米は四十パーセン

トの減少麥粉は十八パーセントの減少である。この三品目の輸入總額は一億八千六百四十萬海關兩で、三十一年の商品輸入總額の約十三パーセントを占めてゐる。

小麥および麥粉のアメリカからの輸入は前者二百六十八萬ビクル、後者四十三萬七千ビクルであつたが、このうちには水災救恤用としてアメリカから買はされた小麥、麥粉併せて四十五萬トンが含まれてゐる。しかもその價格は、アメリカ積出しの日の價格に定められ、代金は千九百卅四年から三年間に支拂はれることになつてゐる。小麥、麥粉の生産過剩に悩むアメリカは、「救恤」の美名のもとに、焼き捨てるほかはない商品を、こうしてまんまと、支那に押しつけたのだ。

棉花は、中華棉業會の調査によると、この年の產額僅か六百四十六萬ビクルで、前年より一百卅四萬ビクルの減收だ。支那紡織の増健と製品の高度化は外國產棉花の輸入増加を要求したためこの年の米棉及び印棉輸入は四百五十八萬四千ビクルに上り前年に比して約卅一パーセントの増加を示した。かくて、卅一年の棉花輸入は金額に見つもると一億六千五百九十八萬七千海關兩支那棉の輸出は百十萬六千ビクル、三千十萬海關兩であつた。

茶は前年に比し、紅茶十パーセント、綠茶卅パーセントの減收、銀價格の低落と減收による市

價昂騰によつて茶商はかなりの恩恵を蒙つた。その輸出高は七十萬八千ビクル、三千三百五萬九千海關兩で、むしろ前年より卅パーセントの増加を示してゐる。

植物油、即ち豆油、落花生油、桐油は支那の重要な輸出商品である。卅一年豆油の輸出は百五十萬ビクル、千六百萬海關兩で前年より廿パーセント減、落花生油のそれは、八十萬九千ビクル千二五四萬海關兩で前年より六十パーセント減、桐油は同じく八十萬九千ビクル千八百八十八海關兩で前年より三十九パーセント減であつた。

支那は依然として農業國であるのに、農産物の輸出は年々減退し、輸入は年々増加する傾向がある。自然的條件による農産物の減收のみがその唯一の原因ではない。相繼ぐ國內戰爭、租稅の誅求、高利貸資本の無慈悲なる收奪等による土地生產力の破壊、および交通系統の不備その他による農產物運搬の不便が、さらに重大な破壊的因素として作用せることを見逃してはならぬ。かくして、支那の農村は、近年、すつと慢性的農業恐慌に悩まされ續けてゐるのだが、現状のまゝでこれを克服し得る見透しはあるでない。

——以上が三十一年における支那經濟情勢の概観だ。こゝに描き出されたものは、荒れ狂ふ

世界經濟恐慌の波濤のなかを「銀價格の低落」をたゞ一つの救命帶として、喘ぎ、もがきつゝ漂ひゆく幼弱な支那資本主義の姿である。畫面は、これだけでも、實に暗澹としてゐる。そこへもつてきてこんどの事變がさらにまつ黒な雲のかけを落したのだ。

## 二、動亂渦中の經濟情勢、素描

まづ、事變中支那資本主義の心臓上海の經濟界がいかなる推移を迎つたかを見るために、一月二十八日から二月末までの重な出來事を羅列して見よう。

一月二十八日 物情騒然たるうちにあつても金融市場は立會を續行する旨金業交易所の理事會で決定した。しかし日華紡の吳淞工場はいち早く閉鎖して動亂にそなへた。

二十九日 市商會は總罷市の斷行を決議し、各市場は休止した。日華紡に續いて他の邦人紡も閉鎖したが工人の動搖は殆どなかつた。

三十日 さきの決議にもとづき租界内外を問はず總罷市が斷行され市街は濃厚な不安につゝまれた。

三十一日 罷市ならびに工場閉鎖のための失業者約十六萬と注せらる。

二月一日 市民聯合會、金銀兩業公會は罷市續行を決議し、外人および支那人經營の紡績工場は閉鎖した。物價は騰貴し、殊に食料品は一躍三、四割昂騰した。

二日 火災保險契約は禁止的料率を示し、買辦は休業した。品不足のためか、粗布の引合がかなり盛んであつた。

三日 外國銀行も休業を發表。

五日 日本人商人で非常な暴利を貪り、法外に高い價格で商品を賣りつけるものがあつたので領事館はその調査を始めた。市内各マーケットは幾回回しかけた。

七日 華商銀行安定策に各行の租界内財產（約五千萬元）の保管委員會が組織された。

八日 兩替屋店を開き、支那食料品店、飲食店もばつ／＼開業し始めた。市商會は開市の勧告を發する、この機に兩市の電話會社從業員は三日から八日まで毎日五十セントの増給を要求し、これを貫徹した。共産黨はしきりに傳單を撒く。

呪はれた資本主義・支那

二八

九日 支那艦側の銀行は、開業したが偽替市場は休止のまゝ、紡績工場も同様。

十日 諸市場の立会ひは依然停頓。

十一日 萬分市中の人氣は安定し市場には花卉、植木鉢などが搬入され出した。

十三日 勞働者八百を擁するニューエンジニアリング・エンド・シップビルディング・ウアーグスの楊樹浦工場は操業を開始した。

十四日 北四川路商民損害主辦委員會が組織され、戦後における損害賠償交渉の準備を初めた。上海會計師公會はその獨自の立場から日兵損害調査統計委員會を設立し被害者の登記を求めた。このころから虹口マーケットは次第に回復し初める。

十五日 吳淞路界隈の邦人の商店は約三割方晝間のみ開店し、支那人工場もすでに四ヶ所操業を開始した。

十六日 アメリカ人の調査として発表されたところによると、閩北における工場破壊は三百九十七ヶ所、金額にして七千三百萬元、虹口における工場破壊三百三十三ヶ所、金額四千五百萬元、これによる失業者十一萬五千人。

十七日 錢莊發行の莊票（約束手形類似のもの）に對しては銀行は現金引替へ應するをやめ、取引は依然杜絶、舊正決済は月末まで延期されたが、これも到底實現されさうにない。

十八日 爆擊、破壊された商務印書館の被害約一千萬元。このころより邦人商人の開店約五割に上る。中華書局は事變を口實として、向ふ二ヶ月間賃銀を半減し、操業を半日にする旨發表した。

十九日 課金の徵收は事變のため平常の二二十五・ペーセント、既定の三十二年度における増徵は到底不可能となつた。あまつさへ、民衆の不納運動がますく、強力となる形勢、しかし、市の中、東部、西部のマーケットは次第に活氣をおびて來た。  
この後三月三日の停戦までは、ほど同じような調子で大した變動もなかつた。しかし、停戦後といへども、決して、直ちに事變前の状態が再現せられたわけではない。支那人紡績および英國人紡績は表面、一時閉鎖したが事實は操業を縮少し、事變中も殆んど休まず機械を運轉してゐたのであって、停戦後、事態がやゝ落つくや否や日本人紡績の開業困難につけこんで、急激に操業程度を擴張し始めた。このため、もと日本人工場に雇傭されてゐた熟練工で、支那人工場に雇はれたものも相當の數に上つた。

呪はれた資本主義・支那

二九

一方、日本人工場は、この頃、まだいつ操業を開始し得るか見込みがたゞず、毎週二回、在華日本紡績同業會は委員會を開いて、しきりに善後策を協議してゐた。

三月下旬になると、不安な氣分は一般的にやゝ薄らいだ。北四川路界隈のダンスホールもぼつゝ店を開き、まだ頑強に罷市を續けてゐるまつ暗な夜の町に、ジャズが流れ始めた。哨兵の劍光きらめく死の街の、漆黒の間に吸はれてゆくこのジャズの音を、私は「無氣味な快感」をもつて聞いたものだ。

在上海支那銀行の相互救濟機關たる「上海市銀行聯合準備會」は三月中旬に成立し、月末から仕事を始めることになつてゐたが、各銀行の提供する資産の評價等のために頭がかゝつて、まだ何の實質的な効果も持ち得なかつた。

罷市は三月一ぱいでやんだ。

四月に入るとます／＼町は明るくなつて來た。虹口界限のぞいたほか、支那人商店はすべて飾窓のブラインドをあげた。「忍苦開市、長期抵抗」——それが合言葉であつた。

日本人紡績も四月早々、各自いはす語らずのうちに、操業開始の準備にとりかゝつた。原料の

整理、生産過程の途中にあつた製品の完成、等のため工人の一部が工場に出入し始める。中旬、委員會はついに廿六日からの工場再開を決議した。

四月末には、近く停戦協定が成立するであらうとの豫想から、町はます／＼活氣づいて來た。そして、五月に入つて協定成立。——これが、表面に現はれた現象の羅列である。だがこれら理屈の奥にあるものを見究めるために、われ／＼は一應、視角をかへて見なければならぬ。

### 三、何故に「國貨提唱」は必要であるか

「一年以前、未曾有の銀價暴落は支那の對外爲替相場を極端に引下げた。一時、日本金百圓は二百五十ドル内外に引かへられ、金で月給をもらふ日本人のサラリーマンなどは大いに有卦に入つたものだ。日本で買へば一本四五錢もする煙草がバットかチエリイとほとんど變らない値段で吸へる、日本のカフエなどでは一滴何錢かにつくウイスキーが晚酌の一合みなみに、さらに飲めるといふのだから、日本からの旅行者など、有頂天になつて紙屑のやうな紙幣をバラ撒いて歩いたの。

も無理はない。

ところが、これも、今となつては、見はてぬ夢の苦い後味を残してゐるばかりだ。カブスタンといふ煙草を手近な例にとれば、日本金に換算して、一年の間に約二倍に騰貴してゐる。即ち、チエリイと同じく、一本一錢だつたものが、今ではほど二錢だ。食料品などは事變による供給不足のため、もつと、激しい昂騰を演じてゐる。

事變前においても銀價低落で支那貨幣の相場が下落したために、物價は、もちろんこれに適應して騰貴してゐた。試みに手元にある上海生活費指數を見ても昨年初から十一月までの總指數は次の如き推移を迎へてゐる（殘念ながら、國定稅則委員會から出す月報は昨年十一月末までの調査しか出來てゐない）

### 上海生活費指數

（一九二六年＝一〇〇）

一月	一一〇・九
二月	一三六・〇

三月	一三二・二
四月	一二一・三
五月	一二〇・三
六月	一二一・〇
七月	一一九・二
八月	一三〇・九
九月	一三五・三
十月	一二七・三
十一月	一二五・二

この指數によれば、かなり大幅の動搖を演じながら、物價水準は前年よりはるかに高値にあることが看取される。殊に指數を細目にわたつて見た場合、食料品以外はすべて上向線をたどつてゐることがわかる。

この物價高と爲替相場低落は、二重に支那資本家の懷を肥え太らせた。即ち、物價高は勞働

者の實質債銀を引下げ、爲替安は支那製商品の海外市場における競争力を増大することになる。まことに、近年における支那産業資本は、その手先である國民黨政權の意識的な保護育成政策と、上述の客觀的條件のために、すばらしい發展をとげた。支那綿糸の日本への輸入が日本紡績業に對する脅威として問題にされたのも昨年のことだ。しかし、かゝる支那資本の成長のかけには、あらゆる負擔をその肩に轉嫁されて餓死線を彷彿する支那人大衆と、資本の集中、集積によつて競爭力を剝奪され、相ついて倒壊してゆく中小企業とがあつたことは、列強の場合と少しも變りはない。

手元にある昨年の五月までの貿易金額を見ても、前年同期に比し輸入は二千七百萬兩を減じ輸出は七百萬兩を增加してゐる。これは擡取の強化による支那大衆の購買力減退と資本家の利潤増大を如實に眞書してゐるものではないか。

昨年九月、滿洲における日本の軍事行動がはじまつて以來支那各地に野火のやうに燃え擴がつた強力な日貨抵制運動の背後には常に支那産業資本家の手が動いてゐた。この事實は輕工業製品がその商品輸出の中に多くの比率を占める日本と、まづ輕工業部門から資本主義化しつゝある支

那との關係を顧みる時初めて事の必然を首肯し得るであらう。

いづれにせよ、今度の事變で、それまでにも上向線を辿つてゐた上海の物價は平均、さらに二、三割は騰貴したのだ。(特殊な條件のもとにある虹口附近以外での話である)購買力の萎縮は、恐らく、近いうちに再び物價水準を押しさげるであらうといはれてゐるが、貪婪な支那資本家は、救國抗日の叫びのかけに、なほ一層の勞働引下げをたくらんでゐる。彼らはかうして生産費を引下げ、日本商品に対する競爭力を増大し、更に莫大な利潤をつかみとらうとしてゐるのだ。これが結局彼ら自身の墓穴を掘ることになるのを知つてか、知らずにか……

これは、三月中旬、閻北に燃えつゝいた戰火と、夜空を顧はしてとんで來た砲彈の生々しい記憶に、まだ人の心もさゝくれだつてゐた時分、私が、「大阪毎日」に書き送つた通信の一節である。たしかに日貨抵制運動は、支那産業資本の利害と切りはなして、單なる、民族主義的、國家主義的運動と看做さるべきではない。さきにも述べたように、國民ブルヂヨアジイの手先、國民黨政權は、自國產業の保護育成政策のプログラムとして、關稅障壁の強化、國貨愛用提唱、等をとりあげた。日貨抵制運動は實にこの「國貨愛用」の反面をなすものである。

即ち、まづ輕工業部門から資本主義化の過程を辿りつゝある支那は、輕工業製品がその商品輸出のうちに多くの比率を占める日本と、どうしても尖鋭な對立關係に立たざるを得ない。この關係は、現に生産手段商品——重工業製品の輸出に重心を置き、或は將來これに重心を移し得る、米、獨、英、佛等の諸先進資本主義國における場合と非常な差違がある。したがつて「國貨愛用」の目標はどうしても日本商品に置かれ、生産費の點において、又、品質の點において、これを打倒し得ない場合は經濟外的な手段として、つひに「日貨抵制」がとりあげられるのだ。何れの國の「國產愛用」運動においても、それは、ひとしく民族主義的、國家主義的偽裝のもとに、巧みに、無智な大衆を僞瞞することによつて強行せられる。私は、かつて、支那の一左翼社會民主主義者(コンムニストではなかつた)と、この問題について、かなり長い間語り合ふ機會を持つた。

——それは、千九百三十一年の一月、雪もよひの空が涙面をつくつて、しんくと、寒さが身にせまつて来る日のことであつた。私は、同行の一人の支那人と、上海から南京へ走る急行列車の座席に向ひ合つて座つてゐた。窓のそとに田園の果樹園、蘇州の城壁が黒々と續いて、もう、車室には電燈がうす黄いろい光を滲ませてゐた。さつきから、菊の茶を啜りながら、北站の停車

場で買つた一束の新聞に読み耽つてゐたW君(これが、左翼社會民主主義者であるこの支那人の名だ)は、ふいに眼をあげて、にやく笑ひながら、私に一枚の「小報」を示した(註、小報とは普通の新聞の半分くらひの小型新聞、支那ではかなり流行してゐる。ごく小規模で發行し、多くは普通の新聞の面白いところだけを、抜萃し變形して收録した、興味本位の、新聞のエキスともいふべきものである)彼は長い間、ソルヴォンヌで經濟學を勉強して來た、いはゆる新人であるが、だぶだぶの支那服に黒いロイド眼鏡、額におちかゝる長髪をかきあげながらばつゝ語り出す様子には、みちんも、パリの匂ひがしない、しかも、革命と、戰争と、帝國主義の話になると、やけに大きな聲を出して、噴みつくように話し出すのだ——小報をうけとつた私は、彼の指したところを讀んでみた。そこには、ほゞ次のようなことが書いてある。

「國產愛用は中國でもやかましく唱へられてゐる。そのくせ、一向徹底してゐない。上海の街頭を歩く中國の青年男女を見よ。一人として舶載の品を身につけてゐないものがあるか。それに引かえ、日本人の跳舞場(ダンスホール)をのぞいて見よ。そこに踊る美しい日本娘は、こゝまでやつて來ながらなほ國產の長い袂をひるがへしてゐる。一事が萬事だ。中國の青年男

女はもつと覺醒しなければならぬ」

これがいかにも愛國の志士らしくものゝしい調子で書いてあるので、私は、そこにかへつて一種のユウモアをさへ感じたのであつた。

ところで、この記事が甚だしく誇張されてゐるのは申すまでもない。いふところの「中國の青年男女」とは、斷じて中國の労働者と農民を含めたものではない。黃包車の車夫諸君が、すべて、日本久留米の足袋會社で出来た支那靴、乃至はカンヴァス靴をはいてゐるとでもいふのか。また、木綿の労働服の生地は日本製だ、やめた方がいい、といふならば、支那人大衆の何バーセントかに、裸でゐるといふに等しい。一方、日本人のダンス・ガールたつて、決して、皆が皆、日本固有のキモノを着てゐるわけではない。しかも、彼女らは決して、「崇高なる國產獎勵の精神」を以て、そのキモノを着てゐるのではないのだ。恐らく、好色な白人マドロスの好みが彼女らにさうさせたのであらう。そのキモノの着方にして、靴と、ストッキングと、洋装の下着一切をつけた上に、ぞろりと着流したのや、洋装の上に羽織だけを引つかけたのや、甚だしいのになると、ハツビイ・コートをまとつたのや、種々難多なのだ……：

W君がこの記事を私に見せたのは、もちろん、彼が、それに、同意を表したゝめではなかつた。それは、この記事の間違ひを指摘しながら、日本における國產愛用宣傳のからくり、およびその頃行はれてゐた「國產」の刻印をめぐる資本家どもの醜い争奪戦について私が語つたのに關聯して彼が次のようなことをいつたのでも明らかだ。

——さうだ。わが國で「國貨愛用」が資本階級の利益のためにのみ唱導せられてゐることは覆ふべからざる事實だ。そんなことは、少し「意識」のある中國人なら、誰だつて知つてる。とにかく、ある國が世界資本主義の一環となつてゐる以上、純粹の國貨ばかりでの生活なんてものはあり得ない。私は、「支那の苦力はその労働によつて一つの世界政策を行つてゐる」といふ言葉を思ひ出す。

現に、私は、ごく當り前の中國の服装をしてゐるが、身につけてゐるものゝうち、純粹の國產品は數へる程しかない始末だ。

口に、「國貨愛用」を唱へつゝ、高率の保護關稅を大衆向きの輸入商品に課することは、中國の労働者農民にとつて、たゞ收奪の加重を意味するばかりだ。君の國の國產愛用運動だつて、こ

れと同じことぢやないか。この記事をもし好意的に解釋するすれば、それは、ブルヂヨアジイの彼ら自身の子弟に對する警告とも見るべきであらうか。……

汽車は、やがて黃昏の蘇州驛構内へはいつた。城壁を抜いて聳え立つ古塔、濁つた水を渡えた運河、汚れた白壁の民家、そして、蕭條たる城外の馬路を走りゆく馬車と黃包車——誰しも多少感傷的になる廢都の風物である。

窓を開いて、私のために名物松子糖を買はうとしたW君は、今降りた群衆の中に、餘り榮えないキモノを着た、一人の貧しげな中年の日本女を見つけて、私を顧みながらわびしく片頬で笑ふのであつた。

#### 四、日貨抵制運動の分析

支那の「國產愛用」の意味はまさしくW君が明快に指摘した通りだ。千九百十四年七月、歐洲大戰が勃發し、列強がやむを得ず、支那における經濟活動から手を引かなければならなくなつた

ため、支那の土着資本は、一時に、急激な發展の餘地を與へられたのだが、この時、それが最大の敵として見出したものは、同じく、この間際に乘じて南支那へ大進出を試みんとした日本資本であつた。したがつて、翌千九百十五年、例の廿一個條々約締結に反対して、廣汎に捲き起された排日運動にさへ、單なる民族主義的、國家主義的要素をのみ見ることは、たしかに、認識不足である。急激に成長した支那土着資本と先進の日本資本との尖鋭な對立——そしてこの強力な敵手に打ち勝たんとして、支那土着資本は廿一ヶ條問題で湧き立つた大衆の抗日感情を利用して、巧みにその波に乗つたのであつた。國貨愛用と抵制日貨は支那國民ブルヂヨアジイにとつて常に、ひとつの中の兩面なのである。何か、きつかけさへあれば、永續的な國貨愛用は、直ちに裏がえされて、一時的ではあるが、より効果的な日貨排斥運動となるのだ。

かうした見方から過去における日貨排斥運動を一通りふりかへつて見よう。(排日運動の起源としては千九百三年の辰丸事件、および翌年の安奉綫問題に端を發するものが數へられるが、こゝでは觸れずに置く)

千九百十五年の次には千九百十九年が来る。

これは、普通五・四運動といはれ、山東牛島回収不能問題に端を発したもので、まづ北京大學生の曹汝林殴打、駐日公使、章宗祥の殴打等の事件が起り、急進的な學生を先鋒として廣汎な排日運動が展開された。これは、丁度、京漢鐵道と唐山一帯の炭礦において組合運動が始まり、近代的な労働運動が支那において、その第一歩を踏み出した年であり、支那土着資本がアメリカと東洋を見舞つた「戰爭景氣」の夢からまださめ切らなかつた時代である。

次は千九百廿三年、旅順、大連回収問題を契機として起つた。この年には孫文派の革命軍が廣東を占領してこゝに大元帥府を置いた。また、京漢鐵道の從業員が直隸軍閥の巨頭吳佩孚の同鐵道總工會成立大会上下した血腥、い彈壓に反対して大ストライキを決行し、支那労働運動史上に有名な、流血の一、七紀念日を刻したのもこの年であつた。この時の排日は、五、四運動が國民ブルデヨアジー、及び急進小ブルデヨアを主體とし、日貨排斥、國貨提倡、國恥條約取消し等をスロトガンにかけたに比して、新興勢力たるプロレタリアートが公然として登場し、「排日」が廣汎な「反帝國主義運動」の焦點としてとりあげられた點に重大な差異が認められる。これは、國民黨が次第に共產黨に歩みより、翌廿四年一月兩者が提携して、國民ブルデヨアジーから

プロレタリアート、農民までが民族革命のために聯合戦線を（一時的にではあつたけれど）張つたこと、照應する。

廿三年のあとは廿五年の排日が来る。

この時の排日は、さきにも述べた、有名な五、卅事件を原因とするものだ。この運動は、むしろ、廣汎な反帝國主義運動と見るべきであるが、それは當然、事件の發端が日本人紡績工場のストライキであつたこと、および事件をこれだけにまで擴大したのは、イギリス人警官の命令によつて學生デモ隊に銃火が浴びせられたためであつたこと、の故に日本、およびイギリスに對して最も鋭く燃焼したのであつた。全市ボイコット、労働者の總罷業等、運動の方方法は、プロレタリアートが聯合戦線において重大な役割を持つてゐただけ、非常に執拗、果敢であつた。

この次は千九百廿八年五月の濟南事件の勃發を原因とする全國的な排日運動だ。この前年にはいはゆる四、十二事件があり、蔣介石は一切の革命的民衆團體を弾壓し、一舉に國民黨からプロレタリア的勢力を排除して南京政府を樹立してゐた。したがつてさきに結成せられた民族革命聯合戦線はすでに破れてゐたのだ。

しかし、この排日運動については、清黨運動によつて國民ブルジョアジーの完全な手先となつた國民黨が、とにかくも政權を握つた直後にそれが起つた點を特に注意しなければならぬ。國民黨が顯然この運動を指導してゐたこととこの間の事情を顧みれば至つて當然なのだ。

廿八年の運動はつひに翌年にまで持ちこされ、南京、漢口に於いても非常に執拗につづけられた。ことに、久しく革命勢力の中心地であり、國民黨左派および共產黨によつて樹立せられた武漢政府がつひ、一年餘り前まで存在してゐた漢口において「排日會鐵血檢察隊」が日本租界奪取を計畫した程、運動が熾烈であつたことなどは非常に暗示的である。

ところで、いよいよこんどの排日運動だ。

その發端は、千九百卅一年七月に勃發した萬寶山事件、それに引つゞいた朝鮮事件であつた。七月十三日、上海には各界反日援護會委員會が組織され日貨の排斥、非法なる稅金賦課又は日貨の抑留、沒收等が行はれ始めた。從來の排日では、國民ブルジョアジーからプロレタリアトに至るまで、共同戰線を張つてゐた場合にしても、日本との間の商取引は表面、嚴重に停止されてはゐたが、裏ではある程度まで、種々なカムフラージのもとにこれは續行せられ、ことに、

排日のすんだあとはこれによつて供給不足になつた商品の賣行はすさまじい勢ひで増大し、日本資本は、優に排日による損失をとりもどし得たものだ。此度びの排日も九月十八日に滿洲事變が起るまで、即ち、「反日援護會」が、「抗日救國會」と看板を塗りかへるまでは、その効果も從來のものと大差なく、日本資本もその前途に對してかなり樂觀的な見透しを持つことが出来た。これは、昨年中における、日本と、上海を中心とする南支那との貿易額を見ると一番よくわかる。

即ち、

### 日本よりの輸入

日本への輸出

百萬圓

一月	一〇
二月	一八
三月	一〇
四月	五
五月	六
六月	九

五 月  
六 月  
七 月  
八 月  
九 月  
十 月  
十一 月  
十二 月

一 月  
二 月  
三 月  
四 月  
五 月  
六 月  
七 月  
八 月

四 月  
五 月  
六 月  
七 月  
八 月

しかも本年一月、上海事變が起つてからといふものは、毎月百五十萬圓の輸入があるかないかだ。この表によれば、日本よりの輸入が急激に減少し始めたのは、正確に九月以降のことである。それまでには、「日貨抵制」も殆んどその効果をあげてゐない。支那からの對日輸出は、排日にもかゝはらず、大して減少もしてゐないが、それは輸出品の主なものが穀、棉實粕、菜種等、たゞ日本をのみ顧客とするものであるため、抗日會の壓迫を、どうにかすり抜け、引つき積

み出されてゐたからである。

もちろんこれも事變中は全滅の形だつたが、戰塵おさまるや、直ちに、或は外國船によつて、或は荷主を外國人名義にしてばつゝ輸出され始めた。

大だい、反日援衛會といふ名稱は、いかにも露骨に運動の主體がどこにあるかを物語つてゐる。

いふまでもなく、それは、國民ブルジョアジーの手に操られてをり、この限りにおいて、「國貨愛用」の提唱と相呼應する自國産業擁護策であつたのだ。しかし、滿洲事變は、この運動をより、強力ならしめる契機となつたとともに、廣汎な支那人大衆の排日感情を煽揚することによつて、運動の性質をまで一變させてしまつた。一つの企業としての排日は、こゝに民族的な運動（全般的にはなほ階級的な運動とはいへない）としての排日に轉化したのだ。それともに、その主體には、國民ブルジョアジーの好むと好まさるとにかゝはらず、プロレタリアートの勢力が、強力なそのエネルギーを以て、割こんで來た。

「打倒帝國主義」の運動の焦點としての排日運動——プロレタリアートのこの戰線への參加は、

かうした看點からなされたのであつて、決して、國民ブルデヨアジーを擁護するためではなかつた。もつとも、この戦線には、國家主義的な、或は、ファシスト的な分子も介在し、資本主義「支那」の詭拂ひを、意識的にか、無意識的にか、つとめてゐたことは事實であるが、こゝではそれは一括してすべて、國民ブルデヨアジーの側に立つものと見て差支ない。だから同一戦線に立つ相互に矛盾せる要素は、たゞ、ブルデヨアジーとプロレタリアートの二つに要約し得る。この二つの要素は、資本主義「日本」に對する限りある程度まで行動をともにすることも出来たが、もとより、それ自身が相互に何よりも鋭い對立關係に立つてゐるため、戦線はいつも亂れ勝で、常に分裂の危険をはらんでゐた。

したがつて、排日のかけに日本への商品賣込みや、日本商品購入が、ひそかに行はれたとしても、これを以て、排日運動一般を、あまく見るのは早計である。ある程度までの排日は、國民ブルデヨアジーにとつては、それ自身一つの儲け仕事でもあるのだから、そこには當然、打算が働く。したがつて、場合によつては、かうした「密輸出入」も行はれるわけだ。しかし、プロレタリアートの側の排日は打算を超越してゐる。運動にたとひ、昂揚と退潮があるとしても、それ

は戦略的な顧慮からなされた臨機の處置にすぎず、この戦線が完全に撤収せられる場合は、今のところ、ほとんど想像も出來ない……。

さて、反日援僑會が抗日救國會と名を改めて以來、運動の目標も「日貨抵制」から「對日經濟絕交」に移つた。從來の排日運動においては、たとひ、そのかけにプロレタリアートの一打倒帝國主義の運動があり、經濟絕交を意味するスローガンがかゝげられたにしても、具體的な手段は結局日貨の排斥と國貨の提倡があつた。今度の運動の如く、現實に、日本人と金錢の授受をなす取引は、新規と、既存とを問はず、一切これを禁じ、日本人の使用せる支那人を脅迫退職せしめ、さらに、日本人に対する耀道を斷ち、外國商人までも牽制して、日本と反対の側に立たしめんとしたほどの例は未だ曾てない。それは、日清戰爭以來、日本が支那に對して、昨年の九月十八日以後の如く、決然たる態度に出たことが「未だ曾てない」と見事に照應するものだ、

——黃包車に乗つても、勝手なだけのドンペイ（銅貨）をたゝきつけ、それで車夫が、四五のといへば、たちまちビンタをやしつけて、それで大いに國威（？）を發揚したと考へた頃の、「日本男子」の意識程度からいへば、恐らく、こんどの上海事件で、あれだけ、こつびどく支

那をやつして置けば、排日などけりと忘れてたちまち、日支親善の聲が全國に湧き上るであらう、などといふおめでたい期待も、至極もつともだつたかも知れぬ。いや、現に、こんな氣持でゐた日本人も皆無ではなかつた。

しかし、停戦後、約旬日、私は試みに上海目貫きの南京路を歩いてみたが、まだ、日本人の姿は實に寥々たるものであつた。國際聯盟調査員の來港をひかえて、さすがにあくどい排日ビラははがされたが、罷市を續けてゐる商店の、とさされた飾窓には、「われらはたゞ正義を欲するのみ」とか、「支那は、忠實に九ヶ國條約を守つた」とか、逆の効果をねらつた宣傳ビラがベタベタと貼りつけてあつた。先施公司、永安公司、新公司など大百貨店が軒をなべたあたり、今まで幾度かバリケードがきづかれ、機關銃の火の舌が街上の群衆をなめとつたこの界隈まで來ると、もう、日本人らしいものはかけも見當らぬ。廣東系財閥の經營するこれらの大百貨店は、まだ、鐵柵をめぐらして公然と商賣はしてゐなかつた。のどかな日ざしにも拘らず、あたりには何かしら、無氣味な空氣が漂つてゐた。四馬路へゆくと、この空氣はます／＼濃厚だ。佛租界や城内（純然たる支那人町）では、停戦後も日本人傷害事件が三、四あつたくらんで、ひとり歩き

は危ない。南市方面からは敗殘兵や便衣隊が續々流れこんで來るといふ噂もあつた。

その後暫くたつた三月十八日、パリ・コムミニンの記念日には、市内三ヶ所に爆竹がとどろき、五彩の煙草が散つた。——共産黨のデモだ。「帝國主義の手先、國民黨政權を倒せ、支那分割のための使者、聯閥調査員を追ひ返せ」そして、しまひにはきまり文句の「打倒日本帝國主義」「擁護中華ソヴィエート臨時政府」だ。日本人が大手をふつて歩けるのは、虹口界限とバンドのオフィス街だけになつてしまつた。

とにかく、いつまでも町中に低迷する、日本人にとつて不安なこの空氣、戰ひがやんて春が來たにも拘はらず、どこか、重く沈んだこの鬱閑氣こそ、こんどの排日がいかに、今までのものと性質を異にし、その程度もはるかに深刻であることを裏書きするものにほかならぬ。

日本人紡績の工場閉鎖は、一月末までの賃銀をもらつただけで一文の失業手當も支給されない工人約六萬を閉め出した。

彼らの多くは田舎へかへつたといはれたが、なほ、失業者として、上海の場末で餓死線を彷徨してゐたものも相當多數に上つた。田舎へかへつたものにしても、田園は旱害と水災と戰争で荒

れ果て、彼らは完全に過剰労働力であつた。したがつて彼らが戦争氣分がやゝ落つくや否や、もと雇はれてゐた工場に、いつ操業を再開するかを聞き合せて來たとしても、それは、決して、彼らが日本人資本家に對してもはや何の惡感情も持つて居らず、あくまで從順なロボットであることを物語るものではない。彼らは、何を置いても生きなければならなかつたのだ。だから、この事實だけを見て、事變が支那大衆に與へた大きな衝動を過少に見つもり、彼らの抗日感情を根底なき一時的興奮と斷するのは、餘りに輕率である。

## B、二つの抗日戰線

### 一、ブルヂヨア的抗日戰線の展望

問題は、この執拗な排日運動は、いかに組織されてゐたか、に移る。――

一見、運動の中心には國民黨政府が立つてゐる。もちろん、政府は國際間の紛糾を恐れて公然と排日命令を出したわけではなかつた。むしろ、在留日本人的生命財産には直接保護を加へる、と公言してゐた位である。ところが蔣介石は、しばく排日を煽動するかの如き言辭を弄し、國民黨（それは政府と不可分な關係に立つ）は抗日會を組織せしめて、直接排日を指導した。試みに蔣介石が公開の席上でなした煽動演説の要旨を拾つてみるとさつと次のようない調子だ。

一、千九百卅一年九月九日軍官學校に於て。

二つの抗日戰線

「國民革命完成のためには帝國主義を打倒しなければならぬ。石友三の叛亂、閻錫山の回省、廣東派の跳梁は全部日本帝國主義の使嗾によるものだ。故に、われらは、まづ日本帝國主義を打倒しなければならぬ」

二、同年九月十四日、中央紀念週に際して。

「江西の共匪は水災による混亂に乗じて跳梁し、廣東偽政府は湖北に進出し來り、今や長沙は戒厳令下にあつて、人心は極度に動搖してゐる。今回、廣東軍が敢然として北進し得たのは、さきに、陳友仁、劉紀文等が日本へ行つた時日本政府および日本浪人と結托し、日本政府は廣東に武器を供給して中國の平和を攪亂せんとたくらんでゐるからである。なほ、陳友仁等の渡日の目的は借款及び武器購入の外一つの使命をもつてゐた。即ち日本の承認を得て、ロシアと結び、ソヴィエート政府の制度を廣東に行はんとするものである」

（廣東派を「日本帝國主義」の手先だと断るのはいゝとしても、日本が廣東派を支援してソヴィエート政權を樹立せしめようとしてゐる、といふに至つては、すでに、デマの域を通りこして滑稽である）

### 三、同年十月十二日紀念週において。

「現在の日本との關係については、明日開かれる國際聯盟理事會で妥當な解決を謀り、極力開戦を防止する積りである。政府は、日本が聯盟の決議を拒み、何ら正當なる理由なくして中國の領土を占領せるに對し、聯盟が適當な制裁を加へるであらうことを確信するものである。政府は、中國が一聯盟加盟國であるから、聯盟の規約のもとに聯盟に訴へたのである。これは、かくすることが聯盟の一員としての中國の義務であるからであつて、斷じて、いはゆる保護を求めるために訴へたのではないのだ。吾人は聲明する。政府は出来るだけの忍耐はして來た。中國は聯盟と不戰條約を尊重した。併し、もし聯盟と不戰條約締結各國がその神聖なる義務を擁護しないなら、中國は國際規約の威嚴と神聖な天理、世界平和擁護のため、半世紀にわたり、國を破産させらるような最大の犠牲を拂つても日本と一戦を交へるに躊躇しない。……」

これらの壯烈な言葉を聞けば、蔣總司令が、あの苦味走つた顔に、悲壯な決心のいろを浮べて今にも排日運動の先頭に、或は、日本帝國主義征討軍の陣頭に立ちさうな氣配がする。しかもその口の下から、「在留日本人の生命財産は責任をもつて保護する」と公言する彼である。事情を

知らずに、この二つの態度が同じ人間によつてとられるのを見た者は、恐らく、蔣介石といふ男は、早發性痴呆症か狂人か、とさへ思ふであらう。だが、この矛盾こそは、蔣介石、および、彼を主班とする國民黨政府の立場の矛盾をそのまま表現したもので、少しも不思議がるには及ばない事實なのだ。これが、さきに私が「一見、排日運動の中心には國民黨政府がたつてゐる」と、いつた所以なのである。

蔣介石の口吻を借りれば、「廣東派は日本帝國主義の手先」なのであるが、かくいふ蔣介石も常に、あの、又はこの、帝國主義國の手先であつた。口先ではいかにも、支那労働者農民（彼は、「國民」といふ莫然たる名稱を用ひ、いつも階級關係を抹殺しようとする）の味方であるかの如く裝つてはゐるが、その本質は、すでに千九百廿七年四月十二日、彼が上海の労働者、彼の北伐軍が上海に入城する時まで、同じ戰線に立つて北伐を援けた、その上海××的労働者に對して下したすさまじい彈壓によつて、白日のもとに曝露せられたはずだ。しかし、意識の低い支那人大衆のうちには、まだ彼に對して若干の信頼をかけてゐるものもある。一方、永年彼をその番犬として飼養して來た國民ブルヂョアジイも、度びくのしくじりに愛憎をつかし

ながら、まだ、何といつても彼に對して多少の未練ももつてゐる。蔣介石にしても、この情勢を萬更知らないわけはない。そこで、彼は、ある時は、決然たる態度を以て排日を叫び、意識の後れた小市民や労働者農民のうちに僅かばかり残つてゐる彼への信頼をつなぎとめ、一部國民ブルヂョアジイの御氣嫌をとり結ばうとするかと思ふと、ある時は、「日本居留民の保護等々」と彼のいはゆる「日本帝國主義」に秋波を送り、ある程度以上の排日には絶対に反対する他の一部の國民ブルヂョアジイに媚を呈するのだ。この故に蔣介石、ならびに國民黨政府が全體としての排日運動を指導してゐる、といふのは正しくない。彼及び彼の政府が、本質においては國民ブルヂョアジイの手先である以上、その指導する運動も、ブルヂョア的な排日運動の範囲を出でぬ。だが、こゝでは一應、政府、その所屬機關、地方官憲、および黨部を中心とする排日運動の組織を見るにしよう。この組織自體は、たとひ、政府とほど性質を同じくする黨部の指導によつて作りあげられたにしろ、それが、對蹠的な性質を有するプロレタリアート的な運動の足がかりとなつたことは、動かすべからざる事實であるから……。

千九百三十一年、九月二十二日、ちやうど滿洲事變勃發の直後、南京中央黨部を中心とする各

種の團體は、「抗日救國大會」を開き、對日開戰を意味する七項を決議、これを全國に通電した。同日、首都南京における全黨員大會は日本に對する對策を協議し、討論の結果七項の行動綱領を決定したが、この中には、對日開戰、對日永遠經濟絕交等が含まれてゐた。三十日至つて、南京中央黨部、宣傳部は對日宣傳標語二十四ヶ條を作成、各級黨部に頒布して使用せしめることにした。そのうち排日運動を激勵し、經濟絶交の斷行を煽動するものをあげて見れば、

「日本帝國主義は吾人の不俱戴天の仇である」

「日本帝國主義は公理に反するもので人類の仇敵である」

「反日運動を激勵し、經濟絶交を勵行せよ」

「全國同胞一致して日本帝國主義と最後の決闘をする準備をせよ」

「野蠻、無理、慘暴、慘酷の日本帝國主義を打倒せよ」

等々、實に物凄い。さすがに文字の國である。

中央執行委員會はまた、九月廿四日、義勇軍教育綱領を決定、公布したがその綱領中には、「全國高中以上の學校は一律に青年義勇軍を組織し、初中以下の各校は一律に童子義勇軍を組織して

軍事訓練を施し、三民主義の信奉、智勇忠信、雪辱救國、政府援助並びに終生日貨を用ひず等、五箇條の規律を宣誓せしむ」といふ條項があつた。

國民政府教育部も、以前から、國定教科書に排日事項を掲載して居り、これは日本にも翻譯されて誰知らぬものもない事實だが、九月二十三日、さらに國立各大學、各省市の教育廳および教育局に打電して、「日本本次の侵略政策の研究、教師の抗日講演、學生の抗日講演隊の組織」等を命じた。政府鐵道部は早くより國產品の輸送を優遇して日貨抵制を援助し、天津航政局に至つては、十月十四日、抗日救國會の決議を公然支持してこの遵守を、その管下の船舶業者に命じてゐる。地方官憲としては、安徽蕪湖縣知事が黨部の決議だといつて、日貨不買、使用日本人の罷免抗日會規定違反者の公權剝奪等を示達した事實がある。

だが、最も典型的なものは、何といつても上海における排日運動の組織だ。

上海市黨部はすでに九月十一日、宣傳會議において抗日救國講演隊を組織し、その翌日、特別會議を開いて、革命手段を以て日本軍占領地を奪還すること、および商工學界の抗日運動の指導、工作原則の決定等を決議した。

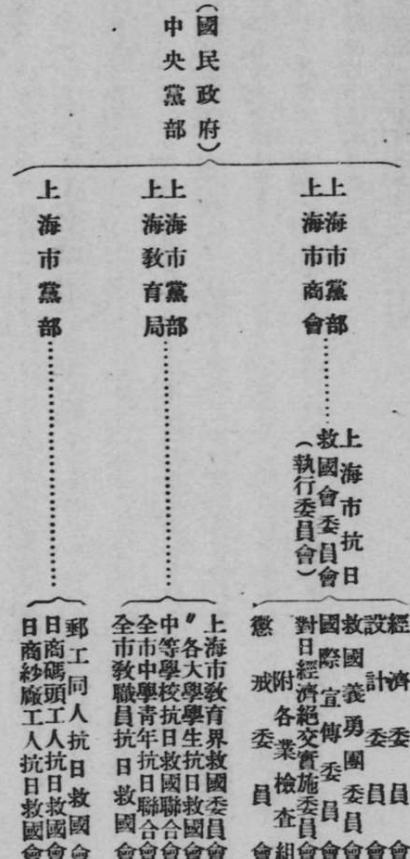
宣傳會議には明かに「全國同胞に對し一切の對日關係斷絶を勧告す」といふ條項があり、また特別會議のそれは「學生の抗日運動を起こすため各學校に學生抗日救國會を組織す」といふ規定があくまである。そして、特別會議の決定した「各界抗日救國作業原則」は次の如きものである。

## 一、學生作業原則

- イ、和平統一の擁護
- ロ、經濟絶交の勵行
- ハ、宣傳作業に努力せしむ
- ニ、學業の勉勵
- ホ、軍事訓練を施す
- ヘ、一切の紛糾を避けしむ

二、工人會作業原則、右のイ、ロ、ハの外に「作業効能増進」の一項を加ふ。(このうちに、意識の低い労働者の注意を外にむけることによつて、「國家非常時」といふ口實のもとに更に搾取を強化せんとする國民ブルジョアジーの意圖を見よ——筆者)

以上の一般方針によつて、國民政府を背景とし、國民黨中央黨部を中心とする、整然たる排日運動の組織が構成せられた。これを表示すれば、



いふまでもなく、これらは、九月廿二日の上海各團體代表大會の決議によつて、「反日援護會」がより廣汎な、「抗日救國會」に再組織せられるとともに出来上つたものである。その執行委員會は、事務所を、上海市商會内に置き、委員六十名、このうちから常務委員十一名を出してゐるが、これら委員の選定はすべて市黨部の指示によるもので、工業、商界、農界、市民聯合會、國貨維持會、華僑團體、教育界、辯護士會、新聞界、婦人會、その他各種團體の代表を網羅した非常に大仕かけなものだ。だが、常務委員の顔ぶれをながめてみると、一人として、眞にプロレタリアートの勢力を代表するものはゐない。すべて有力な國民ブルデヨア、或はその代理人たちである。即ち

王曉籁、上海市商會執行委員主席。

康治卿、前上海總商會長、現上海工部局參事會員。

王延松、上海市商會執行委員、上海市黨部指導委員。

后大椿、中央黨部委員、工會代表。

林康候、全國商會聯合會委員主席、上海工部局委員、全國銀行公會理事。

胡庶華、國立同濟大學校長、中國工程學會會長。

陶百川、上海市黨部委員、教育會代表。

方椒伯、上海市商會執行委員。

陳霆銳、上海辯護士公會代表、上海工部局委員。

陸京士、工會代表。

傅德衡、郵務工會執行委員。

執行委員會の下には、各種の特殊委員會がある。經濟委員會および設計委員會は、「反日援護會」時代から繼續してその機能を營んでゐたが、救國義勇團委員會、國際宣傳委員會、對日經濟委員會、およびこれに附屬する各業檢查組、懲戒委員會は、「抗日救國會」と看板を塗りかえて後組織されたものである。また、執行委員會の内部は、秘書役、保管部、宣傳部、調査部、檢查部、偵察部の一處五部に分れ、各々、正副主任を置いてゐる。

いづれにしても陣立ては實に堂々たるものだ。委員の顔ぶれを見ても、すべて資本主義支那第一流の「名士」がすらりとならんである。だが、この顔ぶれ、および運動の本據たる執行委員會

事務所が市商會に置かれてゐる事實は表面に現はれてゐる排日運動が誰の手に操られ、誰の利益のために行はれつゝあるかを明かに物語つてゐる。

ところで、この大がかりな組織を、まだ上海において、共産黨が現在の如く地下に追ひこめられて、國民ブルデヨアジイからプロレタリアート農民に至るまでが民族革命のために一つの共同戦線を張つてゐた頃に起つた五・卅事件當時の排外運動（その焦點は排日、排英であつた）の組織と比較して見よう。

この時には、南京路の流血事件を轉機として運動は急速に進展し、學生會、總工會、商工學聯合會等が主唱者となり、總商會を道づれとして、あの頑強な、上海全市にわたる泥業泥市を決行したのであつた。

この場合、運動の中心にあつた團體は、

上海學生會、上海總工會、各路商界聯合會、中國海員工會、大英煙草司職工同志後援會、商務工會籌備處、教職員校園同志會、上海洋務職業會、洋務職業工會、洋務職工協會、西崗洋務職工會、工商學聯合會、全國學生會、浦東工人聯合會、上海各國團體外交聯合會、上海印刷聯合會、工商學聯合會、全國學生會、上海學生會、上海各路商界聯合會、全國學生會、上海學生會をその成員とけられたもので、上海總工會、上海各路商界聯合會、全國學生會、上海學生會をその成員とした。——たしかに運動の表面に踊つたものは、これらの團體にちがひはなかつた。しかし、運動の背後には、明らかに中國共產黨の手が動いてゐた。

それは、あらゆる彈壓にもかゝらず、最後まで執拗に鬭争したのが、共產黨の指導力の最も強かつた總工會と學生會であつたことによつても知られる。また、國民黨も、「就露容共」政策をとつて以來、中國共產黨と緊密な關係を保持してゐたのであるから、當然、この場合にも、共產黨の手が動いてゐた。

産黨と同じ方向に向つて働きかけてゐた。打倒帝國主義、打倒軍閥のスローガンは、「共同戰線」の全線にわたる呼びあつたのだ。この點ブルジョア的排日運動が表面に立ち、運動の表面的な組織がブルチヨア的要素のみによつて構成せられてゐる昨年來の排日とは非常な相違がある。もちろん「日本帝國主義」の側からは、敵の陣營は、右から左まで一つの線上に展開してゐるかのように見えるであらうが、この外觀的な「共同戰線」の内部にはあさやかな對立關係が潜んで存在してゐたのだ。そして、それは、五・卅事件の二ヶ年後、蔣介石のクーデター、いはゆる四・一二事件の結果、國民ブルチヨアジイと労働者農民が決然と袂を分つて以來、ます／＼尖鋭化して來た對立關係にほかならぬ。

したがつて、五・卅事件の場合には、運動を一つのものと見て差支へなかつたが、この度の排日においては、どうしても、ブルチヨア的な運動の下にある、もう一つの、プロレタリア的な運動に眼をそゝがなければならない。……

## 一、抗日救國會の戰術

次には、一應、昨年九月、滿洲事變を機として、上述の如く、大がかりな陣立てをとゝのへた排日救國會が、具體的には、いかなる「暴狀」を敢てしたか、を見よう。

各界抗日救國の作業は、さきに列舉した、上海市黨部特別會議の決定にかかる抗日作業原則にもとづいて決議實行されるのだが、具體的な一々の行動は、實に、種々雑多である。試みに、これを、上海日本人商工會議所の調査に基いて分類してみれば、次の六項目に要約される。

- 一、日貨排斥
- イ、日貨を買はず
- ロ、日貨を賣らず
- ハ、日貨を運搬せず
- ニ、日貨を使用せず

二つの抗日戦線

六八

二、日本人との一切の取引の禁止

イ、日貨に限らず、一般商品につき日本人との賣買を禁ず。

ロ、日本人との銀行取引を禁ず。

ハ、日本船舶に乗り込み、又は貨物の積込荷卸をなすことを禁ず。

ニ、日本人の倉庫を用ひず。

ホ、日本人水先案内、仲買人、辯護士等を用ひず。

ヘ、日本人に雇傭されず。

三、外國商人に對する掣肘

イ、外國商人との契約品を日本船に積込むことを禁ず。

ロ、外國商人が日貨を外國品として取扱ふことを禁ず。

四、既存取引の破毀

イ、既存契約の不履行

ロ、債務の不履行

五、日本人の營業妨害

イ、使用支那人に對する退職強制

ロ、出入商人の監視掣肘

ハ、通信、交通、運搬の妨害

六、日本人の生活に對する脅威

イ、食料品、日用品等の供給を斷つ

ロ、交通住居の不安

ハ、各種示威侮辱の宣傳

ニ、家庭使用支那人の退去脅迫

これにつき具體的な事實を二、三あげてこの「要約」を裏づけてゆこう。

まづ、日本資本にとつて最も重要な商品綿糸布の場合だ——從來の排日運動では綿糸は必要品として特例を設け、千九百二十八年の濟南事件を原因とする排日の時のときは、買手たる支那人が救國基金なる名目のもとに綿糸一箱について太番手五兩、細番手七兩半を反日會に納付す。

れば自由に取引することが出来た。また、昨年七月、萬寶山事件を原因とする排日の場合も、「排日援脅會」は八月十七日、實業基金制度を設けて、綿糸一箱につき太番手七兩半、細番手十兩を納めたものは取引および荷渡の自由を許してゐた。ところが、九月に入つて運動が急に激化して來るとともに、實業基金制度は廢止され、基金納入とともに發給せられてゐた貨物通過證は有効期限を九月二十六日限りと定められ、つひに日本人との綿糸取引は全く禁止されてしまった。

綿糸布の出荷は使用苦力の迫害によつて不能に陥入り、船への積込も、綿乗組支那人のサポートデュによつて妨害された。日本人紡績の專屬紡業者のうちには反日會の強制によつて仕事をやめるもの多く、一般の支那人紡業者も日本人關係の貨物を取扱はず、通關業者もまた日本綿糸布の取扱ひを停止するに至つた。

今までの排日では、既約定期に對してはいつも、取引延期又は取消について何の意志表示もせず、運動が下火になつた頃の市況によつてもし舊約定期が有利なら約定期を履行し、不利ならば排日を不可抗力として取消を要求するのが利にさとい支那商人の常套手段であつたが、この度の排日では、いきなり契約の取消又は引取延期を申込んで來るものが相當あつた。しかし、これも、

支那人側が、運動が長期にわたつて續けられるであらうことを豫想したためにすぎず、即ち

彼らの「抗日救國」の決意のつよさを裏書するものではない。

また、華商同業會は商店使用人又はプローカー等の玄人より成る日貨検査員を派し支那商店々頭、倉庫、埠頭、水上、路上、停車場等に嚴重な監視網を張つた。違反者は直ちに反日會に召喚されて拘束せられるのだ。しかも、日本商館内、又はそれと取引ある支那商店内の使用人中には多數のスペイが入りこみ、抗日會決議違反行爲を監視する。こうして摘發された違反行爲に對しては「懲戒辦法」なるものが適用せられることになつてゐる。もちろんこの辦法は、威嚇を目的とするものであるが實際に適用せられた場合もかなりあつた。辦法の内容は

一、貨物の沒收

二、警告の公開

三、財産全部又は一部の沒收

四、拘禁して衆人に示す

五、市中引廻し

二つの抗日戦線

### 六、賣國奴の衣服を着せ公衆の面前に晒す

七、其他懲戒委員會が必要と認めた方法

さらに、各業公會は、抗日救國會の決議に基いて検査隊を組織し同業者の店内、および倉庫にある日貨を一々取調べ封存した。この封存日貨は上海變直後八千萬乃至一億兩以上に上り、モラトリアム撤廃の大障害となつたものだ。このほか、日本人の使用する支那人に對し、主だつたものには個々に、その他のものには「一同」宛に辭任勧告書が舞ひこんだ。このため、使用支那人の退職缺勤、遅刻、早引等がしきりに起つた。

電報の延着などはまだやさしい方で、電信送達紙に「倭賊如此居心、同胞不快醒」とか「醒！國難臨頭、共起奮闘」などといふ排日スタンプが押れてゐた場合さへさらにある。そのうちに支那人買辦のうちには、わざと辭職を新聞紙上に聲明するものが出て來た。例へば、中には「辭職聲明」と二號位の活字で一行に書いて、その下へ小さく「啓者、鄙人服務三井並非買辦地位僅任糖部職務已於九月卅日自行辭退所有未了事宜亟當辦理結束特此聲明希公鑒何某謹啓」などといやに譲過したものもあつた。これが「申報」などといふ上海第一流の新聞

の廣告欄に、しばく現はれたものだ。……

在支日本人企業の王座を占める日本人紡織工場もまた、同じ悩みを悩まなければならなかつた。工人の間における排日運動の浸透は相當深く、なかには工場に出入する支那人を、「日貨を取扱ひ日本人に雇用せられてゐる」といふ理由でぶんなくつたり、日本人幹部の住宅に投石したりするものが現はれた。通信、電話は妨害され、原料棉花の輸送は經労働者の抗日サボターデュのために阻害され、製品は賣れず、支那人銀行および錢莊は取引を拒絶したため勞銀など全部、外國銀行に依らなければならなくなつた。中國銀行さへ、某工場に對して從來やつてゐたドル銀實質と通帳を拒絶した位である。

しかし、とにかくも操業は、上海事變勃發直前まで續けて居り、今年の一月末軍事行動の開始と相呼應して一齊に工場閉鎖をやつた位だから、この激しい排日運動にもかゝはらず、なほ、操業繼續が損失を意味するほどにまで、企業の基礎を脅かされてゐたわけではなかつたらしい。（だが工場閉鎖は、排日運動を理由とし、工人には一文の失業手當も與へなかつた點を注意すべきだ。これは後に見る如く、共產黨が、失業工人に働きかけるために恰好の足がかりになつたの

であつた)

金融方面においても、華商銀行公會は十月一日、日本人との取引中止を決議し、買賣に對する辭職の強要、爲替取引の停頓、日本人に對する銀元の賣却停止、支那人の日本人銀行に對する預金の引き出し、當座小切手の支拂拒絕等が相ついで起つた。錢業公會もこれにならひ十月一日總會を開いて次の三ヶ條を決議した。

- 一、日本人との取引を一切禁止すること
  - 二、日本人のために莊票を發行せざること
  - 三、既發行の莊票は支拂差支なきこと
- しかも、莊票には「對日永遠經濟絕交」などといふ排日スローガンのスタンプが押されてゐる始末だ。この金融の脈管の切斷は、日本資本にとつて、何よりも痛烈な打撃を與へた。しかし、眞疑の程は保證の限りぢやないが、つてを求めてゆけば、銀元を買入れ、莊票の發行をうけるのも決して不可能ではなかつたといはれてゐる。これを事實とすれば、ブルデヨア的な排日運動の正體が、こゝにも、ちらりと、その片鱗を現はしてゐると見ることが出來よう。

### 三、戰線内の内紛悲喜劇

もとノーブルデヨア的な運動である「抗日救國會」中心の排日も、しばく、國民ブルデヨアジイの利益を侵害して内輪もめを演ずることがあつた。もちろん、プロレタリアート側の勢力が大衆の排日感情の昂揚に乗じて、運動の指導権をかすめとつた場合には、當然、その矛先は國民ブルデヨアジイに對しても向けられるわけであるが、國民ブルデヨアジイ自身の陣營内においても、この運動をめぐつて、錯綜した利害關係の對立が表面化し、諸種の矛盾撞着がしばく零呈せられたものだ。この一例として、いはゆる「協大祥事件」など是最も典型的である。ほかにも、「抗日會の暴狀」に對する怨嗟の聲は支那人間に幾度びか起つたが、この事件ほど紛糾したものはちよつと、稀であつた。……

協大祥といふのは、フランス租界と支那街の境、小東門にある大きな太物商で、日本製加工綿布の販賣高では、支那商店中第一と稱せられてゐる。一日平均賣上げ一萬五千ドルといふか

ら、相當手びろく商賣をやつてゐたわけだ。この通りは、昨年十月初旬、この商店の店員のうち、血の氣の多い連中が市商會で決議した救國義勇軍へ入隊を希望したのに對し、總經理の姚が、毎朝教練に出られては仕事に差支へるといふ理由で、これら店員の申出を以べなく拒絕したのに初まる。姚のこの態度に憤慨した店員たちは、直ちに、店で封存してゐる日貨はほんの一部分で、實は、毎日多量の日貨を賣つてゐる对抗日會に密告したものだ。これを聞いた抗日救國會検査員の一隊は、時を移さず突風の如く店を開ひ、嚴重な検査を行つた上封存未済の多量の日貨に嚴封を命じ、つひに、姚に向つて張等の提出をせまつた。ところが姚は、これを断乎として拒絕し、そこにある日貨はすべて毎日運動が初まる前に買入れたもので、封存せられる理由はない、と抗辯した。これを聞いた検査隊の連中の面上には、にはかに殺氣がみなぎつて來た。そこで、おそれをなした姚は、ちよつと待つてくれと帳簿を持って二階へ上つたまゝ、どこかへ妻をかくしてしまつたのだ。

階下で姚の返答を待ちくたびれた検査員は、そのうちに、些細な言葉のゆきちがひから居合した店員と喧嘩をはじめ、急を聞いてかけつけた租界警察の手で検査員四人と喧嘩相手の店員は檢

束せられて行つた。検査を免れた検査員は、大いに激昂して直ちに抗日會本部に急を轍じた。めたちまち五十餘人の會員が店頭に殺到し、協大祥の店内にならべた商品は、日貨、外貨を問はず、片づけしから嚴封して、販賣不能に陥へらしめた。

これに猛烈立つた検査員は、さらに向ひの同業信大祥の店を開つた。こゝでは、茶果を出してしきりにこの連中をもてなし、事を穏便にしますように懇願大いに努めたのでそのまゝおとなしく引揚げ、今度は、すぐ近所の寶大祥の店へどかくとはいりこんだ。そこへ、抗日救國會の執行委員で洋布業公會長をつとめてゐる陳松源が來合はし、いろいろ口添へしたので、この店はまづ罰金だけで許された。次には、元昌祥の店を開つたが、こゝでは、日貨を封じた糊も未だ乾かず、近所のさわぎであはて、封存した跡が見えすいてゐるので、検査員等は大いに憤慨し、約一万兩の商品を没収し、トラック二臺に滿載して抗日會倉庫に運んでしまつた。

こうして附近の同業の店を一巡した検査員等は再び協大祥の店に引かへして來たが、同行した陳松源は、次席經理の葉と凌との二人に、姚の代理として抗日救國會の本部に出頭して事情を説明した上、嚴封解除を懇願しろとすゝめ自分も後から本部へ行つて斡旋してやる約束をした。

本部へ行つた陳は、自分が抗日救國會の執行委員会中重要な地位を占めて居るのに、自分に對して何の了解もなく検査員らが突然これらの店を襲撃したのを不愉快に思つてゐたゝめ、しきりに葉、凌を辯護したので、會員連中はさらに陳のこの態度を憤慨し、奸商を擁護する裏切者をやつゝけろ、とばかりになぐりかゝつたものだ。これを見た陳の護衛人は矢庭にビストルを擬して應戦の態度に出たため、そこにはたちまち、鬨闘が初まり、一人とも重傷を負つて昏倒するまで殴りつけられた上、瀕死の陳はつひに「奸商」と銘うたれ抗日會の一室に監禁せられた。陳は市商會の委員でもあり、上海實業界で相當有力な人間であつたから問題は俄かに擴大し、市長の内命をうけた公安局局長が中に立つて大いに運動した結果、彼はその夜の十一時頃になつて漸く釋放され、直ちに病院へ運ばれた。

一方、陳より先に出頭した協大祥の次席經理、葉と凌は姚の出頭するまで身替はりに監禁せられることになつた。

この事件について抗日救國會は急遽、執行委員會を開いて問題を次のように解決した。

#### 一、協大祥所有の日貨は之れを沒收し公に充つ

- 二、全市民に協大祥のボイコットを通告す
- 三、全市錢莊銀號に協大祥と取引停止を命ず
- 四、協大祥經理を懲戒委員會の查問に附す

なほ、これに附隨して、陳松源事件につき次のように議決した。

- 一、抗日會の規定に違反した職員を、委員三名を任命した上調査せしむ
- 二、陳松源をさらに五名の委員を任命して審査せしむ
- 三、全市各業公會の商人に告ぐる書を發表、即日公布する
- 抗日會の職員は、さらに協大祥所有の日貨全部を押収するため二臺のトラックに分乗して押しよせたが、租界警察の手で阻止せられた。しかし、その夜は、さらに抗日會員が大舉協大祥をお發する
- 二、三人の委員を任命して、商會代表として陳を慰問させる

そふかも知れない、といふので小東門附近には、臨時委員會がしかれたほど険惡な空氣が漲つてゐた。

この協大祥事件にあらはれた、抗日救國會を中心とする排日運動の内部における矛盾は結局、國民ブルヂョアジイと小市民および一部労働者の衝突にすぎない。國民ブルヂョアジイは、もと排日を一つの儲け仕事としか考へてゐないが、小市民中には、運動の當初から民族主義的、國家主義的イデオロギイをもつてゐるもの、換言すればファシスト的色彩を有するもの、および、運動の過程中に、ごく自然發生的に、このイデオロギイを持つに至つたものが相當多數を占めてゐた。これらの小市民中には有力な活動分子たる學生も含めて考へてさしつかえない。また、意識程度の低い労働者中にも、たゞ何となくこれら小市民學生に追随してゐたものがかなりあつた。もちろん、この、ブルヂョアジ的な運動のうちにも、共産黨系の分子が深く入りこんで、機會ある毎に、その指導權を奪ひとり、ブルヂョアジイの陣營から小市民以下を自己の側に奪ひとうと努めてはゐた。

しかし、こゝでは、一應これらを引つぐるめて同一陣營を形づくつてゐたものと見なして置く。

そこで、この協大祥事件によつて具體的に示された、運動の性質をしらべてみると、それはほどの三つに要約される。

一、國民ブルヂョアジイ、ことに商業資本家は、ある程度以上の排日は歓しない。それは、協大祥商店の一番頑たる姚が店員の義勇軍加入に反対したこと、および未封存日貨の存在を暴露する帳簿の提出を拒んだことによつて明らかだ。彼らの希望は、ある程度の排日によつて手持日貨の一部をのみ封存し、以て商品の價格を釣上げ、一種の超過利潤を獲得しようとするにある。仲裁にはいつた陳の態度、事件の擴大に驚愕して臨時委員會を開いた市商會の決議も明かにこの間の事情を物語つてゐる。

二、國家主義的、民族主義的小市民、および排日運動の昂揚のうちに、國民ブルヂョアジイから利潤のおこぼれを頂戴することを目的としてゐるルンベン的分子も、場合によつては、國民ブルヂョアジイの意圖をはかるかに越えた行動をとる。これに對して國民ブルヂョアジイの側は、「排日を商業にする反動ゴロ」といふラベルを貼りつけてはゐる。しかし、もとをたゞせば、運動の主導者は國民ブルヂョアジイ自身なのだ。たとひ兩者の間に流血の衝突事件

が惹起されたとしても、兩者は本質的に對抗關係に立つものではない。傭人が業務に忠實な餘り、主人の意圖を越えて主人を困らせたといふだけの話だ。

三、市公安局、佛租界警察はすべて國民ブルデヨアジイを擁護した。資本主義列強も、その間において自國資本の進出が可能なるため、ある程度の排日には強ひて反対しないが、これが暴動化したり、ブルデヨアジイ一般に對する鬭争に轉化せんとする形勢が見えた時には、直ちに運動に對して決然と彈壓を下すのだ。いふまでもなく、これは、プロレタリアート側の排日——反帝國主義運動に對する場合、特に露骨であつて、國民ブルデヨアジイさへ日本を含めた列強の側に立つことを躊躇しない。

以上のことは、私が一、三の資本主義支那の指導者に會つた時にも、彼らの口吻から充分、推察することが出來た。

中國銀行總經理張公權に會つたのは、ちょうど、停戰のすぐあとであつたが、彼は、しきりに上海事件は、日本の軍部が、彼らの眞意を了解してくれてゐたら恐らく起らすにすんだであらうとくり返してゐた。

市長吳鐵城はなるほど、あの軍事行動の起される前に抗日救國會を解散せしめることを約束した。しかし、日本側は、この約束に誠意なしと見たのであつた。ところが張公權の話によるところでは、彼らは、百方奔走してたけり立つ抗日會をなだめ、漸く、その運動を緩和するやうに了解が出来てゐたのだといふ。だが、彼らの手にあふのは、たゞ、ブルデヨア的な排日だけであつた。日本側としては吳鐵城の約束通り、たとひ、抗日會は解散されたとしても抗日運動一般は決して終熄しないと見透しつづけ自ら武器をとつて、直接この運動全體を粉碎しようと決意したのである。したがつて、大局から見れば、支那のブルデヨアジイも、むしろ、ある程度まで、日本の軍事行動の恩恵を蒙つたわけだ。即ち、國民ブルデヨアジイの手にあはぬ排日運動は、排日を焦點とした、廣汎な、反帝國主義、反資本主義の運動に轉化し、必らず國民ブルデヨアジイ自身の足場を掘り崩すことになるが故に。

張公權に會つてからしばらく後、私は、同じく浙江財閥の巨擘李銘と會見する機會を持つた。彼もまた、張公權とともに、事變前、排日運動の緩和について奔走した一人であつた。張公權の方は、まだ、抗日救國會特殊委員會に經濟委員の一人として名を列してゐるためか、排日運動その

ものに對して、敢えて絶對反對を表明しなかつたが李錦の方は、それを少しひどく罵倒してゐた。

「あれは、あゝした運動を商賣にして私腹を肥やしてゐる連中の仕事なのだ。善良な支那人は、むしろ、迷惑してゐる。君は、恐らく、そんなことをいつても、知名の支那人が、抗日會の幹部になつてゐるぢやないか、と抗議するだらうが、彼らは何も、この運動に賛成したから幹部になつてゐるわけぢやない。さうしなければいろんな迫害が加へられるので、やむを得ず名を貸してゐるのだ。支那といふのはまだ、そうしたところなんだよ」

彼は、こういふのであつた。そして、上海の治安維持のためには、この町を強力な國際警察の警備下に置き、いかなる國の軍隊たるにかゝはらず、軍隊は一切市中に駐屯させないようにすればいい、と主張し、現在の國民黨政權に對しても、多くの不満を持つてゐるらしく、その改革について、いろいろなプランを述べ立てゝゐた。

私は、李錦が、果して、その言葉通り、排日運動を全般的に憎惡してゐるかどうかは疑はしいと思ふ。むしろ、「運動の激化がつひに收拾し得ざる事を惹起するのをおそれて極力、鎮撫した」と告白して、他に多くいはなかつた張公權の方が正直だとさへ考へる。

また、國民黨政權にしても同様だ。

さきに私は、現在の排日運動の中心には國民黨政府があるといふ一般的な見解に、わざ／＼、「一見」さう見える、と断つて置いた。なるほど、蒋介石は、三十一年九月以来しきりに排日を煽動するかの如き言辭を弄してゐた。しかも、彼の本質を知るものにとつては、それがいかなる意圖を以てなされたかは、初から判つてゐたが、上海事變が勃發するや否や國民黨中央黨部の出した傳單は、さらに、彼、およびその一黨の正體を白日の下にさらけ出した。それにはこう書いてある。――

「第十九路軍不奉黨國之命、獨擅向日軍開槍使良民痛受塗炭之苦實屬無理已極、本黨絕對反對與日軍開戰、打倒第十路軍逆軍」

#### 國民黨中央黨部

これを見て、蒋介石の排日が、どんな排日であるかは明らかだ。いはんや、打倒帝國主義の運動などは、彼にとつては何よりも禁物である。この點、共產黨側が、彼を帝國主義列強の手先と

倒するのも決して放なきに非ずだ。

しかし、蔣の意圖如何にかゝはらず、黨部にはかなりの急進的な分子がくひこんでゐる。

そこには、さきにブルデヨア的排日運動の構成分子としての小市民の性質を指摘した場合にもちよつと觸れたように、ファシスト、或ひは社會ファシスト的色彩を帶びたものから、共産黨のケルンまで種々雑多な分子が、入りまじつてゐる。したがつて、これらの分子の相對的な比重如何によつては、下級黨部など、先年青島におけるゼネストに際して、その市黨部がとつたような行動をとらないとも限らぬ。

だが、全體として見れば、所詮、黨部も一つの國民ブルデヨアジーの機關だ。國民ブルジョアジーがある程度以上の排日運動には絶対に利益を感じず、日本との經濟斷交がいつまでも續くのを恐れてゐる以上、黨部のみがその背景から遊離して執拗に運動を續けてゆくことは想像出來ない。もしかするとことがあり得るとすれば、運動はもはやブルデヨア的な範囲を逸脱し、國民ブルデヨアジー、小市民、學生、一部プロレタリアートの共同戰線、即ちブルジョア的排日戰線が完全に分裂したことを意味する。

そして、この戰線分裂は、共產黨側の運動に對する指導力がます／＼強化する前提條件となるものだ。四月末、市長吳鑾城は、日本人紡績の操業再開に當つて、日本人紡績資本の代表者と會見し、排日運動の鎮壓を誓約したが、これは、いふまでもなく、國民ブルデヨアジー大部分の意志を代表したものと見るべきである。だが、國民ブルデヨアジーが手を引いたあとでの運動が、共產黨側の指導によつて、直ちに、廣汎な反帝國主義の運動に再組織せられ、小市民、學生、プロレタリアート農民が、國民ブルデヨアジーと帝國主義列強に對して一つの戰線を張るかどうかはいま、にはかに豫断を許さぬ。日本人資本家のうちには、支那大衆のフレクシブルな性質を強調することによつて、「がむしやらな極左分子」の影響力をあまり重視せず、運動の前途に對してしきく樂觀的な見透しをもつてゐるものもあるが、過去における經驗を基礎としたこの判断が、客觀的情勢の急激に變化した現在および將來に向つても充分妥當する、などとは、到底考へられない。最少限度に見つもつても、ブルデヨア的な排日運動が壊滅した後に残るものは排日を焦點とした反帝國主義、反資本主義の根づよいプロレタリアート的な運動だ。しかも、事變の混亂に乗じて、中國共產黨は既に、もり上つてくる支那人大衆の自然發生的な抗日感情を一定の方間に組織

し、自己のイニシアティイヴのもとに、更に強力な運動を展開せんと決死的な活動を開始してゐる。この複雑な情勢をはつきりさせるためには、どうしても、ここで一應上海事變を中心とする中國共産黨の活動を具體的に見て置かねばならぬ。

#### 四、もう一つの抗日戦線

「炯眼」な日本軍の一指揮者は、上海事變勃發直後、新聞記者との會見において、「眞の敵」が何ものであるかを卒直に語つた。「眞の敵」とは、いふまでもなく、千九百三十一年十一月七日、ロシア革命記念日の當日に、江西省瑞金において中華ソヴィエート臨時政府を成立せしめ、いまや、嵐の如く、支那全土を席捲しつゝある中國共産黨の革命的勢力がこれである。

また、國際聯盟の支那調査委員一行が東京に滞留中、海軍大臣は、「今回の事件は廣東の共産主義者の兇暴に對して、三萬の邦人居留民を保護するため、やむを得ず惹起されたものである」といふ意味の話をして、その了解を求めた。それより前、軍部當局にしても「十九路軍中には共

産主義者の活躍が顯著であり、全軍これに共鳴し、「云々」と發表し、日本軍の「眞の敵」が何であるかを、明かに裏書してゐた。

そして一月二十九日、第十九路軍の兵士大衆が發表した緊急宣言のうちには、次のような條項がふくまれてゐた。

「吾らの目標はたゞ一つだ。共同の敵、日本帝國主義を先頭とする一切の帝國主義をたゝき出すことがこれだ」

「日本の被壓迫大衆、労働者、農民、兵士大衆と手を握れ、われくは、彼等を保護し、彼らの××を援助しなければならぬ」

これを見ては、國際聯盟の委員たちも、當然、輝かしい「前衛」日本に、感謝しなければならぬ。中國共産黨は、排日をたゞ「日貨抵制」や「對日經濟斷交」としてのみとりあげたのではなかつた。それは、より廣汎な「打倒帝國主義」「打倒反動的國民黨」の運動の焦點として「排日」を前面に押し出したまでである。

なるほど、事件のきっかけは、率先して抗日義勇軍をつくつた三友實業社の工人が日蓮宗の僧

併に危害を加へたことであつたかも知れないが、上海労働者抗日同盟は、事變の起る前に日本人工場のストライキのみならず、全工場のゼネストを指令してゐたのであつた。また、市黨部を中心とする整然たる掛日運動の組織とは別に、又はその組織の間隙に結成せられた「上海民衆抗日聯盟」が一月末に出した宣言によつても、この間の事情は明白である。この宣言は、プロレタリアートの側の掛日の本質を把握するためには必要であるから、少し長いが左に全文を引用して置く。

「日本帝國主義は滿洲占領後、更に到る所で×××をほしいまゝにしてゐる。青島事件、福州事件等々は、日本帝國主義の野心が、全中國を彼らの完全な××とし、四億の民衆を彼らの××にしやうとしてゐるものなることを、はつきりと物語つてゐる。今や、日本帝國主義は、大砲、飛行機を持出して上海を占領し、××、××、××の限りをつくしてゐる。だが、それに対して國民黨政府は一貫して無抵抗主義を實行し、日本帝國主義のあらゆる要求をことごく受け入れ、更に、日本帝國主義とぐるになつて抗日救國運動を彈壓し、抗日救國労動者大衆を、幾千、幾萬となく××してゐる。

親愛なる勤勞者大衆諸君！ この危急存亡の秋、我々は誓つて、日本帝國主義の××に反抗し、さらに、民族の利益を賣渡してゐる政府に對して反抗しなければならない。

起て！ 我々は、我々自身の手段を考へ我々自身の血路を探さなければならぬ。

(一) 労働者、農民、商人、學生、兵士代表會議の召集、

我々は、はつきりと知つてゐる。あらゆる帝國主義は、ことごく我々の決定的な敵である事を！ 又無抵抗主義の國民黨政府はたゞ、民族的利益を賣り渡さうとしてゐるのであり、帝國主義とぐるになつて我々を××してゐるものであることを！

我々はかたく信ずる。たゞ團結の力のみが、我々自身を救ふることを！ 我々は全上海の労働者、農民、商人、學生、兵士の自衛聯合會を組織してのみ、はじめてこの目前に迫る危急を取り去ることが出来るのだ。労働者、農民、商人、學生、兵士大衆諸君！ 勞、農、商、學、兵代表會議に參加し、労農商學兵自衛聯合會を樹立しろ！

(二) 工場、學校、商店、兵士のストライキ、納稅ボイコットを起し、一致武装して日本帝國主義に對抗しろ！

大きな危険が身にふりかゝつてゐるぞ！

弔鐘はなり響いてゐるぞ！ 生きるか、死ぬか？ 一瞬間に後のもにそれが決せられようとし  
てゐるのだ、現在、この時、退くことはたゞ死を意味するのみだ。進んでのみはじめて生存が  
保障されるのだ！ 英雄的な反日本帝國主義的兵士にのみ、日本帝國主義と戦争さしておけば  
いいのか？

否！ 我々労働者、農民、商人、學生、市民、警察、巡査は悉く一致聯合して工場、商店、  
学校、兵士、警察のストライキ、納稅ボイコットを實行し、武器を奪取して日本帝國主義  
と一大決戦をやらねばならぬ。

### (三) 民衆は自ら進んで民衆抗日義勇軍にはいれ！

現在、十九路軍の勇敢な兵士たちは、無抵抗主義の命令に斷然對して、日本帝國主義と惡  
戰苦闘をつゝけてゐる。我々はこの勇敢な兵士たちの孤軍奮闘を傍観してゐてよいのか。否！  
たゞちに、民衆抗日救國聯盟の組織してゐる義勇軍に進んで加入し、日本帝國主義反對の勢力  
を強化し、ねらひを日本帝國主義において、さらに、日本帝國主義とぐるになつた一切の帝

國主義及びその手先どもを掃蕩しろ！ 民衆自ら政權を樹立し、中國民族の生存を保障し  
ろ！

### (四) 抗日兵士及び殉難民衆慰勞金を募集しろ！

我々は、日本帝國主義の掃滅を決意し、民衆の義勇軍を積極的に組織した。血はほとばし  
り、肉はさける戦場の抗日兵士に對して、又飢えと寒氣に苦しむ殉難民衆に對しては、もちろん、精神的、物質的の援助をなさなければならぬ。さらに、我々は全上海の民衆に對し、  
全中國の民衆に對して、持つてゐるあらゆる財貨物品を募集して、抗日兵士を慰勞し、殉難民  
衆を救助するやうに呼びかける。

民衆諸君！ 民衆のために戦つてゐる抗日兵士の爲に、また、日本帝國主義の砲火によつて  
犠牲にされた殉難民衆に對して、速時、ふるつて寄附に應ぜよ！ そうしてのみ、はじめて、  
日本帝國主義に反対する彼等の偉大なる使命を完うせしめることが出来るのだ！ それと同時に、  
我々は、自ら進んで救護隊、慰勞隊を組織し、彼等の日本帝國主義に對する反対、無抵抗  
主義政府に對する反対の熱情を高め、且つ強化させなければならない。

全上海の民衆諸君！ 我々は本會の會員數十萬を、悉く動員して、我々の主張をかたく決行するのみでなく、同時に、全上海、全中國の民衆諸君が、我々とともに一致奮闘することを希望してやまぬ。我々の使命を貫徹し、我々の決定的な敵を拂ひのける！

起て！ 我々はかたく信じる。我々を救ふものは、たゞ、我々自身のみであることを！

一月三十日

### 上海民衆抗日救國聯盟

いまさら、これに、うるさい註釋を加へる必要もないであらう。これを、拾ひ読みしただけでも、彼らの側の抗日が、市黨部中心の抗日といかに、その性質を異にしてゐるかは明らかだ。そして、一般市民の抗日感情の昂揚に乗じて、それをいかなる方向へ組織しようとしてゐたかも、實にはつきりしてゐる。

次に、この上海民衆抗日救國聯盟を中心とする中國共產黨の上海事變中、および後における「活動」を具體的に述べるに先だつて、彼らの側で、この事變をいかに考へてゐたか、を一應見

て置く必要がある。これについては、日本××系の人達が書いたものも數多くあるが、こゝでは、停戰直後に上海で創刊された「第一線」といふ、新聞から、「鑄黎」なる署名で書かれた「上海事變的前途」といふ小論を引用する。以下は、その抄譯である。

——日本帝國主義は、本國における資本主義××の運命を救はんがため、積極的に中國××を開始し、不斷に大軍を集中してすでに滿洲を××し、さらに進んで上海占領を敢行した、一月二十八日以來、南北、吳淞において行はれた××な××は××の如き帝國主義の眞面目を明白に示してゐる。しかも中國大衆の反帝運動の彈壓、半植民地中國の分割といふ二大目標においては、各帝國主義間に、十分な默契があるのであるが、同時に彼らは、「中國分割」について、必然的に、相互の利害の對立の尖鋭化から、矛盾と衝突を惹起せざるを得ない。事件が起るや、アメリカ帝國主義は、特に激しい衝撃をうけた。アメリカはこの事件が、滿洲事件とともに日本帝國主義に利益の獨占を許すことをさせぐため、さらに有効なる方法をとらざるを得なかつた。それは、次の五項より成る停戰の提案である。

一、中國日本双方は即時暴力行為を停止すること

二つの抗日戦線

二、双方は、再度動員の準備をなさざること  
三、双方の軍隊は撤収して原状に復すること

四、双方の間に緩衝地帯を設け中立國軍隊をしてその守備に當らせること  
五、以上の條項承諾の上は双方、不戦條約の精神により交渉をすゝめ、各種の懸案の永久的解決を計ること

これらの要求が、中國において、日本が獨占的な利益を獲得するのを制するとともに、アメリカの監視のもとに中國分割を行ひ、自らその最大の部分をかすめとらんとする企圖に出でたことは明白である。日本は當然これを承諾せず、公然と拒絕してしまつた。こゝにおいてアメリカは、再度「既成の事實を承認せず」と聲明し、日本に對し、滿洲、上海その他において利益の獨占をなし得ざる旨警告を發した。これは明らかに、日米兩國が衝突に向つて一步をすゝめたものであり、太平洋上に血腥い×××××が來らんとせる豫告したものである。

——フランスは日本の滿洲上海占領に對し、比較的同情的である。これはフランスが早くより中國において既得の勢力範囲を有し、日本と露骨な經濟的衝突を演じてゐないがためだ。イギリスに至つては、日本がその特殊勢力範囲を侵さる以上、これとはつきり對立するものではない。しかし、日英兩國は東洋市場において激しい經濟競争を演じており、これは恐慌の尖鋭化とともに、ます／＼激化する一方である。しかし、英米の間の矛盾と衝突は、日英のそれに比してはるかに大きく、ために、日米衝突の場合には、これを利用して自己の立場を有利に展開し、以て漁夫の利を得んと企らんである。

——上海事件は滿洲事件とともに、日本帝國主義の一貫せる政策であり、これらは帝國主義が、さらに積極的に植民地を××して、××せんとする資本主義的支配を救ひ出さんとせることとの一證左にすぎぬ。しかも、被擰取大業はこれによつてます／＼窮屈化し、反×××××××がさらにも、さらに、昂揚して來ることは疑ひをいれない。上海事件は帝國主義が一步をすゝめて、中國分割を開始したことを意味する。

——また上海事件は、日本帝國主義が中國革命とソヴィエート同盟を××せんとする一貫せる政策より出でたものである。しかし戦争の結果は中國の大業をさらに窮屈化せしめ、彼らを騙つて、××の遂行とソヴィエート同盟擁護の決意をかためしむることとなるばかりだ。東三省が日

本に××されたあとを見れば、各處に義勇軍が蜂起し、この義勇軍の多くは農民の反××的自衛隊である。この自衛隊は必然的に××××の基本隊伍にまで發展するものだ。上海が日本帝國主義に××されて、後、労勃生路と東新橋における市民大會には、十萬以上の大衆が参加し、租界當局の嚴酷な壓迫を蹴つて、群衆は口々に、「帝國主義、およびその手先國民黨を倒せ!」「われらの政權を樹立せよ!」と叫んだのであつた。

中國における現在の支配階級は、資本家、地主、軍閥より成る國民黨であるが、この本質は上海事件の前夜、汪精衛、吳鐵城が日本帝國主義の四項の要求を以て抗日會を封鎖し、事件中、「上海中立區設置」なる帝國主義の提議に應じ、蔣介石が公然第十九路軍の撤退を命じ、外交部長羅文幹がさらに各帝國主義の共同提案の一切をうけ入れることを宣言し、特に、九・一八以後上海事件に至るまで、國民黨政府が隨處において民衆の反日、反帝運動を彈壓し、民衆を××して、帝國主義の歡心を買ひ、完全にその代理人としてふるまつたのを見ても明らかだ。この國民黨は、最近、浦東、および閘北における上海民衆抗日會の分會を開鎖し、以て帝國主義の管理下にある工部局と相呼應して民衆抗日聯盟を破壊した。これを以ても、彼らが帝國主義

者と同一戰線に立つてゐることは明白である。これら一切は、民衆の間に僅かばかり残つてゐた國民黨に対する幻想を完全にたゝきこわしてしまつた。

もちろん、改組派の汪精衛は民衆を欺瞞するため、「十年二十年抵抗を繼續せよ」といふスローガンをどなり散らしてはゐるが、國民黨政府は洛陽に首都を移して、公然、上海、南京、漢口等長江流域一帯を帝國主義に明け渡してしまつた。これは、彼らの「抵抗」が一つの空語にすぎぬことを眞實するものである。國民黨政權から、おこぼれを頂戴してゐる國家主義派の先生たち、さらにはいはゆる「民族的英雄」馬占山らは、いまや完全にしつぽを出し、第十九路軍の蔡廷楷、蔣光鼎、およびすでに熱誠を失墜した吳佩孚等は大衆の自發的な××鬭争を麻痺せしめるための役割をつとめたものだ。

今次、第十九路軍の反日本帝國主義戦争においては、明らかに兵士の間に××××が充满して居り、一面民衆の援助を得たため、よく、今日まで頑強に抵抗し得たのであつた。しかし、軍長蔡廷楷の徒輩は、この兵士らの鮮血を犠牲として、上海における己の立場を有利に展開せしめんとしたものであり、これと同時に、アメリカ帝國主義は第十九路軍を利用して日本帝國

主義に對抗し中國における利益の獨占を企圖したのであつた。しかし、彼らは、兵士大衆の××××の昂揚におそれをなし、同時に自己にとつて有利な條件を獲得せんと焦慮しつゝ、結局、兵士大衆を僞瞞し得ず、機會さへあらば即刻妥協せんとのぞんでゐたのだ、最近の第十九路軍の撤退はこの事實を裏書すると同時に、彼らもまた帝國主義と同一戦線に立つものなることを證明してゐる……

この議論は、たしかに公式的であり、機械的である。具體的な事實を、むりやりに、マルキシズム、レーニズムの枠に押しこんだきらひがある。しかし、とにかくも、彼らはこう信じてゐたのだ。個々の點においては、もちろん、見解の相違もあつたらうが、彼らの握つた「理論の武器」は、すべて、この型であつた。したがつて、その、いはゆる「日本帝國主義」に對抗する場合、ブルデヨア的な排日運動の線に、或程度まで沿つて行動し、客觀的に見れば、そこに一つの共同戦線が張られてゐたものゝ如くであつたが、この共同戦線は、最初から尖鋭な對立關係を内包してゐたわけである。いづれにせよ、確固たる理論的立場に立つた行動は根強い。事變を中心としてゐたわけである。

心とする中國共産黨の活躍は、實に、執拗、果敢、「大和魂」を誇る日本軍人でさへ舌を巻いた。

停戰後のある夜、私は、新聞社の用事で某旅館に、日本軍のU將軍を訪ねたことがある。彼は、戦争中、いつも、びくん／＼弾丸の飛び交ふ第一線近くに立つて、悠然と軍刀の柄を握りしめながら、軍を指揮したといふ有名な將軍だ。

「おう、一緒に飯を食はんか。いま鋤燒の仕度をさせとるから」  
さつくばらんにこういつて、どかり胡座をかく彼であつた。やがて、食事の仕度が出来、ウイスキーの瓶が現はれる。大きなグラスに、琥珀いろのその酒を、波々とつがせて、

「おい、チン、チン、だ」

鐵がちり／＼と音をたて始める時分には、二人とも、うす暗い電燈の灯に、微醉の頬をてら／＼と輝かしながら、しきりに「戦争」を語つてゐた。

「さうだ。十九路は、鐵軍とたゞえられただけあつて相當強かつた。それや、張學良の兵隊なんかと素質がちがふぞ。だが、も一つ、見のがせんのは、奴らのイデオロギイだ。何といつ

ても、イデオロギイをもつてる奴は強いぞ。何?十九路の兵隊のイデオロギイは何か、つて。君に似合はんことを聞くのう。いふまでもなく『赤』だ。奴らの看板は三民主義さ。だが、あの軍隊のなかには、『赤』がうんとしみこんでるんだ。ところで、だ。その『赤』のイデオロギイと、われ〜の大和魂とがこんどの戦争でがつちりとくみ合つたわけだ。その結果はこの勝利さ。大和魂は、やつぱり強いぞ。どうだ、愉快ぢやないか」

こういつて、將軍は破顔一笑するのであつた。話は、便衣隊の活動に移る。……  
「便衣隊には、ちょっと手こすつたね。奴らは、正々堂々と來んからう。鼠のように屋根をつたふ、溝にもぐる。實に厄介なしろ物だ。あれに轟たれて死んだ兵隊は實に可愛さうだ。それも、金で買はれたゴロツキどもはまだあつかひよいが、イデオロギイをもつた奴らと來ては、始末におへなんだ。バン、と、右側の窓から銃聲が聞える。それ、その家だ、と、踏みこもうとすると、左側の家から、バン、バン、とやる。あすこにもゐるぞ、と、そつちへ向ふと、どつかの露路から、又、バンと銃聲だ。

これちや、わが軍の兵隊がいくら勇敢だつてやり切れたもんぢやない。苦勞して、それらし

いやつを引すり出してくると、胸をつき出して、「殺せ!」と唯一言だ。それも、人がひだつたり、金で買はれた奴らだつたら、しきりに哀訴嘆願するさ。だが例の、イデオロギイをもつた奴らは、びくともせん、從容たるものぢや。奴らのイデオロギイや、卑怯極まる行動は實に憎むべきだ。

だが、その往生際のえゝにはほと〜く感心させられたよ」  
この軍人らしい、卒直なU將軍の話からも、労働者學生義勇軍や、第十九路軍内の××的兵士の果敢な行動の一班が察知せられる。  
そして、これは、一面、さきにあげた上海民衆抗日救國聯盟の宣言が、事變中に、或程度まで具體化せられてゐたことを裏書するものである。

## 五、K・P行動日誌（動亂の上海における）

昨年九月、反日援、僑會が抗日救國會と看板を塗りかえた時、排日運動は、すでに、「抵制日

貨」 「國貨愛用」 のブルヂョア的な場を超えてゐた。しかし、運動が、ほんとうに、共産黨の影響をうけ、その一翼がはつきりと「反帝國主義」「反國民ブルヂョアジー」 の方向へ向ひ始めたのは、民衆抗日救國聯盟が組織されて後、いや、本年一月、それが徹底的な「改組」 を経て、イニシアティヴが、共産黨および××的労働者學生の手に移つて後のことである。上掲の宣言は、この變化を示す大きな指標とも見られよう。だが、この宣言の發表は、直ちに、工部局武装警官隊の聯盟本部襲撃を以て答へられたのだ。緊急戒嚴令は布かれ、集會、デモ、印刷物の配布はすべて嚴重に禁止せられた。かゝる性質の排日運動が、決して自己の味方ではないことを知つてゐる國民黨政府も、工部局と共に戰線を張つて、民衆の義勇軍の組織を禁じ、物すごい弾壓を加へた。

しかし、これによつて、黨の活動は終熄するどころか、ます／＼熾烈に燃えひろがるばかりであつた。次に、日を追ふて、その行動を跡づけてゆかう。

一月二十九日、各紡績工場労働者代表は滬西公社に集會を開き、日本軍に對していかなる行動に出るかを協議した。これを知つた公安局（支那側の警察機關）巡査は、アメリカ兵士の助力を得て、これを駆ちらさんとし、小競合を演じたが、労働者代表は結局、義勇軍の組織、十九路軍兵士慰問金の募集、西部紡績工場代表者會議の組織、その他を決議した。

三十日、智民學校で、前日決議された西部紡績の「工代會議」 が開かれ、ゼネストが決議された。ストライキ委員會は、直ちに糾察隊、宣傳隊の組織に着手し、着々、ゼネストの準備をすゝめたが、結局部分的なストライキ、サボターチュが實現されたのみである。一方、民衆抗日聯盟は義勇軍を編成して××的な労働者學生を戰線へ送つた。全義勇軍は五つに分けられ、それ／＼約二千人の義勇軍を擁してゐたと傳へられる。便衣隊として日本軍を悩ましたものゝうちには、この種の義勇軍が非常に多い。戰線へ出たものは、十九路軍内において××兵士委員會を組織した××的兵士と結びついて頑強に戦つた。

この日から「中國婦女反日救國大同盟」 中心の抗日基金募集活動が開始された。

三十一日、民衆抗日聯盟は市民大會を開き、これに集まつた大衆は煽動されて大規模なデモを行つた。この日も工部局は警官を大動員して徹底的な彈壓政策をとつたゝめ、群衆との間にし

ばく物すごい衝突を演じた。

二月二日、民衆抗日聯盟本部の前で約千人の學生労働者がデモをやつて氣勢を上げた。

六日、多數のピラが撤かれ二名の黨員が捕へられた。

七日、「抗日聯盟」は代表者會議を開き第一次の宣言を發表し、聯盟閩北分會は避難民慰問會を開いた。抗日聯盟の暗躍はます／＼盛んになつて来る。

九日、翌十日にかけて各區義勇軍代表大會が開かれ、新たに、青年義勇軍の組織が決定された。共產黨は、この義勇軍の組織を非常に重要視してゐるが、それは、この組織をうまくゆけば、赤軍にまで發展させようと企圖してゐたからである。この日の大會は、より廣汎な労働者の吸收、十九路軍兵士との提携、巡査に對する抗日運動への加入宣傳等を決議した。共產黨江蘇省委員會は、この日、二月二十五日の失業反對デーの活動についての決議を發表した。これは、上海事變によつて街頭に駆出された失業者の獲得を指令したものである。そのうちには、失業者の組織方法、失業者のストライク、バルチザン闘争（失業者を中心とする）の宣傳、二十五日のデモの煽動等がふくまれてゐた。

十三日、中國共產黨の署名のあるピラが外國軍隊の兵士に向つて撒かれた。もちろんその内容は日本、および他の帝國主義列強の「野望」を罵倒し、兵士大衆に、中國プロレタリアートとの提携をすゝめたものである。

この日、上海の失業労働者は、黨の指令に基いて、市民緊急委員會の前でデモを行ひ、金と食物を要求した。

十五日、失業者は再度、市民緊急委員會の前でデモを行つた。これは、トラックでくり出した工部局巡査の手で解散させられた。

十六日、共產黨員を中心とする、反帝國主義、反國民黨のデモが市内各所に行はれたが、直ちに駆ちらされた。

十八日、三井物産支店に爆弾が投げられたが大した被害はなかつた。工部局のレボは、これを「左翼分子のしわざ」であると報告してゐる。この日にも失業者の一團は市政府社會局に殺倒し救濟の徹底を要求した。

二十日、二十五日の失業反對デーのための決議のピラが散布された。

二十四日 共産黨から支那軍兵士に與へた公開狀、および、兵士のうちにそのイデオロギイを持てむための定期刊行物「慰勞週報」が發見された。また、大衆的な抗日集會のためのアヂ・ビラが各所にバラ撒かれた。

二十五日 國際失業反對デーである。市内の工場地帯ではいくつものデモが行はれた。なかんずく、フランス租界のデモは大きかつた。彼らは日々に「仕事と食糧」を要求し、打倒帝國主義、打倒國民黨の口號（スローガン）を絶叫した。

二十七日 ビラが撒かれた。それには、民衆抗日聯盟の十九路軍のために集めた義捐金が不正な方法によつて分配され、下級兵士にゆき渡らなかつたことを曝露し、帝國主義の手先、國民黨政府を倒せ、と檄してあつた。

二十八日 共產黨の「赤軍建設十四週年記念日について××軍兵士に送る書」が發表せられた。これは、赤軍の「本質」を開明し、××軍の兵士の××を煽動したものである。同様なメツセーチは英、米、その他の列強軍隊にあって送られた。

三月一日 婦女反日救國聯盟の西部支部が組織された。

二日 市西部で多數のビラが撒かれた。内容は從前のものと大差はない。

三日 ロビンソン路とフエリイ路の角で學生が二百人ほど集合を開き、抗日の氣勢をあげたが二名逮捕され、集會は解散された。

四日 ××的労働者學生が十數臺のトラックにのつて、停戰反對の大デモを行つた。爆竹の音は市内各處に轟き、再度、市街戦が初まつたのではないかと思ふほどであつた。南京路その他では、共產黨の指導するデモ隊と警官の間に激しい衝突が起り、ものすごい鬨闘が展開された。

以上が、事變中における黨の活動の概略である。或は機關銃がたりはためき、タンクが障礙物を蹂躪して驅進する戦場で、或は列強軍隊の銃剣がきらめく街頭で、彼らの死を堵した活動はくり返しつづけられた。如何に激しい彈壓も、精銳な武器も、彼らを剿滅し去ることは不可能であつた。停戦後、上海の町は、日に日に明るくなり、久しく停止してゐた虹口界限の享樂機關も再び華やかなありし日の面影をとりもどしたけれども、共產黨員の活躍ばかりは終熄する模様も見えない。それどころか、ます／＼、執拗、大陸に大衆の間へその手をのばしてゆくのであつた。

國際聯盟の調査委員がくれば、「中國分割のための使者、調査員を追ひかへせ」といふ意味の

ピラをバラ撒き、「中國はたゞ正義を欲するのみ」とか、「中國は九ヶ國條約を忠實に守つた」などと白々しい文句をかいだポスターを貼りまわして、ひたすら調査員の意を迎合ようと努めた国民党に一撃を加へる。いつ操業を開始するか見當もつかぬ日本人紡績の失業者に對しては、「飯を食はせろ」で、大舉して工場へ押しかけよと煽動する。

三月十八日のパリ・コムミュン記念日には、市内三ヶ所で大きなデモを行ひ、聯盟と國民黨政府と日本を攻撃した傳單を撒布した。警官との衝突は隨所に起り、ピストルが發射され、黨員の血が舗道を染めた。このさわぎで十人以上のものが逮捕された。

廿六日には警備のアメリカ兵の銃剣をぐぐつて数名の黨員が西部の日本人紡績工場にピラを撒き、ボスターを張つて歩いた。例によつて「打倒日本帝國主義」「打倒反動的國民黨」、そして、「工代會議を開け」だ。その翌々日、工場地帯を徘徊中、暴動不審で捕へられた二人の青年は、「無產青年小新報」を懷中にし、「巡査に對するビケを組織しろ」「労働者武装自衛隊をつくれ」と呼びかけた。ものすごい黨のピラをもつてゐた。

四月三日には停戦交渉反対のデモ。これは、ガーデン・ブリツチのほとりにある英國領事館へ

押しかけるはずだつたが、途中で解散させられてしまつた。

こうして、毎日のように赤い傳單が撒かれ黨員が逮捕されるのであるが、彼らの戰線には、あとから、あとからと、新らしい「兵士」が立ち上つてくる。四月下旬には黨員の指導による日本人紡績工場の爆破計畫が未然に發動する始末で、ブルデヨア的な排日運動が、かけ聲ばかりで次第に鎮静してくるのと反対に、彼等の行動は、ます／＼テロ化する一方であつた。今さら、ここで詳細な上海における「中國共産黨行動記錄」を作製する必要もあるまいから、一々、具體的な事實を、述べるのはこの位にしておく。

最近、抗日救國會は解散されることに決定した模様である。これによつて、次第に軟化してきた、ブルデヨア的な排日運動は近く終焉するかも知れない。しかし、あとには依然として一つの抗日戰線が残る。よそ眼から見た排日共同戰線の、最初から内包した矛盾は、かくして誰の眼中にも明らかに曝露せられたのだ。潜行的ではあるが力強い、あとに残つたこの抗日戰線、これこそは、鐵火の試練によつて、脱落した弱い分子とのぞく「最後の中隊」である。××を先頭にひるがえすこの隊伍が、「日本帝國主義」に抗して、どこまで闘争し得るか、またいかなる成果を

收め得るかについては、唯、時日との與へてくれる解答を待たう。

### C. 簡單な中國共産黨運動史 附、支那労働者の状態

一月末、いまにも嵐が來さうな、重苦しい空氣が人の心を壓してゐたころ、上海の日本人紡績工場は、つひに、工場閉鎖の「悲壯な」決意を固めた。虹口の一角に銃聲が轟き、これにつづいて、機關銃の火の舌がはためいたのは、その一、三日あと、——こうして、美しく化粧した國際都市上海の「顔」は、鐵と血と泥にまみれたのである。

この工場閉鎖について、日本資本が最も心配したのは、中國共産黨の指導によつて、約六萬の失業工人が暴動を起しまいかといふことであつた。——一月中の賃銀のほかに手當は一文もやつてゐない。操業休止の理由は排日運動による營業妨害であるから、再開の日はいつか見當もつかぬ。これに對して、悪くゆけば、六萬人中全部ではなくとも、少くとも一部は逆撃の姿勢に

移るのではあるまいか——日本紡績資本は、肚の中で、たしかにこう豫期してゐた。そして、それに對する對策は、充分に用意されてゐたはずだ。

ところが、結果は、これが杞憂にすぎなかつたことを證明した。これには、日本側もいさゝか拍子抜けの形だつた。

その後、事變中および、その直後において共産黨がなした活動はすでにのべたような調子で、かなり活潑ではあるが、現實には、或ひはと「憂慮」されたほどの、「重大な結果」も、もたらしてゐない。たゞ、この事變を契機として、將來に向つて、上海プロレタリアートのます／＼多くが、その陣列に編入されるかも知れないといふ、列強にとつて餘り好ましからぬ見透しが一般的となつただけの話である。

何といつても、これらのことばは、上海における帝國主義列強、ならびに國民ブルデヨアジーの防備の堅固さと、これに對する黨の力の弱さを裏書するものにほかならぬ。たしかに地理的な不利を考慮に入れて、上海における中國共産黨の力は四・一二事件以前にくらべくもない。しかし、だからといって、黨そのものゝ姿に一瞥も與へず、上海における諸々の現象のみ

に視野を限る時は、とんでもない判断の錯誤を來す惧れがある。そこで、われくは、一應こゝに、黨の生ひ立ち、および現状を、概観して置かなければならぬ。

## 一、黨の創立から五・卅まで

中國共産黨が成立したのは千九百一十年の五月である。當時は、後に黨を裏切つた陳獨秀がその代表者であつた。翌年七月には上海で第三インタナショナルのマーリンおよびニコルスキイの指導下に第一回代表大會を開いたが、これは各地の代表十一名が出席した。この頃は、何といつても、まだセクト的な存在にすぎなかつた黨も第三インタナショナルの指導によつて急速に大衆化してゆき、有名な一十三年の京漢鐵道のストライキには、早くも恐るべき闘争力を發揮したのである。

これよりさき、二十二年末、ソヴィエート同盟代表ヨツフェは、日本への途中、上海に立ちよつて孫文と會見し、この會見によつて孫文は國民黨組織の根本的な立直しを決意したのであつ

た。中國共産黨の側でも、二十二年の第二回大會で「プロレタリアートの民族革命參加と國民黨支持を決議し、第三インタナショナルも、中國の黨員が個人の資格において國民黨に加入することを提議してゐたのであるが、まだ具體化してはゐなかつた。

兩方からの、こうした歩み寄りが、形式的にも實質的にも、一つの共同戰線を作つたのは、二十三年十月、ボローチンが孫文の顧問となつてから後のことである。

中國共産黨員は、その後、陸續として、個人の資格で國民黨に入黨した。そして、粗末な理論的雑談であるところの三民主義は、直ちに、マルクス＝レーニン主義の峻烈な批判の前にその無力さを曝露しなければならなかつた。

賢明な孫文は、斷乎として國民黨の改組を決意した。改組宣言は十一月に發表されたが、この宣言のうちに孫文ならびに國民黨の名において、「軍閥反對」「帝國主義反對」が初めて公然と唱導せられてゐる。

改組宣言とともに孫文はボローチンおよび中國共產黨員、譚平山、瞿秋白等の援助のもとに黨員の再登録、細胞組織の決定、臨時中央委員會の組織等、着々として全國代表大會開催のための

### 準備をすゝめた。

かくて千九百二十四年一月二十日、大會は廣東において開かれた。集まるもの各地の代表百六十名、會期は一月三十日まで、この間に黨の再組織と新政綱が決定せられたのである。

黨の新らしい組織はすべてソヴィエートの經驗を繼承したもので、孫文を全國大會ならびに中央執行委員會の永久的主席とした點、その他に、小市民的革命家の集團であつた國民黨の傳統との妥協は認められるが、とにかく、この結果、黨は民族革命的大衆の指導機關としての形態をそなへることが出來た。そして新政綱は、對外政策の部において「帝國主義反對」を公然と表明し、對內政策の部において國民ブルデヨアジーからプロレタリアート、農民に至るまでの民主主義的要求（これが黨綱の最少限度であるといふ斷り書がしてある）をかゝげ、民族革命における各階級の共同戰線結成の基礎を固めてゐる。

改組後の國民黨内における共產黨の勢力は執行委員として黨員、譚平山、李大釗、干樹德、同候補員として林祖涵、毛澤東、張國藩、瞿秋白、干方舟、韓麟符等が加入したことによつて象徴せられるが、プロレタリアートの強大な闘争エネルギーと第三インタナショナルの巧妙な

指導とは、共産黨をして、常に、共同戰線内における「鋼鐵の軍隊」として重きをなさしめた。「大正十五年から翌昭和二年にわたり、革命の策源地廣東に滯在し、自ら街頭に進出して國民黨の革命運動と共産黨の赤化活動とを目撃し、支那における社會運動の實情調査に没頭し、その後北京に移りて昨年（昭和四年——筆者）八月まで引き続き研究を續けた」

といふ日本の一官僚安倍源基氏は共産黨と提携した國民黨について、こう語つてゐる。

「國民黨は共産黨と提携して以來、各種民衆運動の助成に力を傾注し、なかんずく、勞動運動と農民運動には最も力を致したが、是は一に共産黨の策略に影響せられたものである。尤も國民黨が共産黨と提携する前、即ち民國十二年（一千九百二十三年）宣布せられたる中國々民黨々綱中にも労働者及農民の待遇改善と向上に關する政策をのべてゐるが、勞農運動指導に實際に着手したのは、共産黨と提携して以來の事に屬する。而して共産黨の策略は國民黨を表面に立てゝ此等の運動を指導せしめ、その實はその領導権を自己の手に掌握せんとするに在つたのである。これがため左傾的勞農運動は俄かに勃興發達して來たのである」

「國民黨の廣東政府は民國十三年（一千九百二十四年）十一月、工會條例を制定したが本條例の

内容を見るに、共産黨の主張に支配せられたる結果、產業幼稚の支那の現状に照しては、甚だ急進的なものであつた。例へば工會の團體交涉権を認めたこと（條例第十條）、罷工權を認めたこと（條例第十四條）及刑律違警律聚衆集會の制限に關する條文は工會に適用なきこと（條例第二十條）等は明に共産黨の主張に支配せられたるものである」

また、プロレタリアートの鬪爭力についてはこうもいつてゐる。

「民國十四年（一千九百二十五年）五月、廣東において中華全國總工會を組織し（この時總工會は赤色勞動組合インタナショナルへの加入を決議した——筆者）爾來共產黨系勞動運動の全國的指導統制は、この總工會の手に委ねられた。而して同年五月三十日上海に勃發した所謂五一三〇事件を機として起つた上海における五・三〇運動及廣東を中心とする對英經濟絕交運動等において、その第一線に立つて活躍したのは、總工會の系統に屬する工會であつた。而してこの反帝國主義運動は、一般の豫想以上の成功を收めたが、これにより第三インタナショナル乃至中國共產黨は、支那勞動大衆の團結と鬪争力とが意外に大なる事に自信を抱き、爾來勞働組合の組織發達に全力を注ぎ、ために中華全國總工會は著しく發展を示して來た」

まことに、この通りである。安倍氏とまさしく對立的な立場に立つアチアティカスもまた五三〇事件において示されたプロレタリアートの強大な闘争力について、

「……闘争の最前線に立つてゐたものは——支那及殖民地被壓迫地域において最初にかかる巨大なる姿において、そして、かゝるヘロイズムを以て——上海のプロレタリアートであつた上海のプロレタリアートのゼネラル・ストライキ、それは全戦線の焦點であつた。(中略)支那のプロレタリアートは上海において始めてかかる巨大なる形態において、帝國主義に對して、支那の反動並びに支那人民のあらゆる階級に對して、その闘争に對する自覺と力量とを示したのである」

と書いて、事實をより浮彫的に描出してゐる。安倍氏のいふ廣東を中心とする對英經濟絶交運動とは、いはゆる沙基事件をきづかけとして起つた千九百一十五年六月以降の香港・廣東の大罷工罷市のことである。——廣東における國民政府が省内における反動軍閥を掃蕩した祝祭と、五三〇事件に對する同情をかねた示威行列が六月二十三日に英佛の軍隊と衝突し、示威者の中に七十名の死者と五十名の重傷者が出了のが發端で、香港に對するゼネストと經濟封鎖は約一年半に

わたつて續けられたのだ。この時も、「上海における同様に、プロレタリアートは闘争の尖端に立ち、最大の犠牲を拂つたのである。それは最も活動的な戰闘大衆であり、香港に對する全國民××的闘争の組織者であつた」(アヂアチカス)

こうして中國共産黨の旗の下に蹶起した支那プロレタリアートの力強い闘争は、日本のプロレタリアートにもその影響を及ぼさずにはゐなかつた。當時、日本における唯一の××的な労働組合であつた日本労働組合評議會は、六月二十一日付けを以て、「全支那大罷工、大罷市に對する聲明書」を發表した。それはまず、内外棉のストライキにおいて工人顧正紅が殺されたのがきづかけとなつて、例の五・三〇事件を惹起し、遂に全支那主要都市の罷工罷市にまで擴大した顧未のべ、この運動の本質が反帝國主義運動であることを明らかにした上で、これに對する日本労働者の任務を決定してゐる。そして、日本の労働者に對して、經濟的な運動であるストライキを政治化した支那の労働者の經驗に學べともいつてゐる。

事實、この支那労働者の經驗は、直ちに日本へ持こまれた。評議會は、聲明書を發表したのみならず、この時、三×××郎と山××藏を動亂の上海へ送つたのである。野田律太氏によると、

三××は「三寸角位の細布に同志三×××郎を日本労働組合評議會代表者として派遣すと書き署名捺印した」信認狀をたすさへ、商人に變裝して、いつの間にか行方不明になつてしまつたさうだ。山×も三××と前後して上海に潜入してゐた。この代表者派遣によつて、「總工會」と評議會との提携が出來、さらにこれは後に太平洋沿岸諸國の労働組合が團結するための礎石となつたものである。

一千九百二十六年に起つた評議會指導の東京、共同印刷の大爭議および濱松の日本樂器のそれでは、三××、山×を通じて攝取せられた支那プロレタリアートの闘争經驗が見事に生かされ、労働者側はあくまで頑強に勝ひ抜いた。具體的なその成果よりも、この二つの争議そのものが、それ以後の日本労働運動に及ぼした影響は實に大きい。爭議戰術は、これを機として劃期的な進歩を示したのだ。この點だけでも、支那における一千九百二十五年の大罷工罷市は、大きな意味を持つてゐる。

## 二、赤く染められた國民黨

五・三〇事件は、通常ロシア革命における血の日曜日（一千九百五年一月二十二日）に比せられる。

それは、この事件まで、漸く千人餘の黨員を中心とするグループ的な存在にすぎなかつた中國共產黨が、この時の鬪争を通じて急速に大衆化し、眞實の「プロレタリアートの大衆的な黨」にまで成長して爾後における革命のイニシアチイヴを殆んど、その手に掌握してしまつたからである。

もちろん、表面には常に國民黨が立つてゐた。しかし、國民黨が眞に××的な、反帝國主義の鬪争團體であつたのは、一千九百二十七年、共產黨との決定的な分裂が實現せられるまでのことでだ。

ところで、五・三〇事件によつて、プロレタリア的な意味における支那革命第一期の大昂揚が口火をつけられる前に「聯露容共」のスローガンをかゝげ、共產黨を「革命の推進器」として自己の陣營に抱擁した指導者孫文はすでにこの世を去つてゐた。彼は、死の直前、モスクウのソヴィエト政府に次のやうな手紙を送つた。

「身は病篤き病床にあつて、余の思ひは諸君の上に、余の黨と余の國の將來の運命にはせる。諸君は永遠に死せざるレーニンが解放したところの、共和國の頭部である。今日、尙、帝國主義の祭壇に供せられつゝある諸國民にして諸君に從ふ時は、彼らも又、常に隸屬と戰争と不正との上に建てられてゐる現在の社會秩序から解放せられることを得るであらう。余は余の後に一つの黨を遺す。そは、余が常に希望し來れる如く諸君と提携して支那並びにその他の被抑壓するに、諸君と常に提携することを以てする。余は諸君が余の國に與へられたる支持が今後もかわることなく與へられるであらうことを固く信じて深き喜びを感じる。余は今、諸君と訣別するに當つて、ソヴィエート同盟が自由にして強力なる支那においてその友を、その同志を迎へる日の來らんことを、そして、兩國が互に提携して全世界の被抑壓者の解放のための偉大なる鬪争に進まんことを希望してやまぬ」

これは、決して一片の外交辭令とは考へられない。晩年の孫文は、たしかに「左への數歩」を踏み出してゐた。國民黨が共産黨と提携後、次第に、小市民的な革命家のグループであつたそれ

自身を揚棄して、つひに、一時的にではあつたが、大衆的な帝國主義に對する鬪争團體として立ち現はれたことは、ことに、千九百二十六年、廣東において開かれた第二次全國代表大會の決議のうちにはつきりと語られてゐる。

一九二四年の第一次全國代表大會において、正式に提携した二つの黨は、双方とも急激に黨勢を擴張して來たが、ことに、共産黨の國民黨内における勢力はすばらしい發展をとげ、その後の黨の政策は共産黨の政策を殆んどそのまま反映するに至つた。したがつて、第二次大會が、國民黨内の極右翼で、共産黨との提携に初から反対を表明してゐた西山派の放逐を決議したのは至極當然である。

大會の宣言もまた、現在の國民黨の連中にとつては、擇づたいほど、××的な立場をはつきりと示してゐる。その内容は、まづ、第一項で世界情勢を規定して二つの體制の對立を指摘し、ソヴィエート同盟の腕を組んで、「共同の敵人帝國主義」に向つて果敢に進撃すべしと檄してゐる。その次には「中國の現状」を述べて、軍閥、官僚、買辦、土豪劣紳はすべて敵の陣營に立つものなることを強調し、從來の、茫茫たる民族革命共同戰線の編成替えを主張する。第三項の

「本黨努力の経過」は、國民黨の過去における戰績の一斑を語り第四項の結論において、孫文の遺志を具體化するためさらに將來に向つて努力を続けるであらうと結んでゐる。要するにこの宣言は、反帝國主義、反資本主義的立場を公然と表明し、またプロレタリアートの國際的聯帶、世界革命の一環としての支那革命の徹底的進行を強調したものである。

この宣言の外に、工人運動、農民運動、青年運動、商民運動、婦人運動等についてもそれぞれ決議が發表されたが、これらはすべて「宣言」に示された××的立場において、いかなる具體的政策がとらるべきかを明らかにしたものだ。これらが、いかに、深く、共産黨の影響をうけてゐたかを示すため、「工人運動に関する決議」だけを左に抜き書して見る。

甲、本黨の工人運動參加の意義。

- 1、勞働法を制定す
- 2、労働者の生活狀態を改善す
- 3、労工團體を保障しその發展を援助す

乙、過去工作の批判。

- 1、本黨の工人運動は、未だ工人の生活改善の政綱を實現してゐない。
- 2、黨と工會との組織上の關係が不明瞭である
- 3、各級工部の組織が不完全である
- 丙、工人狀態改善に關する具體的條件。

  - 1、勞働法の制定
  - 2、八時間勞働の實施、十時間以上の勞働禁止
  - 3、最低賃銀の制定
  - 4、少年工、女工の保護
  - 5、工場衛生の改良、勞働保險の實施
  - 6、法律上、工人に集會、結社、言論、出版、罷工の絕對的自由を與ふ
  - 7、財產および教育を以て普通選舉を制限することに對しては絶対反対
  - 8、工人教育の勵行、工人文化機關の設置運動
  - 9、工人の生産、消費組合に對する贊助

- 10、包工制（請負制）の廢止  
11、公休日に對する賃銀の支給

## 丁、黨と工會との關係。

- 1、黨は工會に對し、政治上の指導的な地位に立つが工會の獨立性を奪はず
- 2、工會中の黨員を以て工會の中心とする
- 3、黨の政策は工會の政策に影響するが、工會は獨自の政策を有し得る

## 戊、現在工人運動の注意すべき點

- 1、工人大衆の政治闘争における持久性の涵養
- 2、工會の組織を獨立せしめ、系統的なものにする
- 3、帝國主義の手先に断乎として反抗する

このほか、「青年運動」の項における、反帝運動の國際的組織への參加の主張、「農民運動」の項における一切の搾取階級排除の主張、等は、すべて、「容共」後の國民黨が、いかに勇敢に「左への數歩」を踏み出したかを物語るとともに、黨内における共產黨の勢力がいかに急速に増

大したかを如實に裏書するものである。

## 三、民族革命聯合戰線の分裂

第二次全國代表大會の決議は、上述の如く、中國共產黨の國民黨内における指導的な立場、「××の推進力」としてのその強大なエネルギーを如實に示してはゐるが、これは一面から見ると、民族革命共同戰線が、當初から内包した矛盾が次第に表面化しつゝあつたことを物語るものにすぎない。

なるほど、五・三〇事件を契機とする千九百一十五——一十六年の廣汎な反帝國主義鬪爭は、國民ブルデヨアジイ・小ブルデヨアインテリゲンツィア、プロレタリアート等の共同戰線によつて戦はれたのであるが、最後まで「反帝」の旗を守りつゝけたものは常に、中國共產黨に率ゐられたプロレタリアートの隊伍であつた。その他の分子のうちには、その場合々々の情勢に應じて帝國主義列強側の反撃が増大するにつれて次第に動搖を始め、ついには、全然、戰線から脱落し

て對聯的な立場に移行してゆくものも現はれるに至つた。これに引かえ、プロレタリアートの隊伍は、日を逐ふて、ます／＼その組織を擴大強化し、民族革命の指導權は、全くその手に掌握されるのではないかとさへ見えたのである。次に示す勞働者農民の組織の急激な成長、共產黨員の飛躍的な増加は、この情勢を、何よりも正直に物語つてゐる。

## A、勞働組合員數

一九二三年	三〇〇、〇〇〇
一九二五年	四五〇、〇〇〇
一九二六年	一、二〇〇、〇〇〇
一九二七年	二、八〇〇、〇〇〇
B、農民協會員數	
一九二五年	二〇〇、〇〇〇
一九二六年	三、〇〇〇、〇〇〇
一九二七年	九、八〇〇、〇〇〇

## C、中國共產黨員數

一九二五年	九九四
一九二六年	一二、〇〇〇
一九二七年	五七、九〇〇

民族革命の指導權がプロレタリアートの手に移ることは、革命が、國民ブルヂョアジーの欲する程度をとび超えて、直ちに、彼らのよつて立つ地盤を掘り崩すことを意味する。彼らは、支那の資本主義的發展の地ならしであるところの封建的農業關係の清算、ブルヂョア民主々義革命の達成、帝國主義列強の直接的支配の廢除等、をある程度まで要求するが、工業プロレタリアートの勢力が、量的にいつて、まだ微弱であり、それが、果敢なる「尖兵中隊」としての役割を果すに止まつてゐた間は、この食ひちがひも、全戰線の統制を破るほどの問題ではなかつた。しかし、上海、廣東における流血の鬭爭、第二次大會の決議、等に現れたプロレタリアートの強

大きな闘争エネルギーは、今さらに、國民ブルヂョアジーを畏怖せしめずには置かなかつた。かくして戰線の分裂は遅くべからざる必然だつたのである。

その具體的な現はれは、まづ、千九百一十六年三月に起つた中山艦事件だ。當時、軍官學校々長であつた蔣介石は、海軍局長李之龍が理由なくして軍艦中山を黃浦に送つたのを口實として、これを共産黨の陰謀なりとし關係者に手ひどい彈壓を下したものである。この蔣介石は、一時は共産黨と國民黨の提携を主唱し、國民黨内の右翼排斥に參劃したこともある人間なのだ。徹底的な機會主義者である彼は、以前からも、事毎に、黨内における自己の勢力の伸長に汲々としてゐたが、ことに、中山艦事件後には、黨の軍權および政權をほとんどその手に握つて、直ちに共産黨と國民黨との關係の整理に着手し、つひに黨内における共産黨の活動を一定の範圍に追ひこめてしまつた。この現はれが、二十六年五月二十五日の中央執行委員會の會議で決定せられた「黨勢整理案」である。

こうして、政權をも殆んど自己の手におさめた蔣介石は、直ちに、北伐のスローガンをかけ、黨員の注意を共同戰線内における矛盾から、外にそらすことに努めた。北伐は、故孫文の遺

囁である。いち早くこのスローガンをとり上げて、自らその先鋒となつた彼は、これによつて、一應、國民黨内における指導権を掌握することが出来た。それは、黨内における共産黨員も、この北伐が、千九百二十五年の鬪争の繼續であり、その發展であるとの見解のもとに、異議なく彼に追随したからである。

かくて、二十六年の七月、蔣介石は正式に革命軍總司令に就任するや、全軍を七軍に分つて廣東を出發し北伐の途に上つた。南支諸省の農民、——ことに農民協會の擴大によつて次第に意識化されて來た農民たちの絶大な支持のもとに、北伐軍は破竹の勢で、反動軍閥を掃蕩して行つた。そして、十一月に廣東で開かれた中央政治委員會の會議はこの情勢を見て中央黨部および政府を武漢に移すことを決議し、十二月十日、「革命の旗」はつひに揚子江岸の心臟、武漢にまで押し進められたのである。

だが、蔣介石が戰線に在る間には、廣東では共産黨ならびに國民黨左翼の勢力がます／＼増大し、この中央黨部および政府の武漢移轉も、蔣介石およびその一統の南昌移轉を無視して決定せられたものであつた。したがつて、この結果黨内における左右の對立は、武漢派對南昌派の

對立の形において、又もや爆發の危機に直面したのである。しかし、この危機は、結局、兩派の妥協が成立し、黨部と政府を武漢におくことによつて解消せられたかの如くに見えたが、これは、いふまでもなく黨内左翼＝武漢派の一應の勝利を意味するものである。二十七年三月十日より武漢に開かれた、中央執行委員會第三次全體會議の決議は、この間の事情を明らかに物語つてゐる。即ち、それは、さきに蔣介石の提案によつて決定せられた共產黨の活動に對する制限を撤廃し、蔣總司令に與へた廣汎な權限に制限を加へ、その獨裁的權力を制肘したものであつた。加ふるに、この會議では、共產黨員の政府への正式參加、三名の代表者の第三インタナショナルの大會への派遣が決定せられ、改選せられた中央黨部各部長、および國民政府委員その他の幹部には、共產黨員、およびその系統の分子がづらりと顔をならべてゐたのである。

かくして、民族革命におけるプロレタリアートの役割の増大は、それによつて自己の存立を脅かされる國民ブルデヨアジイの側の遊撃を喚びさすにはゐない程度に達してゐた。それは、もはや、内江とか、同一陣營内における對立とかの問題ではない。鬭争の過程のうちに進められた「階級分化」は、すでに、嵐を呼んでゐたのだ。

ここで、一應アヂアチカスに聽かう。即ち、彼はいふのだ。

「支那プロレタリアートの××的前衛は、すでに、北伐の當初に當つて、ブルデヨアジイの反××の側への來るべき移行と、その國民××に對する歴史的裏切りとを、充分に豫想することが出來た。それは、すでに上海と廣東における自己の経験を持つてゐた。それはまた、すでに、自己の経験に基いて、ブルデヨアジイの民族××戦線からの離脱は國民黨の單なる分裂の形式によつてではなく、激烈なる××と權力の爲めの鬭争の形態によつてのみ起り得るものであるといふことを豫測し得た」

二十七年の一月には國民政府の武漢轉移を祝ふ民衆とイギリス陸戰隊との衝突が起り、民衆の反帝主義運動は、各都市における租界奪回鬭争となつて燃え上つた。そしてこの時、蔣介石は北伐軍の決定的な勝利を意味する上海占領を未だ成就してはゐなかつた。これが、彼の公然たるプロレタリアートへの彈壓を、有名な四・十二まで延期させた最大の原因である。もちろん、南昌を中心とする彼の策謀は執拗に續けられてはゐたけれども……。

一方、北伐の進行に相呼應して、上海の労働者はつひに立ち上つた。いふまでもなく、それは、

かくすることが、民族革命の徹底的遂行のための踏拂ひであると考へられたからである。反動軍閥孫傳芳の物凄いテロルのもとに、上海全市にわたるゼネストが敢行せられ、それはつひに血腥、い暴動にまで發展した。この時の情景を村田致郎氏は、その「支那の左翼戰線」のうちに生々と描き出してゐる。

「二百萬の大都會はかくして、一瞬に死の都と化した。何といふ鮮やかな罷業ぶりだつたらう。だが、何といふ不氣味な光景だつたらう。そして、二十日、二十一日、大上海は死の沈黙の中に名狀することの出来ない不安の狀態を續けた。この情景を見て平和手段ではとても駄目だと思つた上海戒嚴司令、李寶章は、前清時代の非常命令たる『格殺勿論』の命令を發し、手當り次第に×××をひつ捕へては青龍刀の鋒とした。その數六十名乃至九十名といはれ、まことに凄惨な空氣が漲つた」

蒋介石の上海入城は三月二十六日であつたが、彼の來る前に、上海はすでに、プロレタリアート、小市民、××的學生の支配下に立つてゐた。これは國民ブルジョアジーの代理人、蔣總司令にとつては、一面もつけの幸であつたとともに、まことに好ましからざる狀態でもあつたの

だ。入城後における上海臨時市政府と、蒋介石との不氣味な對立は明らかに嵐をはらんでゐた。果然、南京における支那民衆と列強軍隊との衝突を合圖に、蒋介石は攻勢に出た。勞働者、武裝解除、總工會の襲撃、上海臨時市政府の解散——かくして、蒋介石の上海クーデター、有名な四・一二事件は、まづ完全な成功を收めたのである。これに勢を得た國民ブルジョアジーは、國民黨新軍閥の手によつて、中支、南支の都市と農村に、徹底的なクーデターを行ひ、完全な逆撃の姿勢に移つた。そして、四月十八日には、武漢に對抗して、南京政府が樹立せられた。その支配下に立つ農村の、澎湃たる土地革命の氣運に恐怖しつゝあつた武漢政府内の小市民的分子は、南京政府の成立によつてつひに、致命的な一擊を加へられ、一時、鳴りをしづめてゐた封建的軍閥は好機至れりとばかりに立ち上つた。これについて、中國共産黨の側にも動搖が起り、結局、國民黨内の小市民的分子との妥協によつて事態を收拾せんとする「日和見主義的」な態度が支配的となつた。この態度はその後、直ちにコミニターンによつて痛烈に批判せられ、中國共産黨は、間もなく、その冒した過誤を清算して、再び××の最前線に立ち上つたのではあるが……しかし、一時的にもしろ、共産黨側のこの弱い態度は、プロレタリアートの運動を混亂に導き、

黨と提携してゐた國民黨内の小市民的左翼はこの混亂のうちに完全に、大ブルデヨアジーの軍門に降つてしまつた。かくて、千九百二十七年後半期には、共産黨および××的労働組合は全く地下に追ひこめられ、民族××共同戦線は、こゝに全く二つに分裂することとなつた。そして、國民ブルデヨアジーはいよいよ正體を現はし、その「眞の敵」に向つて猛然たる攻撃を開始した。これ以後、心の髓まで國民ブルデヨアジーの機關となつた國民黨およびその政府は、もはや××的な鬭争團體たる性質を完全に喪失し、反××的な××機關に轉化したのである。

#### 四、血にまみれて地下へ

民族革命共同戦線の分裂は、何よりもまず支那國內における階級鬭争を前面に押し出した。これにて破壊された××的な總工會ならびに農民協會の傳統が重大な役割を果してゐることを無視すべきではない。その傳統の意義は、中國共産黨のその後の政策のうちに、および、ソヴィエート政權樹立の過程において明かに看取される。

ところで、ひと度、地下に追ひこまれた共産黨は直ちに、武装暴動による國民黨政權の打倒、ソヴィエート政權の樹立を目指として活潑な活動を開始した。農民協會の組織と武漢政府の政策によつて「意識」をよびさされた南支の農民はこれに應じて各所に蜂起した。この情勢の第一の昂揚は、二十七年十二月における廣東暴動に見出される。

だが、こゝに廣東暴動の前哨戦としての南昌暴動、および海陸豐ソヴィエートの樹立を見のがすことは出来ない。前者は、その後廣汎に展開せられた農業革命の口火を切つたものとして、また、後者は、支那において最初に樹立されたソヴィエート政權として。……

これらの前哨戦の後、武装蜂起はつひに民族革命の震源地廣東に飛火したのだ。十二月十一日未明、五千の労働者農民は、突如武器をとつて起ち上り、數時間のうちに市の重要な機關を全部占領してしまつた。そして、直ちに廣州ソヴィエート政府の成立を宣言し、主席以下各委員の氏名を發表するとともに、徹頭徹尾非妥協的な政綱をかけた。さきに引用した安倍氏によると、「かくして、市中の無政府狀態に乗じて細民暴徒の參加するものます／＼その多きを加へ、赤色恐怖はその極點に達した」さうである。しかし、一度撤退した、張發奎に率ゐられる國民黨系

の軍隊は、右翼組合たる廣東機器總工會の工人武裝隊の援けを得て直ちに廣東奪回戰を開始した。激烈な戰闘は三日間繼續したが、組織と訓練と武器になほ多くの欠陥を有する勞働者農民軍はつひに敗退し、ソヴィエート政權は樹立後三日にしてこゝにもろくも終焉を告げたのである。

國民黨政府は、この暴動に多くのロシア人が參加してゐたといふ理由でソヴィエート同盟との國交斷絶を決意し、十四日付を以て發令した。これによつて、晩年の孫文がかけた「聯露容共」のスローガンは彼の公稱後繼者の手によつて完全に徹回されてしまつたわけである。

こうして、海陸豐ならびに廣東ソヴィエートは餘りにも簡単に破壊せられたが、中國共產黨はこの苦い試練によつて從來の妥協的な態度を完全に清算し、これ以後、ひたすら、ソヴィエート××の達成に向つて邁進することとなつた。この意味で、短命ではあつたがこれら兩ソヴィエートが支那××の過程において持つ意義は大きい。

さきに、國民黨との決裂直後、コミンターン執行委員會から新たな指導者を迎えた中國共產黨は、瞿秋白、向忠發、蘇兆徵等を中心とする緊急擴大會議を開いて當面の方針を決定してゐた。これが有名な八・七會議であつて、黨はこれによつてボルシチ化への一步を踏み出し、それは、何といつても翌二十八年の第六回黨大會においてであつた。

この大會の諸決議は大部分今もなほ生きて居り、ことに、上海事變の前後に展開された黨の行動の意味を充分理解するためには絶對的に必要であるから、その主要なる部分を左に引用して置く。

まづ「政治決議」であるが、それは五節に分かれ、支那革命と世界××の關係、支那革命の國際的意義から説き起してその性質を規定し、過去の經驗を批判した上で、黨の一般方針、個々の場合におけるその任務を指示してゐる。このうち、第二節「支那革命の性質と推進力」中の「支那革命の現段階における綱領」といふ項には次の如き行動綱領が掲げられてゐる。

一、帝國主義の××の×

二、外國資本の企業並びに銀行の××

三、中國の統一、民族自決權の承認

- 四、軍閥国民党政權の打倒
- 五、勞農兵代表會議××の××
- 六、八時間労働制、勞働賃銀の増加、失業救濟並びに社會保險の實行
- 七、資本家地主の×××、土地を農民へ
- 八、兵士の生活改善、兵士に土地と仕事を與へよ
- 九、一切の軍閥政府の課稅取消、統一的累進稅の賦課
- 十、世界プロレタリアート及びソヴィエート同盟との聯合
- 以上のうち、一、二、三、四、および十は今次の排日を焦點とする反帝運動においてもほとんどのまゝ行動綱領として取り上げられた。なほ一般方針のうちには、「大衆獲得の任務」の重要性が高唱せられてゐるが、これはソヴィエート政權樹立のため、また國民黨支配打倒のため、黨がより深く大衆の間に根を卸す必要を指摘したものでその後における執拗な日常鬭争の展開、全國的な武装暴動の宣傳等は、まさしくこの綱領具體化の端緒と見るべきである。
- 大會はまた五節、二十二項より成る精密な農業綱領を決定した。これは支那農村における土地所有關係、支那土着資本と農村との關係、帝國主義と支那農村の關係を徹底的に分析した上で行動的一般方針を規定してゐる。
- 一般方針中特に注意すべきは、凡ての地主の土地沒收を主張した點で、從來の黨の土地問題に対する動搖的な態度はこれによつて完全に清算せられた。
- 廣東暴動の直後、千九百一十八年の初頭には、すでに六千の兵力を有する××的農民軍が湖南省に踏みこんでゐた。海陸豐および廣東ソヴィエートの倒壊は、そこに結集した××的勢力を南支那の農村に分散せしめることによつて、二十八年初頭より各地に展開した農業革命をいやがらずも促進する効果を持つた。ことに、破壊せられたとはいへ、××的な農民協會の傳統は、農業革命遂行のために格好の地盤を提供してゐた。そこへもつて来て、兩ソヴィエートにおいて武装暴動の経験を得た生残りの戦士たちがやつて來たのであるから、そこに××のための軍隊が、赤衛軍の萌芽が形成されたのは至つて當然である。そして、この軍隊を中心とする闘争の結果は、直ちに各所における農村ソヴィエートの樹立となつて現れた。この赤衛軍と農村ソヴィエートの發展は、まるで嵐の様なテムボを以て進んで行つた。それは、まさしく沃土に萌かれた種子であつた。

慢性的な農業恐慌と、あくなき收奪に「死か鬪争か」の切端づまつた境涯にまで追ひこまれてゐた幾千萬の農民は、赤衛軍と農村ソヴィエートにとつては、またとない沃土であつたのだ。

一方都市におけるプロレタリアートの運動は二十八年の前半期には確かに沈衰の状態にあつた。だが、これも濟南事件に端を發した抗日運動を契機として、以前にも増した力をもつて盛り返して來た。支那における労働運動最大の中心地上海では千九百二十七年に百十件のストライキが起つたが二十八年には百四十件に増加してゐる。參加人員においては二十三萬二百五十六人から一十三萬三千八百二人に増加したのであるが、これは二十八年前半期におけるストライキが主として中小經營に集中せられてゐたためで、むしろ後半期における鬪争の昂揚を裏書するものにはかならぬ。しかも、これらのストライキは大部分支那人經營の工場に起つた。この事實は國民黨と共產黨が決定的に分裂する以前、即ち二十七年までのストライキが主として外國人經營の工場において戦はれたのに比較して、そこに何らかの變化が起つたことを想像させる。簡単にいへば、排外運動の一翼としての外國人工場におけるストライキから、階級對階級の鬪争方法としてのストライキへ——これが、その變化だ。流血の四・十二は、支那プロレタリアートの運動を純化ひ上げ、その意義を指摘するに止めて置かう。

## 五、嵐の中のローテ・フロント

千九百三十年における中國共產黨の中心問題はソヴィエート政權の統一であつた。××は、二十七年の國民黨の分裂以來、すでにソヴィエート革命の段階に入つたのであるが、この年にはも始、即ち、農村支配階級に對する貧農、農業プロレタリアートの鬪争の開始と符節を合する。

千九百二十九年、三十年、三十一年、鬪争は年を逐ふて大たいこの方向へ發展して行つた。この廣汎な鬪争をこゝに一々跡づけてゆくことは到底不可能であるから、以下重な出來事だけを拾ひ上げ、その意義を指摘するに止めて置かう。

命大衆は、まさに、全國的範囲の革命的高潮に對して積極的な準備をなすべく且つ、すべての政策を擴大深化せしめる準備をしなければならぬ。革命情勢の發展に直面して一つの重大な任務は、全國的な革命鬪爭を適當に配合せしめることであり、特に都市における鬭争と農村における鬭争との結合が必要である」と説き、當面の諸問題を解決するため、五・三〇紀念日に全國ソヴィエート區域代表大會を開けと檄した。

「廣東、廣西、福建、江西、湖南、湖北、安徽、河南、四川各省のソヴィエート區域、各赤軍、各バルチサン隊、およびその他の各省のあらゆる農民團體と武装的組織をもつものはその責任ある代表者を派して」この革命的代表者會議に参加せよ、喚びかけられ、黨はその全機關を動員して、盛んに大會開催のプロパガンダをやつたため、大會は、見事、豫定された日に、上海郊外某所において、四十九名の代表者を集めて開かれた。この大會の決議の辭頭にかけられた、「宣言」には、

「現在中國には明らかに相反する二つの政權がある。一は、豪紳、地主、買辦、資產階級、國民黨の統治であつて、他は即ち勞農兵大衆のソヴィエート政權である。この二個の政權が代表する、

相反する二個の階級の最後の××は、中國の解放と勞農兵大衆の××の運命に對する最後的決定をなすものであつて、しかもそれは世界××××の偉大なる動力たらんとしてゐるのだ」

と叫び、黨がソヴィエート政權樹立の問題を中心として、積極的な大攻勢に移らんとしつゝあるを暗示してゐた。この宣言のほか、大會は、全國政治情勢およびソヴィエート區域の任務、中國ソヴィエート政綱、土地暫行法、赤軍及武裝農民の擴大計劃案、ソヴィエート組織法、農民に告ぐるの書、労働者保護法、全國工人に告ぐるの書、労働婦人に告ぐるの書、青年に告ぐるの書、東方被壓迫民族革命援助決議案及び宣言等の十一項を決定したが、このうち、中國ソヴィエート政綱は、これ以後における黨の針路を示すものとして劃期的な意義を有する。その大綱は、帝國主義のあらゆる特權の否認、帝國主義國との凡ての不平等條約の廢棄、外債の取消、帝國主義の投資にかかる銀行、會社、工場の××

二、軍閥の打倒、労働者農民の武装。兵士に土地と仕事を與へ、官僚制度を撲滅し、勞農兵貧民のソヴィエートに政權を掌握せしむ

三、労働保護法の發布、成年工八時間労働、幼年工六時間労働の實施、賃銀の一般的引上げ、

一ヶ月四十元の最低賃銀決定、女工の產前產後には八週間の休暇（工賃支給）、資本家全額負担の失業保険、社会保険の實施等。もし資本家が労働法に違反した場合には企業を没收する。

四、地主、教育、廟宇、祠堂、反××的富農の土地沒收、その、土地を有せざる農民、又は所有地僅少なる農民への分配。土地賣買、田契、抵當制度の禁止、一切の封建的搾取の一掃、土地國有の實現。

五、民族自決主義に基き少數民族にも完全な分立、又は自由意志による聯合の權利付與。

六、全××的大衆の、集會、言論、結社、罷工の自由。

七、すべての苛稅、雜稅の廢止、統一累進稅の實行。

八、農民銀行の設立による高利貸の撲滅、購買組合組織の援助による投機的商人の詐欺的搾取防止。

九、灌溉設備、新式耕具の供給、種子の改良、共營農場組織の提倡。

十、ソヴィエート同盟および世界プロレタリアートとの××、すべての被壓迫民族の××××の援助。

ところで、次には支那における各地のソヴィエートの組織そのものが、問題となつて来る。それは大體、ソヴィエート同盟の例にならつたものであるが、支那の特殊な事情に應じて、變形、改作せられた點も少くない。

即ち、ソヴィエートは、鄉、區、縣、省の四級に分れてゐるが、組織單位は總ソヴィエートである。これら、各級のソヴィエートは、皆、民衆の代表機關として、ソヴィエート大會をもち、大會から大會までの常置機關として執行委員會を置く。この執行委員會で常務委員を互選し、常務委員會を組織し、普通、これに赤衛、糧食、財政、文化、裁判、反動派肅清等の諸委員會が屬し、別に土地委員會を設けてゐるところもある。また、區ソヴィエートには經濟委員會が組織される場合もある。これらの委員會の管掌する事務は、すべてその名稱の示す通りだ。政府の經費は、農業又は商業に課せられた累進稅によつて支出される。ソヴィエート區域内の貧農は徵稅を免除されてゐるが、中農、富農は百分の十乃至十五の累進稅を賦課せられるのだ。江西省の南部にあるソヴィエート區域などはすでにそれ自身の銀行をもち、マルクストレーニンの肖像を刷りこんだ紙幣を發行してゐる。

これらの組織が、具體的にいかなる活動をなしつゝあつたか、については、次に概観的ソヴィエートと稱せられる江西全省ソヴィエート、および福建省龍巖ソヴィエートの例を見よう。

まづ、没収土地の配分であるが、それには場合に応じて次のような三種の方法が用ひられた。一、耕作に堪え得る農民を若干の組に分ち一郷を單位として土地を若干部に分け、ソヴィエートの指定によつて、或る一組の農民に或る部分の土地を耕作させる。郷ソヴィエートは耕作委員会を設け、これが組長の指揮、耕作の指導監督にあたる。生産物は全部一應ソヴィエートの手に收めて共同に分配する。

二、人口又は労働単位に應じて土地を平分する。男女平等、死者の土地は没収して新たに配分する。

三、自作農の土地は没収せず、自ら耕作させ、地主の土地は没収して小作農に與へる。反××的分子および公共の土地も没収して土地を持たぬ農民に耕作させる。

ソヴィエート政府の財源は地租、營業税、官業收入によるが、民衆の金融機關としては、平民銀行、勞農銀行が設けられた。

教育には何れも非常に力を入れて居り、軍事政治學校、赤軍學校、レーニン師範學校、レンシン小學校、勞動學校、平民學校等、各地域の事情に應じて、いろんな種類の學校が設立せられたが、その教育方針はいふまでもなくかたくマルクス＝レーニズムに基盤を置いてゐる。

このほか農村におけるクラブの組織、新聞の發行、青少年に對する文房具の無料支給等かなり行き届いた施設を持つ。

公共病院の開設、藥房の公營、消費組合の組織、高利債權の破棄等、社會政策的施設もとのへられ、婦人には結婚の自由を與へ、封建的な結納金制度を禁止し、黨、政府、軍隊においては男性と同様どん／＼婦人を使用してゐる。

宗教は、支那民衆の、あらゆる迷信の根本原因であるとして強力な撲滅運動を起し、教會、廟宇等はどん／＼破壊せられた。

以上は、全然反××主義的な立場にたつ文献から抜き書したものであるから、叙述がむしろ控え目にすぎるかも知れないが、誇張は絶対にないといつていゝ。

かくして、支那におけるソヴィエート政權は次第に國民黨政權に對立するものと認められるほ

どその基礎を固め、第一次ソヴィエート區域代表大會の開催によつて全國的な統一に向つての第一步をふみ出したのであるが、大會の「宣言」と、大會の成果として獲得せられた行動の計劃性とは、間もなく、赤軍の長沙占領によつて具體化せられた。……

七月二十六日夜から、彭德懷の率ゐる赤軍第五軍約一萬三千は、湖南省の首都長沙に向つて攻撃を開始した。戰闘は二日間繼續し、二十八日朝赤軍は、省政府主席何健の軍隊を完全に擊破して市街を全くその手に納め、即日長沙ソヴィエート政府の組織を宣言した。この事件の報導は一時全世界を震憾せしめたが、八月五日には捲土重來した何健軍の手に早くも長沙は奪回せられ、ソヴィエート政府も僅か九日間の命脈を保ち得たのみであった。しかし、これによつて、支那の赤軍などは二三の××主義者に煽動された土匪のたぐひにすぎず、ソヴィエートといつても、辟遠の地における暴動の落武者を中心とした、ほんのロシアの眞似事だ位に考へてゐた人たちも、いまさら「赤い觸手」が、支那の心臓にせまりつゝあることをはつきり認めさせられたのであつた。當時、幣原外相も充分事の重大性を認め、開議の席上で、「この事件は日本人に關する限り左程重大視するほどのものではないやうに思はれる。しかし、全般的に見て、共産土匪の蜂起せ

る動機、および將來の戰局の進展は頗る注意する必要ありと認める」といふ意味の報告をなしてゐる。

何健軍の逆襲をうけた赤軍はたしかに長沙を放棄した。共産黨側ではこれを豫定の退却である、と豪語したが、それは保證の限りではない。しかし、長沙奪回は決して、赤軍の擊滅を意味するものでもなく、武漢一帶の「危險」が去つたことを示すものでもなかつた。すでに、湖南、湖北、江西の大部分をその手に收めた赤軍は、次第に幾千萬の農民大衆の間に深くその根を張つて行つた。この根が完全に掘り起されない限り、××の脅威は消滅するものではないのだ。

全國ソヴィエート區域代表者大會主席席團は、長沙事件を契機として更に飛躍的な發展をつけ立を日程の上すことに決定した。まづ、この前提として八月下旬に中央準備委員會を召集するはづであつたが、頓に強化した彈壓のために、漸く九月十二日に至つて全委員の三分二即ち三十名の出席を得て開會し、「ソヴィエート共和國根本法大綱草案」その他を決定することが出來たのである。

しかし、十一月十六日、中國共産黨は、コミニンターンからの、いはゆる李立三コースの誤謬を指摘した、抗議的指令に接しなければならなかつた。その誤謬とは、（一）支那における革命情勢を過大に評價し、日常鬭争の指導を怠り、徒らに空虚な「××××準備」のスローガンをかゝげ、基本的な大衆獲得の任務を忘れてゐたこと。（二）革命發展の不均等を理解しなかつたばかりか、労働者運動と農民運動の不均等を理解せず、また、支那經濟發展の不均等をも理解してゐなかつたため、全國的に革命の發展は一樣であると考へ、大工業、行政の中心都市を占領した後初めて革命政府を組織すべきであるとなしたこと。この結果赤軍の組織、およびその行動について多くの過誤を犯したこと。（三）支那革命と世界××の間の關係を理解し得なかつたこと、（四）ブルヂヨア民主主義革命が社會主義××に轉化するには多くの過渡的な段階を通過しなければならぬことを理解せず、このため性急な集團農場化、富農との同盟提唱などの重大なる誤謬を犯したこと、等に要約される。これは翌十二月のコミニンターン執行委員會ブレシデウムにおいて充分討論せられ、李立三もその自己批判によつて卒直に誤謬を認め、今では黨の實踐において完全に矯正せられてはゐる。しかし、この李立三コースの誤謬清算は當面黨指導部の再組織、戰略

戰術の變更を、要求することとなつたため、全國ソヴィエート大會の開催は一時停頓するのやむなきに至つた。加ふるに、長沙占領に狼狽した國民黨政府は、蔣介石自ら南昌に出馬し、総請督辦公署を特設して赤軍討伐を企て、白色××は都市といはず、農村といはず、ます／＼荒れ狂ふ一方であつたため、大會の準備活動がさまたげられたことは一通りではなかつた。かくして、中國共産黨にとつて、千九百三十年は、長沙占領といふ華々しい戰績を残したものゝ、歲末は至極暗澹な空氣のうちに暮れて行つたのである。

## 六、「蘇維埃政府」への道

まず、注目すべきは千九百二十九年の政治決議である。二十八年の諸決議の劃期的な意義はさきに述べた通りであるが、その後における鬪争の進展は、それをさへ、「小さすぎる衣服」として、新たなる綱領の決定を促した。

それは、例によつて國際情勢から説き起して、支那の國內情勢に及び、これに處する黨の任務

を規定してゐる。これも、その後における共産黨の闘争の意味を把握する上に、またその行動の方向を見究める上に缺くべからざる文献であるから、左にその概要をのべて置く。

一、反帝國主義闘争の強化を帝國主義戦争反対、ソヴィエート同盟擁護に結びつける。こゝでは帝國主義の××の強化、國民黨の裏切りを指摘し、一切の反帝闘争を發動せしめこれを黨が指導する必要を力説してゐる。そしてこの反帝運動の基本的な任務としては次の三點をとりあげる。  
イ、帝國主義の支那支配の最も主要な道具は、支那の封建的、半封建的殘有勢力である。これ故、それらの殘有勢力の掃蕩なくして帝國主義の××は不可能であり、また帝國主義の××なくしては、徹底的な土地革命の遂行はあり得ない。したがつて現在の××段階においては、反帝運動の遂行とともに土地革命の指導が、これと分離すべからざる主要任務となる。  
ロ、だが土地革命の遂行以外に、獨立的な反帝運動が存しないといふのは甚だしい誤謬である。廣汎な大衆は當然帝國主義の××に抗して立ち上らうとしてあるから、黨はこれを精力的に指導しなければならぬ。この意味で、労働者農民の日常闘争に深甚な注意が拂はれねばならぬ。反帝運動と労働者農民の經濟闘争は相互に影響し押し進め合ふ作用を持つ。

ハ、過去の反帝運動において帝國主義××反対、ソヴィエート同盟××の宣傳及び闘争、に充分注意が拂はれなかつたのは大きな誤謬である。今後は、この方面に向つても精力的な闘争が展開されねばならぬ。

二、土豪劣紳、買辦、ブルデュアージイ、國民黨の統治に對する反対運動を指導し、廣汎な大衆を闘争に動員する。

こゝでは、國民黨の本質を曝露し、常に國民黨反対のスローガンを高く掲げる必要が強調せられてゐる。

### 三、軍閥戦争反対闘争の擴大。

軍閥戦争は何を意味するか、をひろく大衆の間に闡明し、あらゆる機會を擇んでこれに對する闘争を擴大させる。そして、これについてはかたく敗北主義の原則をとり、あらゆる部面に銳い攻撃を加へ、之を失敗に歸せしめ、同時に大衆の×××のみが始めて戦争を消滅せしめ得ることを明らかにする必要が指摘せられてゐる。

四、土地革命闘争の指導、擴大、ならびにその深度の強化。

農民の土地革命闘争の發展、同時に××××の過程における×軍の建設こそ、××××を推進せしめ、全國労働者農民の最後の××××を得る主要條件なることが、こゝに高唱せられる。また、ソヴィエート地域では、バルチザン戰爭の過程のうちに第六次大會の土地綱領の具體化に努力しなければならぬ、ともとなへられてゐる。

#### 五、ブルデュアジイの改良主義に對する斷乎たる闘争の展開。

これは黃色労働組合、農民組合が次第に發展し、大衆をその影響下に獲得しつゝあつた當時の客觀的情勢を反映したものである。こゝでは、改良主義の本質を徹底的に曝露した上で、これをはつきりと大衆に認識させるためには單なる宣傳煽動は無力であり大衆自身の政治的經驗のうち身を以てこれを知らしめる必要が指摘せられてゐる。また、改良主義に對する系統的な理論的攻撃にも以前よりも多くの注意が拂はれねばならぬ、と要求してゐる。

六、大衆の日常闘争の指導の強化、さらに進んで各種の闘争を、帝國主義、國民黨、軍閥に對する廣汎な闘争にまで押し進める。

日常闘争指導の絶對的必要はさきにも指摘されたが、こゝではたゞ、日常闘争のスローガンに

み拘束せられることの害悪をのべた上で大衆の個々の闘争を大罷業に、經濟的闘争を政治的闘争にまで發展せしめ、計畫的な準備を以て各種の大衆闘争を自由のための全闘争に合流せしめよ、と叫ばれてゐる。

#### 七、組合運動および黃色組合内における活動の強化。

黨の労働者階級の間ににおける基礎は労働者の組織である。したがつて、各種の企業經營、ことに重要產業の労働者を廣く×色組合の影響下に獲得しなければならぬとともに、黃色組合の内部における活動を輕視し、或はその影響を問題にしないのは、黨の大衆獲得の基本的任務を妨害する最惡の傾向だ、ととなへてゐる。

#### 八、農民運動に對する指導の強化、運動の計畫的遂行。

こゝでは、なほ、分散的な、自然發生的な農民運動を一定の計畫のもとに指導し、それを農村ソヴィエートの建設、土地革命深化の方向に向はしめる必要が力説せられてゐる。また、これに附隨して都市労働者階級の闘争との緊密な結合が強調せられる。

#### 九、バルチザン戰の指導、ソヴィエート區域の擴大、××の建立。

バルチザン戦の過程における赤軍の擴大強化および、バルチザン戦の組織化、その行動におけるより多くの柔軟性獲得の必要が指摘せられてゐる。また、ソヴィエート地域の擴大は、黨の土地綱領の實行による廣汎な大衆の獲得が主要條件なりといはれてゐる。

#### 十、××内における運動の強化。

從來の兵變主義の誤謬を指摘した上で、反動軍閥内における××大衆に對する黨の直接的な働きかけ兵士大衆の日常生活、闘争の指導による階級意識の覺醒が、何よりも必要だと呼ばれてゐる。もちろん、帝國主義列強の駐××の中における黨の活動の必要もこゝに指摘せられてゐる。

#### 十一、黨の組織の強化と、黨のプロレタリア的基礎の擴大。

これについて説明は不要である。

#### 十二、宣傳および教育活動の強化。

日常闘争のアチテーションをことく黨の宣傳スローガンに結びつける必要、および、理論教育のもつ重大な意義を説いてゐる。

#### 十三、都市貧民中における黨の影響の擴大、學生運動に對する不斷の注意。

労働者の有力な同盟軍として、都市貧民を黨の影響下に獲得し、これを組織すること、および二十七年までの運動において大きな役割を果した學生大衆の鬪争力を慄すところなくとりあげ、これを労働者のよき同盟軍として組織する必要が強調せられてゐる。

#### 十四、青年、婦人の間ににおける活動の強化。

青年の生活狀態の悪化、政治的壓迫の加重、青年工、女工の數量的増加等は青年、婦人の間ににおける組織の強化を要求してゐるとなし、今まで青年、婦人の特殊的な利害を輕視したことの誤謬を指摘した上で、青年、婦人のために獨自的な組織の必要を叫んでゐる。しかもこの獨自の組織は完全に黨の影響下にたつものでなければならぬ、といふ。

#### 十五、黨員の××化および大衆の××訓練の強化。

廣州暴動の時、多數の××を獲得してゐた大衆がそれを使用し得なかつたことは、餘りにも脆い敗北の一原因であつた。だから、黨は即ち、黨員の××化、および大衆の××組織に着手しなければならぬと説いてゐる。ことに、これに關聯して労働者農民および青年大衆の間において、恒常に××××的性質を發展させ、糾察隊、赤衛隊等については、特に注意を拂はねばな

らぬと要求してゐる。

以上は膨大な千九百一十九年政治決議のごく一部分であるが、これだけでも、中國共産黨の指導による労働者農民の全闘争が四・十二以前とは全然性質を異にし、はるかに高い段階に進み入つたことを知るに充分である。

こゝではすでに、赤軍の建設、ソヴィエート地域の擴大が、現實の問題として取扱はれ、國民黨に對する鬭争の強化、黃色組合内における黨員の活動等が切實に要求されてゐるが、これらの要求はその後直ちに實踐に移され、充分ではないが、いまもなお、引つき遂行せられてゐるものである。かくて、國民黨から見はなされた共產黨は、たしかに、その行動力を削減されはしたが、これによつて、かへつて明確な行動綱領を持つことが出来、捨身の闘争を展開し得ることになつたわけだ。

——なほ、この政治決議の決定せられた一九年における労働者農民の運動の主要なものを拾ひ上げてゆけば次の如くである。

一月から四月まで、漢口その他においては猛烈な排日運動が續けられた。ことに漢口の排日會

鐵血糾察隊は一月中旬、租界の奪取を企てた。

三月、京奉鐵道でストライキが起つた。

四月、唐山華新紡績がストライキを起し、同地五萬の職夫が立ち上つた。開灤五礮の労働者五

萬人が怠業したのもこの月である。

五月末にはハルビンの支那官憲がロシア領事館を搜索したが、これは東支鐵道に飛火して、六月中旬同鐵道のソヴィエート側幹部が監禁せられた。また、天津の電車從業員がストライキを起したのも六月であつた。

七月、東支鐵道に對する大規模のクーデターが行はれ、沿線全部にわたる長距離電話の奪取、北滿各地のソヴィエート同盟の通商機關および赤色労働組合の封鎖、東支鐵道管理局長以下五首脳の罷免、ソヴィエート側幹部百七十名の追放等が相次いで起つた。これがため中旬には露支國交斷絶し、ハルビンに戒嚴令がしかれ、東支鐵道の從業員は罷業に入つた。支那官憲はこれに對して大彈壓を下したが殆んどその効果はなかつた。やがて露支交渉は開始されたが一向進捗せず、十月には支那官憲が再びハルビンのソヴィエート領事館を襲つてゐる。……

中國共産黨側のいふところによれば、これらは、すべて、奉天政府を手先とする帝國主義列強のソヴィエート同盟××の××の理はれださうである。また、コミンターンとその支部中國共産黨の關係を顧みると、この一職のクーデターが一面において間接的な中國共産黨に對する攻撃でもあつたことは否定出來ない。しかも、この攻撃は結果から見て完全な失敗に終つたのである。

## 七、劃期的な一九三一年と現状の素描

嵐を衝いて赤旗は進んだ。

一九百三十年末蔣介石は赤軍討伐のため「三省（江西、湖南、湖北）民衆に告ぐるの書」を出して自ら漢口に馬を進め、部下の軍閥を督勵して、三ヶ月以内には共匪を剿滅して見せると豪語した。だがその結果は、たとひ部分的な戰闘に勝利を得たにしても、相次ぐ幕下の兵士の大衆的投降によつて、逆に、赤軍を肥え太らせただけであつた。

續いて、より大規模な第一次討伐計劃が立てられたが、これも、いたづらに赤軍の行動範囲を

擴大し、大衆の間ににおけるその影響力を増大せしめたにすぎない。討伐軍の指揮者、何應欽は、この狀態を卒直に語つてゐる。

「數度の攻撃にもかゝはらず、未だ、共匪は剿滅されてはゐない。討伐軍の内部的な不統一、および兵士に對する給料未拂ひのため、兵士は戦意を失つてしまつた。のみならず、兵士は、赤軍の兵士を羨み、續々敵に投降しつゝある。……すでに、討伐軍は幾多の敗北の結果、二萬の兵力を損耗し、さらに二萬の兵士が叛亂を起して赤軍に參加した」

かくして五月末には吉安の手に歸し六月に入るとともに南昌陥落の危機は刻々せまつて來た。この情勢に狼狽した蔣介石は、再び討伐軍の陣頭に立ち、大がかりな總攻擊を開始した。これによつて、討伐軍は若干の都市を奪回し、二、三のソヴィエート區域を占領し得たものゝ如くである。しかし、江西省における數次の決戦に刺戟せられた各地の赤軍は相率ひて活潑な活動を始め、河南省では平漢線を背かし、南方では、秦寧を占領して福州、廈門に迫るに至つた。ことに、國民黨内における南京派と廣東派の抗争、滿洲事變の勃發による國民黨政權の一分派、東北政權の倒壊は、赤軍に再び大攻勢に轉する機會を與へ、討伐軍はその占領地をすて、潰

走しなければならなくなつた。

一方、白色×××は、ソヴィエートの成長と赤軍の發展に正比例して、ます／＼狂暴になつて行くばかりであつた。

もと／＼支那は、テロルの本場であるだけ、その方法も慘虐を極めてゐる。

まづ、三十一年二月七日、京漢鐵道労働者屠殺紀念日を期して開かれるはずであつた全國ソヴィエート代表大會の準備委員會は、南京路の一旅館で秘密裡に會合中、租界警察に襲はれ、逮捕された參會者は國民政府の手に渡されて二週間後、有無をいはせず銃殺されてしまつた。二月七日には、左翼作家聯盟の若い五人のメンバーが、龍華、——一萬にも上る××主義者が恨みをのんで殺されて行つた龍華において屠殺された。その後も、上海の警察は全力をあげて共產黨員の追求につとめ、スパイは八方に飛んでゐた。六月二十二日には、ついに黨の中央常任委員であり、優れた指導者であつた向忠發がフランス租界警察に捕へられた。彼を逮捕するためには、支那の主要都市の全警察機關をあげて捜索につとめつゝあつたが、それでもなほ數ヶ月を要したといはれてゐる。かくして捕へられた向忠發は、一回の正式訊問もうけすに國民黨の警備司

令部に引渡され、二十四日の夕方やはり龍華で射殺されてしまつたのだ。これと前後して、上海にある汎太平洋勞働組合書記局の書記又一ラン夫妻が、共同租界において英國官憲の手に捕へられ、八月中旬南京に護送された。

——これらは、上海における白色×××の一斑にすぎない。農村や、赤軍との交戦地域においては、國民黨のいはゆる「反動份子」に對して、お伽噺じみた「地獄の責め苦」が、そのまま適用せられつゝある。こうして×××の犠牲となつて死んだ労働者農民、および××主義者は、千九百二十七年以降百萬人を越えたといはれてゐる位だ。信すべき筋の調査によると、二十八年六月から翌年の三月までの間に約四十五萬人、三十年の後半年だけで約十四萬人殺されてゐる。また満鐵の「滿蒙事情」は、六省における主要都市で、三十一年中に殺された「左翼分子」三萬八千七百七八名と報告した。しかし、こうした、物凄い×××も、遂に大勢に抗することは出来なかつた。……

千九百二十七年、賀龍、葉挺が最初の紅軍を編成した當時には、成員僅か千人にすぎなかつたものが四年後には、精銳な武器を有する蔣介石の討伐軍を三度まで潰走せしめる程の實力を獲得

してゐる。三十一年秋には兵力十五萬餘、部隊に編成せられたパルチザン約二十萬、外に農民軍、青年部隊、少年偵察隊、炊事、醫藥調製、看護、裁縫等を分擔する女工及び農婦の補助部隊、總人員約百萬を擁してゐた。その武装も、討伐軍兵士の投降のおかげでます／＼充實し、小銃約十萬挺、拳銃五萬挺、機關銃千二百門、輕砲二百三十五門、飛行機三臺を有すると傳へられてゐる。

そして、赤軍の發展に伴つてソヴィエート區域もます／＼擴大し、二十七年末、海陸豐および廣州ソヴィエートが樹立せられ、間もなく、政府軍の逆撃に蹂躪されて以來、僅かに四年にして江西、福建、湖南、湖北、廣東、廣西、河南、四川、安徽、江蘇、浙江各省の約百五十縣は眞紅に塗りつぶされてしまつたのだ。

かくして、青天白日滿地紅旗のひるがえる、「資本主義」支那に對して、つひに、幾多犠牲者との血しぶきを浴びた勝利の旗は高く江西省の一角に押したてられ、こゝに中華ソヴィエート共和國臨時政府は組織せられたのである。彈壓の嵐に、いく度か押し流された第一回全國ソヴィエート代表大會は、千九百三十一年十一月七日、ロシア革命紀念日を期して漸く江西省瑞金に開かれ塗りつぶされてしまつたのだ。

れ、そこで臨時政府を正式に樹立し、全支那の労働者農民に向つて最後の××に蹶起すべく呼びかけたのであつた。もちろん、革命の過程が、「全中國の労働者及び勤労大衆への檄」に指示せられたほど急速なテムボで進んでゐないことは、その後に繼起した諸々の事實が證明してゐるが、とにかくも、「臨時政府」の樹立が、支那革命史上における大きなモニユメントであることは、誰しも否定出来まい。臨時政府は、成立と同時に一つの宣言を發表した。これこそは今までの、いくつかの黨大會の決議とその實踐の過程の中から結晶した、眞に歴史的な文献である。この故に煩難をも顧みず左にその全文を引用して置く。

「全世界の勤労者並びに政府に告ぐ。

中華ソヴィエート共和國臨時政府は、ソヴィエート同盟の十月革命紀念日、十一月七日、江西省において、初めて正式に樹立されるに至つた。この政府は完全に、中國の労働者、農民、兵士および勤労大衆の掌中にある政治機關であり、且つ、その手中に入つたところの領域において、帝國主義、國民黨、地主、ブルデヨアジーの政權に代置されるものである。中華ソヴィエート共和國臨時政府は全世界における上述の政權を粉碎するために、全世界の勤労大衆を喚び

起し組織するため、努力を繼續するであらう。それは正式に、世界において労働者農民が、彼ら自身の政權を樹立したところの、唯一の國、ソヴィエート同盟に對し、衷心から友情と同盟とを表明する。それは全世界の被壓迫大眾と共に、腕を組んで戰ひ、それによつて世界帝國主義の支配を打ち倒すこととする。しかもそれは、強固な且つ完全な民族自由主義により、帝國主義による植民地半植民地の擄取に抗して容赦なく鬪争するであらう。

全世界の勤勞者並びに政府に對して、中華ソヴィエート臨時政府は次の如き事項に關して、その立場を表明する事を必要と考へる。帝國主義列強および中國の地主ブルヂョアジイ政府間に締結された、あらゆる不平等條約の廢棄。大衆運動の抑壓、および大衆虐殺のために、中國の支配階級によつて契約されたあらゆる外債の支拂拒否。現在帝國主義の支配下にある、すべての外國人居留地、租界、租借地の無條件引渡。あらゆる帝國主義の陸海空軍の中國本土からの即時撤退。最後に、しかも主要なる帝國主義支配を完全に破壊する最も有効なる手段として中國に存在するあらゆる帝國主義の、銀行、工場、礦山、および交通運輸企業の沒收。さらに中華ソヴィエート共和國臨時政府は、中國における帝國主義の打倒にのみ滿足せず、その究極

の目的として、世界帝國主義が全く××され終るまで遂行される××の繼續を、無條件に援助するであらうことと聲明する。

しかし、當面、中華ソヴィエート共和國臨時政府は完全なる平等の基礎の上にたつ帝國主義諸國との條約締結には、何らの異議をさしはさむものではない。ソヴィエート地域に居住する、かかる諸國の國民は、ソヴィエートの法規に抵觸せざる限り、貿易、商業および工業に從事する特權および自由を享受し得る。とはいへ、中華ソヴィエート共和國臨時政府は、ソヴィエート法規に對する外國人による違反行為は、その形式の如何を問はず、彼らに與へられたあらゆる自由の喪失ならびに全所有財產の沒收にまでおよぶであらうことと、公然とこゝに闡明する。

植民地、および半植民地の地主ブルヂョアジイ國家との關係において、帝國主義諸國によつてなされた如き秘密外交の目的は、常にたゞ、資本主義諸國のプロレタリアートを××し、植民地、半植民地の大眾を××するにあつたし、又いまもさうである、といふ事實にかんがみ、中華ソヴィエート共和國臨時政府は、こゝに秘密裡における協商の遂行には斷乎として反対

し。強く、公開外交の原則を主張する。それは、世界の他の場所におけると同様に、中國においても、労動大衆の監視と支持のもとにのみ、外國との國交を行ふであらう。それは、帝國主義諸國の地主ブルデュアジイ政府によつて承認された、あらゆる秘密協約を白日のもとに曝露するであらう。

中華ソヴィエート共和國臨時政府は、今や、全世界の労動大衆に、中國における唯一の××的労働者、農民、兵士の政府を擁護し、彼らの兄弟姉妹との統一戦線によつて××しつゝある世界資本主義を××し、ソヴィエート同盟の労働者農民によつて、われの前に開かれた××の道に出發すべく喚びかける。

中華ソヴィエート共和國臨時政府は、自ら、中國において、新たな世界戦争と軍閥戦争に、猛烈に××しつゝあることを、強く表明する。この臨時政府は、帝國主義、および國民黨の支配の××なくしては、眞の平和が齎されぬであらうことを、はつきりと認める。そして、それ故にこそ全世界の労動大衆の騒起を要求するのである。

××的××戦争によつて、反××戦争を絶滅せよ！かくして、世界平和のために團へー！

臨時政府を成立せしめ、その各機關を選出した大會は、共和國憲法草案、土地法草案、労働法草案、經濟政策草案、赤軍に關する決議草案を上程、討論を重ねた結果、憲法草案を一部修正したのみで、あとは皆、兩場一致で可決した。

こうして、支那における、「もう一つ」の政權は、完全にその形を整へた。現在の國際法から見て、それはまだ完全な「國家」ではないが、それがもつ國際的意義は、多くの完全なる「國家」よりも、はるかに大きい。これ以後、支那における労働者農民の闘争が、この政府によつて統一的に、集中的に指導せられ、一定の計劃のもとに押し進められてゆく點だけでも、對蹠的な立場に立つものにとつては、大きな脅威である。

硝煙を纏ふて旗は進む。

中國共產黨は、この「中華ソヴィエート共和國臨時政府」樹立の準備を進めつゝあつた間にも満洲事變を中心とする「反帝」「反戰」の宣傳煽動を大規模に展開し、いくつかの宣言を發表した。殊に注意すべきは、努めて、日本の労働者、農民、××に呼びかけ、プロレタリアートの國際的連帶を強調したことである。

そして、これとともに蘇聯洲委員會は、蘇聯各地における種々難多な抗日軍、土匪軍を、赤色バルチザン隊に轉化せしめようとして大童の活動を開始した。今年に入つてからも、しきりに日本軍を懾ました「匪賊」や敗殘兵のうちに、どれだけ××主義的な意識をもつた分子が入りこんでゐたかは判然しないが、とにかく、あらゆる抗日行動のかけに、中國共産黨の手がある程度まで動いてゐたことは疑を入れぬ事實である。

一方、中部、および南部支那においては、國民黨政權が、對外的にも對内的にも苦境に立つてゐたことがソヴィエート臨時政府の統一的な指導と相待つて、赤軍に對し、ます／＼活潑な行動を可能ならしめた。

三十二年、一月早く贛州を陥入れてこゝにソヴィエート政府を樹立した江西省の赤軍は、直ちに南昌に進り、中旬迄にこれを奪取した。

これは三十年七月の長沙占領以來初めての、赤軍による重要都市の占領である。

また、すでに黃岡を占領してゐた粵贛援助の率ゐる赤軍は一月初旬、漢口から僅か二十マイルを隔てた黃陂に入つた。段德昌軍は邑市、龍王集、應城を席捲し、他の一部隊は漢陽附近の侏

儒山を占據して、一時漢陽を陥入れたと傳へられた。江西省方面からは孔荷寵の率ひる一隊が北進し、通山縣を占領した。かくして武漢三鎮は、赤軍のために、遠巻きに、ひし／＼と取り込まれてゐたのだ。

福建省でも赤軍は海岸線に向つて進出し一月中旬すでに漳州の危機が報ぜられた。

かかる情勢のもとに上海事件が勃發したのである。市街戦の硝煙を縫ふて、中國共産黨がそこで、いかに活躍したか、についてはすでに述べた。だが、この火花のような「活躍」の背景には、以上に長々と描寫したような、途方もなく大きな構圖があつたのだ。

最近の情報によると、支那におけるソヴィエート地域は百六十七、それは、次の如く各省に分散してゐる。

一、江西省東南部、および福建省西部、四十以上の隣接せる縣が、瑞金にある中華ソヴィエート臨時中央政府に、直接、管轄されてゐる

二、湖南、江西省境地方、二十五縣

三、江西省東部、約二十縣。これは、南は福建省にのび、北は安徽省に及ぶ

四、河南、湖北、安徽省境地方、三十餘縣

五、湖北、湖南省、二十乃至二十五縣

六、湖南、湖北、江西省境地方、十五縣

これを省別に見ると、ソヴィエート政權のもとに立つ縣は、江西省七十、湖北省五十、河南省

十、安徽省十、湖南省二十、福建省二十、廣東省四、浙江省三

このほか、かなり不透明なソヴィエート組織は、廣西省、貴州省、山東省、江蘇省等に若干づ  
く散在してゐる。滿洲においては、事毎に「問題」を起す間島地方とのぞいて、まだ、はつきり  
したソヴィエート政權が樹立されてゐない。しかし、そこで廣汎に展開されつゝあるバルチザン  
鬪争は、こうした政權の胚種が、たしかに存在することを物語つてゐる。

ソヴィエート地域の人口は、或ひは五千萬といはれ、或ひは九千萬といはれるが、確實な人口  
統計のない支那のことだから、はつきりしたことはわからない。だが中華ソヴィエート共和国に  
屬する地域だけで、たしかに五千萬はこえるであらう。

また、赤軍は、千九百三十年の長沙事件以來労働者出身の兵士が眼立つて多くなり、「労働者  
農民の××軍」たる本質を、いよいよ發揮して來た。現在の、その分布状態は次の如くである。  
一、江西省東南部、福建省西部、——第四、第五、第十二軍、朱德、毛澤東がこれを率ゐ、兵  
員四萬、小銃三萬を有する。

二、湖北、湖南、江西省境地方——第十六軍、兵員六千、小銃三千

三、河南、湖北、安徽省境地方——許繼慎の率ゐる第一軍、兵員八萬、小銃四萬

四、湖南、湖北兩省——賀龍の率ゐる第三軍、兵員一萬、小銃七千

五、江西省東部——方志敏、邵式平の率ゐる第十軍、兵員五千、小銃二千五百

六、湖南、江西省境——李明瑞の率ゐる第七軍、兵員一萬、小銃五千

これらの軍隊は、それゝ各地のソヴィエート組織を守つてゐる。ことに、湖北省の赤軍はい  
ま、劉湘の率ゐる政府軍と戰闘をまぢへて居り、武漢を警備する湖北省の政府軍は赤軍の第  
一、および第十六軍と交戦中で、赤軍の前哨はいまや、武漢を去る僅か五マイルの地點まで進  
出してゐるといふ。また、江西省東南部にある赤軍は陳濟棠の廣東軍と交戦中であつたが最近

漳州を占領して、廈門を脅かしつゝある。赤軍の漳州占領の結果、中華ソヴィエート臨時中央政府は、江西省瑞金から福建省龍巖に移つたと傳へられてゐる。龍巖は模範的なソヴィエートのあつたところで、廈門攻略のために恰好の足がかりとなる位置にあるから、恐らくこれは事實であらう。

一方安徽省の六安附近に待機中であつた赤軍は安慶に向つて大進軍を起し、じり／＼と南京に迫りつゝある。

正規の赤軍に非ざるバルチザン隊の活動は、主として滿洲に集中せられてゐる。今のところ、赤軍も、赤色バルチザン隊も、國民黨および列強側の大がかりな「討伐」にも拘らず、ます／＼その勢力を増大し、行動範囲を擴大してゆくばかりである。約百年前、ヨーロッパを徘徊した「××××の妖怪」は、いまや、どつしりと足を地につけて、支那全土を渾歩してゐるのだ。それはもはや、妖怪などといふ、もうろたる存在ではあり得ない。世界に冠たる日本軍の指揮者をして、これこそ、「眞の敵」と呼ばしめたほどの力を持つ「鋼鐵の軍隊」なのである。

## 八、慘めな賃銀奴隸の姿

ソヴィエートの成長、赤軍の發展は、當然都市における労働者の運動との關聯において、考察されなければならない。中國共産黨は、何を置いても、まず、労働者と農民の同盟、××運動における都市労働者のイニシアティヴを強調してゐる。現在、農村における××の進展と都市におけるそれとは、たしかに不均等である。しかも、この不均等の均等化こそが、支那労働者農民の最後の××のために、缺くべからざる前提なのだ。もちろん、「一省或ひは數省の勝利」の意義は重要である。しかし、主要なる生産點を確保することなしには、「全支那における××」はあり得ない。したがつて黨は、今後も、農村における××を、さらに强力に押し進めるとともに、都市労働者の間における活動をます／＼廣汎に展開するであらう。

これが故に、上海事變は、この活動の分野に如何なる變化をもたらしたか。また、いま、この活動分野はいかなる状態にあるか。——といふ問題への解答は、近い將來に、支那ブルータリア

ートの運動が迎る過程に關して、大きな暗示を與へるものである。

これについて私は、四月中旬、「大阪毎日」に書き送つた三つの通信をこゝに引用する。

A

黄浦江の河面に、乳いろの夕靄がたちこめ、南京路の電飾が漸く光を増し初めるころ、試みに、市の東部、または西部の工場地帯を歩いてみよ。日本人の紡績工場はまだ紡錘の運轉をとどめたまゝ、その多くは、軍隊の宿舎にあてられ、しめ出された工人約六萬と稱せられるのに、相も變らず、青い労働服の洪水は町を埋めて、眼路の限り、蜿蜒と、聲なきデモをつづけてゐる。商品として投げ出されてゐる労働力の總量にくらべてみれば何といつてもそれは一小部分だ。相つぐ飢餓、水災、（國民黨政府の小才子どもは、これをすべて自然的原因に歸し、鼻くそほどの救濟金を集めて涼しい顔をしてはゐるが、實をいへば、これは彼らを手先とする地主や高利貸がさんざん農村を食物にしてその生産力をぶちこはした結果なのである）によつて荒廢した農村は、年々、働くにすべき人間を、大量的に都會へ向つて送り出してくる。何はともあれ、生きなく

てはならぬ彼等だ。最低限の生活を保證してくれるならば、どんな苛酷な労働條件も物の數ではない。だが、みながみな、黃包車をひき、渡止場で荷を運び、工場で機械に追ひ立てられ得るわけにはゆかず、過剩労働力の氾濫は、こゝに當然乞食や立ちん坊の形における、巨大な、むさくるしい産業豫備軍を構成した。

いふまでもなく、豫備軍の増大は現役労働者の労働條件をます／＼壓迫する。安價な労働力は資本家にとつて最大の恩恵だ。支那の政治經濟機構は、この安價な労働力を堆積するために特に便利な裝置をもつてゐる。いつまで、この裝置が破壊されずにあるかどうかは別個の問題であるが……

ところで、こんどの上海事變だ。それは事前に日本人の紡績工場の閉鎖でとにかくも、一月中の賃銀をもらつただけの失業工人を約六萬街頭に投げ出し、事變中の經濟活動の停止によつて、さらにこれを累加し、直接戰火にやかれた地域においては、家なく仕事なく、徒らに餓死線を彷徨する幾萬の避難民大衆をつくり出した。彼らのうちで一部分は生れ故郷の農村へ歸つて行つた。しかし、そこでも彼らは餘計者である。もとより農村における過剩労働人口として押し

出されて來た彼らを容れる餘地はあるでない。古い家族制度の根づよく残つてゐる支那のことだから、しばらくは親類縁者の厄介になることも出來ようが、所詮、彼らは、再び、都會に出て、產業豫備軍に編入される運命をもつてゐる。

生れ故郷へ歸れなかつたものは乞食か立ちん坊の群に投じて露命をつなぐほかはなかつた。停戦後一ヶ月ばかり、まだ町に殺氣がたゞようてゐた間は彼らも、どこに影をひそめてゐたのか、一向眼につかなかつたが、四月一日の開市をひかへて、うらゝかな春光に人の心もやはらぎ初めたところから、その公然たる進出は初まつた。

「家は戰火に焼かれ、父は兇刃にたふれ、母また行方知れず、云々」といつたやうな悲愴きはまる文句をかきつらねたプラツカードを首にぶらさげた子供、たゞ、むやみに號泣しながら町を流して歩く老婆、橋のたもとに大班らしいのをのせた黃包車をまちかまへて先びき後押しを勝手にやつたあげく幾枚かのドンペイをせがむ男等々乞食乃至は立ちん坊として想像し得る技巧は、すべて上海の街々にぶちまけられてゐる。もし閑人があつて、「乞食と立ちん坊のモデルノロヂオ的考察」とでも名づけるやうな研究を試みようとするなら、今こそ絶好の機會ではある。

だがこれは、そんな閑人のディレッタンチズムにまかしておくには、あまりに痛々しすぎる現實だ。といつて、抹香臭い「慈善家」にとつては少し荷が勝ちすぎる。それなら一體どうしたらいののか——これについて、私はいま、彼らの「救濟」をめぐつて公安局と中國共産黨との猛烈な對立抗争が表面化しつゝあることのみを報告するに止めておく。

## B

量をかむつたおぼろ月がカセイ・ホテルの尖塔にかゝつて漏の底に汽笛が鳴る。開市後の上海の夜にありし日の面かけをたづねて、私は車をとばしてゐた。ガーデン・ブリッヂを渡つてバンドヘ、南京路をバブリングウエルへ出て佛租界へ、それから歡樂境・大世界の傍をかすめて再度バンドヘ——このコースを、或ひはレストランへ、或ひはダンス・ホールへ、或ひはハイ・アライへと、しばゞ道草をくひながら夜更けまでかゝつて一まはりして來たのであつた。どこへ行つても、いつ戦争があつたのかといはんばかりの賑やかさ、たゞれたブルジョア文化の華は黒天高城の夜を匂やかに咲きほこつてゐる。阿片窟に近い大世界では、さすがに、支那風のヴァライエチを見にはいる勇氣も出なかつたが、いつに變らぬ野鶏の大進軍、ながしめの十字火だ。

四月三日、中國共産黨は「支那分割の下相談にほかならぬ停戦交渉をぶつぶせ、打倒反動的國民黨！打倒帝國主義！」で大デモを決行し、たぶん英國領事館に押しよせるであらうといふ風説がとんだ。毎日のやうに傳單がまれ黨員が逮捕される今の上海だ、西部の日本人紡織地帯でも「工代會議を開け」のアジテーションが行はれ「無產青年小新報」を懷中にした青年が數名捕へられた矢先、私はしきりに職業的な興味をそゝられて、所定の時刻にバンドへ出てみたが、この日はつひに何ごともなかつた。

だが、とにかく上海はたぎる埠場だ。つひには、そのなかから、さんらんたる黃金がとり出だされるのではあるが、われらは、たゞこの黃金によつて培はれたエロとグロの都上海にのみ視野を限ることは許されない。黃金は礫石から抽出される。さきにのべた巨大な產業豫備軍はこの礫石にほかならぬ。一口にいへば、山とつまれた礫石から黃金を抽出する過程こそが、あらゆる混亂と錯綜の母胎なのだ。したがつて私は、この過程、すなはち、支那労働者の労働條件をこゝに一應見ておく必要を感じる。

アスターハウス・ホテルにおける在上海財人座談會の席上で、私は在支紡績不必要論のある

ことを聞いた。それは、日本資本家が支那の安い労働力を使用して綿糸綿布を生産することをやめさへすれば、日本内地における紡績業の苦境も何とか打開され、今度の上海事件のやうな問題もあれまで擴大せずにすんだであらうといふのだ。列席した大部分の人達は、この迷論を「安い労働力を利用しないといふ法はない」と一蹴しおつた。まことに、それは理路整然たるブルジョア・イデオロギーである。「労働力はやすければやすいほどいゝ、對體的な勢力が急速に成長しつゝありとはいへ、上海に集結した巨大なる產業豫備軍は、まだく原始的な搾取を可能ならしめるであらう。毎日運動の彈壓に、なほ多くの血を流さうと、とにかく利用出来るだけ、この安い労働力を利用しなければならぬ。それが、とりもなほさず日本（資本主義）のためなのだ」——これが日本資本家の間に支配的な見解なのである。

ところでまづ、江蘇省の紡績女工の話を聞く。

「この無制限な労働（十四時間から十七時間にもおよぶ）に對して何が與へられるか、一日四十セントの賃銀です。むしろ一文も與へられないといつた方が當つてゐるでせう。我々を従順にさせておくために、僅か半分、即ち日に二十セントしか支拂はれないのですから。他の半額は抑留

されて二ヶ月間に支拂はれるのです。所がもしこの二ヶ月中に病氣のためにせよ女工がたゞ一日でも怠けたなら彼女が血を絞つて稼いだこの抑留された金は全部沒收されてしまひます。實際いふとわれくは一日僅か二十セントの賃銀で働かされてゐるわけです。なぜなら二ヶ月間氣分が悪いとか病氣とかで缺勤せず、賃銀の半額を沒收されすにすむものは極めて少數だからです」

日本人紡績の女工がこの状態だといふのではない、極端な場合がかうなのだ。

## C

ウイットフォーゲルによれば上海における「最貧階級の労働者夫婦の生存最低額は月十六銀ドルに達する、ところで不熟練（苦力）労働者の賃銀はほとんど十五銀ドルには達せず、しばくそれよりはすつと低くて八銀ドルまたはそれ以下なのだから、妻子の共かせきは最も原始的な生活上の必要に關する問題」なのだ。

上海の市社會局のしらべによると紡績労働者の最低賃銀平均（成年労働者）は月十五銀ドル五十七セントである。これは一家族の最低生活費にも足りない。しかも巨大な產業豫備軍の存在は、つねに、大多数の労働者の賃銀をその最低水準におし下げる可能ならしめる、だから

この最低賃銀平均は大多數の紡績工人たちの平均賃銀と見てさしつかへない。加ふるに月十六銀ドルの最低生活費では次の如き非人間的な生活も當然である（マローンの報告による）——縦横十フィートの土間からなるそのやうな一間が二家族を抱擁してゐるのを見た。そのかけにあつて、やはり二家族を収容してゐる間は一つも窓がないので僅か四銀ドルの家賃だつた。部屋には單に厚板で荒削りに高く組立てられた四フィート平方の寝床が一つづゝあつて、垢に汚れたボロ／＼の覆ひがかけてあつた。たつた一つの場合、私はほんとうのベッドを見た。その他の道具はかまどと爐に代用する煉瓦からなる小さい爐から成立つてゐる。そして壁にはさびた釘に古い着物がかゝつてゐる。

も一つ上海の市社會局でしらべた各種産業労働者の賃銀明細表があるが、煩を避けるためにこゝには八種類の産業中織維産業労働者のそれのみを掲げておく（單位銀ドル）

成年	紡 糸			婦 人			童 兒		
	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低	最 低
B	一・六八	〇〇・四〇	一・三二	一・八六	〇〇・三六	一・一八	〇〇・三八	〇〇・六五	〇〇・二二
A	二・八八	〇〇・三二	一・八六	〇〇・一八	〇〇・六五	〇〇・一八	〇〇・六五	〇〇・二二	一・一八

織 布	二〇	二〇	八八
紡 織	一〇	一〇	五〇
紡 織	三一	三一	〇〇
紡 織	七二	七二	〇〇
毛 糸	一〇	一〇	八六
毛 糸	三三	三三	〇〇
毛 糸	〇〇	〇〇	〇〇
編 物	二〇	二〇	七八
編 物	一七	一七	三一
編 物	一〇	一〇	三九
其 他	〇〇	〇〇	〇〇
其 他	九二	九二	〇〇
其 他	二六	二六	一〇
其 他	〇〇	〇〇	五七
其 他	七八	七八	〇〇
其 他	一三	一三	一七
其 他	〇〇	〇〇	〇〇
其 他	二三	二三	〇〇
其 他	一九	一九	〇〇

ところで、日本内地における織維労働者の賃銀はどうか――私の手元には内閣統計局のごく概括的な数字しかないが、それによると昭和六年二月には平均一圓四錢四厘、九月には八十六錢五厘、これを現在の相場で銀ドルに換算すれば約一ドル五十五セントおよび一ドル三十セントになる。これは月額（休日なしとして）四十五ドルおよび三十九ドルを意味する。これをさきの紡績労働者賃銀最低平均十五銀ドル五十七セントに比較すれば二倍半乃至三倍になる。こゝにおいて

こそ、「安い労働力をあくまで利用しないといふ法があるか」なんだ。

支那には實に立派な工場法があり原則として成年労働者の労働時間を一日八時間と規定している。しかし、これも資本家側の恣意に對しては殆ど無力だ。上海における織維産業の労働時間は次のとくである（單位時間）

最長	普通	最短
一二	一二	一〇・五〇
一二	一一	一〇
一二	一一	八
一〇	一〇	八
一一	一一	九

日本における織維産業の一日作業時間は平均十時間二十分乃至三十分だ（日本の織維産業中には最も原始的な搾取が行はれつゝある製糸業がかなり重大な要素になつてゐることを考慮しなければならぬ）

以上に羅列した数字はすべて資本家側から材料が出たものと推測せられるから實際はもつとひ

どいと見ていよ。なほこのほかに兒童の賣買、打擲、労働者を奴隸化する粗末な工場住宅、トラックシステム、婦人労働者の酷使等々あらゆる非人間的な搾取方法がまだ半ば公然と行はれてゐる。したがつて資本家は、日本内地におけるよりはるかに多くの「自由」を享受し得るわけだ。この自由がいつまで續くか。今度の上海事變がます／＼日本資本家の享受し得る「自由」の範囲をひろめたか。またはせばめたか——それは今後に残された問題であるが、四國の情勢はすでにこれに對して消極的な解答を暗示してゐるではないか。

## 九、工場法、苦力、請負労働

國民黨政權の支配は、都市プロレタリアートの生活を、これつばかりも、改善しなかつた。いや、むしろ、彼らは、「利潤第一」の鞭に駆りたてられた新興國民ブルデヨアジイの貪婪な搾取の露拂ひを承つただけの話である。

しかも、彼らは、露骨にこの役割を努めることは出來なかつた。意識の後れた大衆を、何らか

の方法で偽瞞することによつて、彼らを自己の側につなぎとめて置かねばならぬ。さうしなければ、まさに崩壊しようとしてゐる自己の足場を維持することが出来なかつたからだ。千九百二十九年末に制定せられた工場法などは、まさに、この偽瞞策の代表的なものである。これこそは羊の假面をかむつた狼。労働者保護に名を借りた、搾取強化の法律化以外の何ものでもない。それは、まづ、十四歳以下の兒童の使用を禁じながら「輕度の容易な作業」にのみ、十四歳乃至十六歳の少年を使用することを許してゐる。婦人と兒童は、「危險な作業」に從事せしめることは出來ないとも定めてゐる。なるほどこれは表面から見ると至つて正しい規定ではある。しかし、何を以て「輕度の容易な作業」と見なすか、又、如何なる作業を「危險」なりと認めるかに關してはしごく莫然たる規定しかない。それらは、雇主側に立つものゝ裁量によつて充分の伸縮性を持つてゐるのである。

勞働時間にしても、八時間と一ヶ月で規定されてゐるが、それは「地方的な事情」や「作業の性質」によつて必要とされる場合は十時間まで延長することが出来る。しかも、やむを得ざる場合、一週間の勞働時間が三十六時間を越えざる範囲で、一日十二時間まで引のばしてもよいとい

ふ條項まであるのだ！

また、三年間續いて労働した場合には、年に七日乃至三十日の休暇を與へるべしといふ規定がある。だが支那では、三年間も同じ仕事につづけて從事する労働者は稀であり、さらに、無給で七日乃至三十日の休暇をとる程「餘裕」のある労働者は皆無であるといつていゝ。したがつて、この規定も一片の空文にすぎないのだ。賃銀に關しても最低賃銀は定められて居らず、婦人労働者が男子労働者と「同じ仕事を同じ効率を以て」やつた場合には同額の賃銀を支給すべしと定められてゐても、「同じ効率」かどうかは、雇主側の恣意によつて決定されるのであるから、この規定もないのも當然である。

この他、條文の々々について、その不備と欠陥を指摘してゆけば際限がない。一口にいへば、すべては注意深く、雇主側にとつて「無害」であるように仕組まれてゐる。しかも、雇主側は、これの實施に對してさへ、やかましく抗議した。さらぬだに後れてゐる支那の資本主義的企業は、この法の實施によつて利潤を奪はれ、遂に破滅するほかはない、といふのがその言ひ分だ。こうした抗議のために、一見、進歩的である如く裝はれた工場法も、まだ、現實には適用され

たことがない。すべては繪に描いた餅——しかも偽物の餅だ。

支那労働者の一般的な狀態については、さきにかけた通信に、今さら註釋を加へる必要もないと思はれる。しかし、支那に特有な苦力と、請負労働に關しては、どうしても一應の説明が必要である。

苦力、こそは、支那における、あらゆる賃銀奴隸の最下層にうごめく、灰いろの群だ。

上海には、一二萬乃至十萬の黃包車のひき子がある、といはれてゐるが、たしかな數字は例によつてわからない。彼らの純收入は、一日、平均〇・一九二ドル、その労働時間は朝番午前六時から正午乃至午後三時まで、夜番正午から午後十一時まで、或は、午後三時から翌朝午前五時まで、晝番、午前六時から夜十一時まで、となつて居り、一日平均労働時間は九・一九時間である。しかし、十時間労働が普通で、なかには二十四時間働きづめといふのがある。この場合、睡眠は仕事の暇に、車に腰かけて假眠をとるほかはないのだ。こんな状態だからその労働日は月二十日間を越えることが出來ない。したがつて健康状態は非常に悪い。餘程嚴文なものでも五十歳以上で、この仕事はつとまらぬ。平均從業期間は五ヶ年、せい／＼六ヶ年だといはれてゐる。

これらのひき子はすべて「親方」に屬してゐるが、親方の搾取は實に極度的。加ふるに、街頭でちよつとした事故を起しても、罰金はすべて自辨である。“HUMAN DRAFT ANIMALS”といふのは決して比喩ではない。彼らの現實の姿だ。

苦力の仕事は、黃包車のひき子のほかに、ドツクや波止場人足、荷車ひき、荷物運搬人足、等種々あるが、狀態は似たりよつたりで、これらは大てい請負労働であるから、そのバスによつて、生理的な條件の許す最大限度まで搾りとられてゐる。

請負労働制度は、ことに織業、タバコ製造業、ドツク人足の間に、古くから根を張つてゐた。勿論、ほかの種類の企業にも廣汎に適用せられてゐる。いふまでもなく、これは企業の主體と労働者の間に一種のボスが介在して、労働者に関する限りそのボスが全責任を負ふ制度だ。まず、日本にも残つてゐる封建的な「人入れ詰業」と思へば大した間違ひもあるまい。

上海では、これらのボスは、青帮、乃至は紅幫に屬するギャングが多い。彼らは、その配下の労働者を、がつちりと「締めつけ」てゐるからストライキの場合など、これらの労働者は常にスキヤップとして大きな役割を果してゐる。

ところで、企業主體が支拂ふ賃銀は、すべて、一應、ボスに手渡される。ボスはこのうち、一割見當の上前をはねて労働者に支拂ふんだが、労働者の方でも、これを當り前のこととして、少しも疑問を持たない。場合によると一割の上前は、二割になることもあるが、それでも彼らは黙つてあきらめてゐる。

労働者が病氣にかゝつた場合には、企業主體の側には、もちろん何の責任もない。ボスは普通これら労働者に歸郷するだけの旅費を與へる。ボスの義務はたゞ、これだけなのである。しかも、「上前」をはねて儲けるばかりでなく、企業側から銀ドルで受けとつた賃銀を、労働者に對しては銅幣で支拂ふことによつて二乃至八パーセントのかすりをとつてゐるのだ。さらには、織業においては、ボスが労働者に對する食料品供給權を持つてゐるから、これによる儲けも莫大な額に上る。ボスとその配下の間には、かつては、封建的な情誼の關係もいくらかはあり得た。しかし、今では、それも昔の夢で、そこには鐵のように冷たい搾取關係と、苛責の鞭が殘つてゐるばかりだ。

以上が支那労働者狀態のスナップである。それは、賃銀と、封建的な隸屬の鐵鎖に縛られた

「永遠の奴隸」の姿にはかならぬ。だが、彼らが、この鐵鎖の本質をはつきりと意識し始めた時には、そこに「多數者」の恐るべき力が湧き上るであらう。中國共産黨は、この恐るべき力を、自己の側に獲得せんがために、いま、決死的な闘争を開戦しつゝあるのだ。

如何に馴れた家畜も、時と場合によつては、猛然とその飼ひ主に襲ひかかることがある。支那労働者のフレクシブルな性質を強調してすでに徴のはえた過去の経験を將來にまで適用せんとするものは、當然、大きな誤算の苦汁をなめなければなるまい。

## D、金融危機・浙江財閥・上海自由市計劃

### 一、潜在的な金融危機

四月の初めに、私は、次のように書いた――

「國民黨政府は日本との停戰交渉において、あくまで、その主張をつゝぱり、もし日本がこれを容れなければ、あへて決裂を辭せず、再度、劍をとつてあくまで『暴逆日本』に抗する決心をもつ」とか「血は流すべく、頭は斷つべし、されど國は亡ぶべからずだ、何でもかんでも、日本軍を上海附近から追つ拂へ、これがために、第二次世界戰争をまき起さうと、支那の知つたことではない」とか、勇壯活潑なデマが巷に亂れとんだ。この様子では、悠々たる江南の春にそむいて、再度砲聲がとどろき、鐵と血の流れが、菜種花さく野邊をのたうちまはるのではないかとも

疑はれたが、さて月がかかると、すべてはエブリル・フールでもあつたのか、罷市はやみ、戒嚴令はとけ、商店の飾窓には、一時に百花れうらんの春が來た。さすがにまだ北四川路の夜は暗いが、あちら、こちらのダンスホールからは腰やかなジャズの音がもれ聞え、醉漢をのせた黄包車がおそらく町をゆきかぶ。だが實をいへば、罷市がやんだといつてもたゞ小賣商が店を開けただけの話で決してすべてが常態に復したわけではない。金融機關は事實上のモラトリアムをそのまま持ちこしてをり、佛租界で日本人何某が、モツブに襲はれ、半死半生の程度までたきのめされたといふ事實もある。

うち見たところ、うらゝかな上海の春も、うらにはドス黒いいくつかの危機をはらんでゐるのだ。

一口に危機といつても、その内容はさまざまである。政治的危機、軍事的危機、經濟的危機、等々。私はここで、ただ經濟的危機をのみとりあげよう。

經濟的危機は、信用危機において最も集中的に表現される。開市が文字通り、すべての取引の常態に復することを意味するならば、それは、おそらく、この經濟的危機を、まず信用恐慌の形

で一舉に表面化せしめ、上海の經濟界は收拾のつかぬ混亂状態にまきこまれたことであらう。だが、これは金融機關の事實上のモラトリアムで、いまのところ、どうにかせきとめられてゐるのだ。それは、まだ、現金の拂出しに對しては嚴重な制限を設けてをり、すべては帳簿上の取引にすぎぬ。李錦氏などは、「錢莊にしても、銀行にしても貸金の取立てはびしくやつた半面、現金の拂出しを極度に制限してゐたから、キヤウシユは非常に豊富だ、したがつて、恐慌など杞憂にすぎぬ」と樂觀してゐたが、銀行や錢莊がその債務の百パーセントまで現金をもつてゐるようはない。だから、一齊取附をうけても、断じて倒壊の憂ひはないなどといふのは、一つのナンセンスだ。もしこんなことがあり得るとすれば銀行や錢莊といふ商賣は、もはや商賣ではなくくなつてしまふ。

もとより信用恐慌が起るのには二つの場合がある。一つは高景氣による過度の信用膨脹の結果として、一般的恐慌の爆發と同時に表面化するもの。他は、さきに高景氣をもたず、慢性的な沈滯期のあとに、まづ一般的な恐慌が起り、この恐慌の結果として一定の時期に表面化するものがこれだ。いま、潜在的な形態で存在する支那の信用恐慌もむしろ他の資本主義列強における

と同様、第一の場合に屬すると見るのが至當だと思はれる。一九三〇年から三一年へかけての支那資本主義經濟は、例の銀價格低落の影響をうけて一時的な輸出促進、物價騰貴、企業勃興等の現象があり、一見非常に景氣がよかつた。地價も上つた、公債の價格も上つた、これがため信用は不自然に膨脹した。しかしこの信用膨脹の程度も反動が来るとともに、直に信用恐慌となつて爆發するほどまでに甚だしくはなかつた。この時代の支那資本主義は景氣局面にあつたとしても、決して高景氣局面にあつたとはいへない。したがつて、いまある潜在的な信用恐慌も、この景氣局面のうちに直接原因を求めるのは少し無理だ。………

この潜在的な信用恐慌の背景については、すでに、本書、第一章のうちに、その素描をかゝげて置いた。要するに、國貨提唱、日貨抵制を要求した、年若い支那資本主義は、それ自身として、また、その體制の内部的な發展の不均等の故に、當然、全機構の上部構造たる金融體系の危機を醸成せすには置かなかつたのだ。

こうして、支那資本主義は、その危機を、最も集中的に金融體系のうちに反映しながら、その表面的な暴發を辛じてせきとめつゝ千九百三十一年の師走を越したのであつた。ところが、年

を越すと、直ちに、上海事變だ。砲火は、つひに、支那資本主義の心臓にまでせまつた。——國民政府が正月は新暦でやれと布令を出しても、支那は、依然として取引の決済を舊正月前にやつてゐる。だが事變勃發を理由とする事實上のモラトリアムは、舊正中心の金融繁忙期を、とにかくも先へ押しやることによつて、破綻の暴露をふせぎとめるに役立つた。「モラトリアムの期間中に、何とか糊塗策を講じて、どうにか、當面の事態を收拾することが出来るであらう」といふのが、金融業者の肚であつたし、また、彼らも、多方、策をつくして、この方向に努力したのであつた。しかし、一面、上海事變による政府の信用の失墜は、一時的な暴騰はあるにしても、當然公債價格の崩落となつて理はれなければならぬ。上海における近代的な組織の銀行は、千九百三十一年末、五億三千萬ドルの政府公債を抱きこんでゐた。これは政府公債總額の約四十パーセントにあたる。この莫大な「資產」の減價が、いかに銀行の基礎を搖がすかは想像に難くなつた。しかも、直接事變そのものによつて支那側の被つた損害は、

## 一、交戰地域

### A 工場

六七、九九一、八七四ドル

B 商 業	一四七、五四八、一六八
C 住 宅	五六六、五三五、九五三
D 建 物	二〇三、一三八、八八三
計	九八五、二一四、八七八

## 二、交戦地域以外の支那領土

A 工 場	五、六二四、六五七
B 商 業	一六一、九二五、一九八
C 住 宅	一七、五六八、一〇三
D 建 物(家賃)	九三〇、五五五
計	一八六、〇四八、五一三

## 三、共同租界及び佛租界

A 工 場	二三、五四三、七五五
B 商 業	二八八、六六三、七〇八
計	三一二、一九八、四六三
	一、四八三、四六一、八五四

と見積られてゐる。これは支那側の計算だから或ひは過大に推算せられたものかも知れない

が、とにかくこの事變が全體としての支那資本主義經濟にすみぶん手ひどい打撃を與へたことは否認出来ない。そして、それは直に、金融機關の基礎がぐらついてゐることを意味する。中小工場の多かつた閩北の潰滅は、それと深い關係を有する錢莊を著しく脅かした。毎日による封存日貨の累積もさうだ。しかも、錢莊の破綻はそれと取引關係のある多くの銀行に波及せざるを得ぬ。この故にこそ、彼らにとつて、「モラトリアムはほむべきかな」であつたのだ。

たしかに、事變は、上海における一流錢莊の約半數を徹底的にたきふせた。錢業公會は、同業者の相互扶助のために、一種のブル組織を作り上げはしたけれども、颓勢を支へ、昔日の繁榮を再現することは到底出来ない相談であつた。もとより、錢莊の没落は、一つの必然であつて、事變のために、さらに拍車を加へられた資本の集中、集積の過程が、その必然のコースをいくらくか縮少しただけの話である。……

四月初旬、私は、支那の財政經濟通で、有名な「支那の通貿」の著者、エドワード・カン氏に會つたが、その時、「錢莊の運命」がわれ／＼の話題に上つた。彼は、「錢莊の機能についてどう考へるか」といふ私の質問を、

「あれはもう、アウト。オヴ・デー卜だ。つぶれるならつぶれるでいい。あんな中世的な組織では、今後、大したことも出来やしない」

と、恐ろしく簡単に片づけてしまふのであつた。さらに、「そんなことをいつたつて、支那の工商業には、まだ多くの中世的なものが残つてゐる。こゝに錢莊の存在理由があるではないか」と抗辯すると、

「近代的な形態の銀行が充分これにとつてかはることが出来る。だから、錢莊がなくなつたつて、少しも困らない」

と、あくまで强硬に錢莊を否定する。かういつたからといつて宋子文の相談役までつとめてゐるこのカン氏が、支那銀行資本の忠實な御用學者だ、といふ證據にはならぬ。彼は、たゞ、あるがまゝの現象を正直にうけいれ、これを正直に語つただけの話だ。

だが、私は、錢莊の没落は避けべからざる必然であるとは考へながらも、カン氏の如く性急に、これを否定するのは問題だと思ふ。

錢莊は、すでに、二百餘年の古い歴史をもつて居り、莊票はまだ一般支那商人の間に、牢乎た

る信用を保持してゐる。なるほど、支那資本主義の急速なる成長は、錢莊の組織を、すでに「子供の衣服」と化してしまつた。そして錢莊は、今まで果して來た役割の一部を、次第に、近代的な形態の銀行に奪はれつゝあつた。しかし、資本主義的な巨大經營にとつて「子供の衣服」である錢莊も、まだ、多分に残つてゐる前資本主義的な中小經營にとつては、「ビツタリと身に合つた衣服」なのである。——没落の過程を辿りつゝある、といふことは、即刻没落する、といふ意味ではない。

## 二、危機は去つたであらうか

潜在的な信用恐慌の表面化をふせぐために上海の銀行資本がとり上げた第一の方策は聯合準備金庫の結成であつた。

この組織の提案者、李錦は、準備金庫結成の具體的なプログラムが發表された時、私に、次のように説明してくれた。

「こんど、私の計畫で、上海にある近代的な組織の銀行の聯合準備金庫をこしらへることになつたが、これは、支那銀行の信用を著るしく高め、その基礎を強固にする効果があると自信してゐる。つまり、各加盟銀行が優良な資産を出し合つて一つの準備金庫をつくり、この金庫の資産實價の七十パーセントまでサーティファイケートを發行し、これをキャッシュ同様に流通させるのだ。これによつて銀行相互間の團結を強固にし、各銀行に對する預金者の信頼をあつくすることが出来る。また非常時（恐慌の意味——筆者）に際しても、この組織のために銀行の基礎を動搖させられずにするであらう。

準備金庫の形はすでに出來たが、各銀行の出した資産の評價に少し暇がかかるから、實際活動し始めるのは四月中ごろからだ。大體支那の銀行は、外國の銀行に比して、割合に現金を多く持つてゐるから安全なわけだ。

この準備會の結成が契機となつて、さらに手形交換所の組織が成立することにもなれば、いよいよ狀態はよくなるだらう」

これは準備金庫の本質の説明といふよりは、むしろ、提案者の抱負を語つたものと見ると見方正

しい。要するに、この組織の成立は、その當事者の意圖如何にかゝはらず、事變による混亂の收拾を機會として、莊票に代るべき聯合準備券その他を發行し、次第に錢莊を清算してその役割を銀行自らが果すことにより、さらに支那工商業に對する支配力を擴大せんとするものにほかならぬ。また、この組織がかかる積極的な役割以外に、より消極的な、自己防衛的な意味を含んでゐることは、李銘の説明した通りである。

とにかく、こゝでは、この準備金庫がいかに組織され、いかに運用せられるかを一瞥して置かう。

——會員は中國銀行以下在上海二十六銀行。  
但し規約を承認した銀行ならば、それが銀行公會に屬すると否とを問はず、上海に存在する限り、これに加入することが出来る。  
金庫は、會員銀行の互選による十一人の委員より成る執行委員會を置き、この中からさらに五人の委員より成る常務委員會を選出する。常務委員のうち一人は委員長となる。さらに不動產部、證券部、商品部にわかれ、評價委員會監理委員會が各々その名稱の示す如き職務を分擔する。各銀行の出資は、

一、上海共同租界およびフランス租界内にある不動産  
二、直ちに賣捌き得る商品

三、ロンドン或はニューヨーク市場において市場價格をもつ證券或は株券。外國銀行預金もこれに準ずる。

四、金貨、金に兌換し得る通貨、金地金

五、執行委員會の承認を経た（一）乃至（四）以外の證券

から成り、評價委員會がこれを評價した上、その評價格の七十パーセントまで、（イ）聯合準備券、（ロ）聯合金庫證券、（ハ）擔保證券を發行し得る。その割は、（イ）が、四十パーセント、（ロ）が二十パーセント、（ハ）が四十パーセントだ。そして、會員銀行は（イ）を現金の代りに振り出すが、その取得者が現金に代へようと思ふ時、聯合準備金庫にこれを提示すれば、一覽拂ですぐ現金を受取ることが出来る。（ロ）は（イ）を發行した銀行によつて、その擔保準備として使用され、（ハ）は會員銀行間に於ける貸借に擔保となるものだ。

會員銀行にして現金を要する時は、聯合準備券を金庫に提示してコールローンを借り入れること

とが出来、執行委員は、かかるコールローンの需要を充し、聯合準備券の償還に於けるため積立金を設定して置く。また、會員銀行は、發券銀行に、六十パーセントの現金と四十パーセントの聯合金庫證券を提供して、その全額まで銀行券の發行を受けることが出来る。但し、この場合には、三十日以内に金庫證券を償却しなければならぬ。

（一）この他細かい規定がうんとあるが、あとは省略する。

（二）この組織が果してどんな効果を有するかは、いま、輕々にこれを断ることは出来まい。潜在的な信用恐慌はまだ公然たる、大規模な金融恐慌となつて爆發せしにすんでゐる。だからといつて「金融恐慌は、もう支那には存在しない」と片づけてしまふのは明かに誤謬である。銀行の一年取付けとか、軒なみの休業發表とかいつた、從來の金融恐慌の型は、いま、小刻みな、慢性的な腐朽の進行にとつて代られ、局部的な爆發の可能性は見えすいた醜健策をもつてかへつて内訌せしめられつゝある状態だ。（これは××においても同様である）長期間にわたつたモラトリアムは、こうした對策のために、充分の餘裕を與へた。こゝにおいて、支那資本主義にとつては、再び「モラトリアムはほむべきかな」なのだ。實をいへば、恐慌を内訌せしめたのは、何も

## 聯合準備金庫の「功績」ではなかつた。

それにしても、この金庫に出资せらるべき資産の内容を一瞥しただけで、不動産、證券、商品等、おそらくは、會員銀行が、各々その貸付金の擔保としてとつたであらうことと思はせるものが大部分を占めてゐる。こゝに企圖せられた永結債權の流動化、そして莊票の役割の奪取——準備金庫は明かに、支那銀行資本が、これを以てその危機を克服するつもりでとりあげた諸刃の剣であつた。だが、金融體系は、所詮は全經濟機構の上部構造にすぎない。したがつて、この上部構造の部分的な修理、變形は全經濟機構に對し、何ら、本質的な影響を與へ得ざることは、諸資本主義國における幾多の前例が、すでに充分これを證明してゐる。だから、恐慌を潛伏せしめ、朝らかな未來を切り開くはずのこの劍の性能も、まづ、たゞ知れたものだといつて差支えはあるまい。

## 三、浙江財閥と國民黨政權

「資本主義」支那の先頭には、たしかに、國民黨政權がたつてゐる。しかしその眞實の支配者は、

いづこも同じ、一團の大金融業者である。私は、さきにも、しばゝ國民黨政權を國民ブルデヨアジイの手先と呼んだ。しかし、何が故に、さうであるかについては、具體的な説明を控えてゐた。支那に存在する潜在的な信用危機に觸れたわれゝは、いま、漸く、支那の金融體系の真相を見究めるとともに、國民ブルデヨアジイと國民黨政權との關係をはつきりさせる時機に到達した。

いふまでもなく國民ブルデヨアジイの核心は一團の金融業者である。そして、支那金融業およびその他の資本主義的企業の支配は殆どいはゆる浙江財閥の手に掌握せられてゐる。したがつてこゝでは、直ちに浙江財閥の解剖に移らう。それが、こゝに掲げた目標に到達するための最捷徑であるから。……

浙江財閥といつても、日本における、三井財閥、三菱財閥、乃至は住友財閥のように、一つの「家」をピラミッドの頂點においていた、整然たる企業體系を指すものではない。それはもつと莫然たる形態をそなへたもので、むしろ、浙江資本家團と呼ぶ方が適當かも知れぬ。普通浙江財閥といつても、（一）浙江省出身の、上海に本據を有する金融業者および實業家、を總稱する場合も

あれば、(二)これに江蘇省出身のものを包含せしめる場合もあり、さらに、(三)出身地の如何を問はず、上海を本據とする金融業者、實業家はもちろんのこと、「資本主義」支那の眼ぼしい有力者をすべて引つくるめて、こう呼ぶ場合さへあるのだ。

もつとも、(三)の場合にしても、このグループの中心には必ず浙江出身の政治家や資本家がゐるのだから、決して間違ひとはいへない。固有の意味における「浙江財閥」は、當然、(一)の場合に對してのみ使用されるべきであらうが、むしろ(三)の如く廣義に解釋した方が、國民ブルジョアジーと政權との關係を闡明するには便利である。しかしここでは、對象を一應固有の意味の浙江財閥に限り、必要な場合に限つてこの範圍をこえることにする。

上海が開港場として解放せられたのは千八百四十二年のことであるが、その頃この地の金融を支配してゐたのは山西票號であつた。

しかし、その後幾千もなく、これに對立する新進の勢力として錢莊が芽をふいた。そして幾度かのバニツクに淘汰され最後までその根を張つてゐたのが、浙江出身者の經營する錢莊であつたのだ。辛亥革命後には、近代的な組織を有する銀行へ、次第に浙江人の手が伸びて來た。彼らは

支那人特有の「同鄉」といふ、非常に緊密な連帶的精神性から互に固く團結し、歷代の軍閥と巧みに提携しつゝ、ついに國民政府を樹立せしめた。蔣介石はもとより浙江省奉化の生れだ。民國初期の上海都督、陳其美はかつて蔣介石の上長であり、しかも、陳の袁世凱に對する叛亂は、浙江出身の買辦の親玉、張靜江の援助によつて起されたものである。この張靜江はその後蔣介石の北伐を援け、共産黨員追放に關しても彼に絶大な支持を與へたといはれてゐる。

蔣介石と買辦の關係で、もう一人忘れてはならぬ人物がある。それは矢張り浙江生れの虞洽卿だ。彼は今でこそ浙江財閥の大御所、上海證券物品交易所理事長、共同租界市參事會員、三北輪船公司總理、等々の肩書をもつてはゐるが、かつては蔣介石とともに上海におけるギヤングの一員であつたのだ。後、蔣が失職して文無しで上海の町を彷徨してゐた時、彼を拾ひ上げて上海取引所の株式ブローカーにしたてたのが、その頃、取引所で相當の地位を占めてゐた處であつた。蔣は間もなくこの仕事をしくじつてしまつた。この蔣は再び處と、ギヤングの一方の旗頭だつた黃琪翔から資金をもらつて廣東へ出發し、こゝで革命軍に投じ、いよいよ政治的な「投機」に踏み出したのである。文人畫家としてちよつと名の知れた浙江の人王一亭は日清汽船の買

籍レジであつたが、彼と蒋介石との關係も二十年をこえる程古いものだ。上海事變の勃發前には、彼が上海市長に就任するといふ噂スズメガタさへあつたが、蒋介石と彼の關係から見て、こゝにいかなる芝居シマツが仕組まれてゐたかは大たい推察出来よう。

とにかく、こうした個人的な關係でつながれてゐる浙江財閥と國民黨政權だ。その政商として獲得する莫大な利潤はほとんど想像も出来ない。

浙江財閥が、對聯的なプロレタリアートの勢力の成長に脅テロやかされつゝも、とにかく「わが世の春」を讃歌することの出來た原因を要約して見れば、まず、次の如くである。

一、中央地方各政府の首腦者、要人が大てい浙江出身の人間であり財閥と何らかの關係をもつてゐること、したがつて浙江財閥は彼らをその忠實なる代理人として自己に有利に政治を動かし、要人側でもまたいろんな方面で財閥を利用してゐること。

二、浙江人が、最も古くから上海經濟界に地歩を占めたため、他地方出身の企業家もそれと何らかの關聯をもたずには何事をもなし得なかつたこと。

三、錢莊經營者に浙江人が壓倒的勢力を有すること。浙江系銀行はこれと提携し、ともに金融

### 界における財閥を握つてゐること。

四、浙江出身の企業家多く、金融業者と緊密に結合してゐること。

財閥と政權との絡み合ひは、金融業と政府との關係において最も端的に表現せられる。この意味で、まず、浙江財閥の支配する銀行、およびその國民黨政府との關係を見よう。

上海中央銀行は國民黨政府の國家銀行であり、國庫はその資金に一千萬元の金を投じてゐる。總裁はずつと政府財政部長宋子文で、彼はこの銀行をまるで自分の私用金庫の如く使用してゐる。しかもこの銀行の役員には錢永銘、張公權、李錦、秦潤卿、康治卿、その他浙江財閥の中心人物がすらりと顔をならべてゐるのだ。これらの連中は、すべて國民黨を財政的に支持することによつて、つひに、政權を獲得せしめた「功勞者」であつて、現政府との結びつきは最も強固である。しかも張公權は中國銀行の總經理、李錦はその董事長であるとともに、浙江實業銀行の總經理の椅子を占めてゐる。中國銀行は民國五年の春、袁世凱の不換紙幣發行によるインフレーション政策に叛旗をひるがえして北京の本店から獨立したもので、當時の行長は宋漢章、副行長、張公

權、ともに浙江財閥のチャムビオンだ。いまでは準國家銀行として銀行券發行の特權を有し、中央銀行が日本における日本銀行の役割を果しつゝあるに對し、この銀行は、正金銀行にも比すべく、主として爲替銀行の機能を營んでゐる。このほか、發券銀行としては交通銀行、浙江興業銀行、浙江實業銀行、四明銀行、中國通商銀行等すべて浙江財閥直系である。大陸、中南、鹽業、金城四行は直系でこそないが、これらは各二十五萬元づゝ出し合つて四行聯合儲蓄會および準備金庫を組織し、この主任に浙江財閥の元老錢永銘を充ててゐるから、この點で浙江系と見なすことが出來よう。しかも一面から見れば、これは閻外にある金融業者が何らかの方法で、浙江財閥と結合しなければ仕事が思ふように出來ない、といふ事實を裏書したものともいひ得る。

さて、これらの銀行の政權との結びつきは、その人的結合以外には政府公債引受の場合に、最も具體的にあらはれる。

例へば、千九百二十九年の裁兵公債、五千萬ドル發行の場合など、私用と稱して上海に來た蔣主席と宋財政部長は、宋の母堂の邸宅へ李銘以下の銀行家を招待して、談笑のうちに契約をとりきめてしまつた。三十一年五月、八千萬ドルの金を必要とした場合、宋は金城銀行の總經理周作

民（浙江財閥傍系）を南京に電話でよびよせこれを調達せしめた。……

國民政府にとつては、租稅による小刻みな收奪よりも、公債や借入金による大規模な資金蒐集の方がはるかに便利である。しかもこれを引うける銀行側は、貸上金の場合には巨額の天引きをやるか、二十ペーセントも三十五ペーセントも高い額面の公債を交附され、これを賣り出すことによつて莫大な利潤を獲得する。また公債の場合には、高率な利廻りと手數料と、額面と賣出價格の開きを儲けた上、償還基金保管委員會によつてこの債權を保證させる。そして、借入金にして公債にしても、これを終極的に償還する財源は主として各種の租稅收入だ。したがつて、上海の金融業者は、國民政府の手を通じ、間接的に大衆の苛酷な收奪をつゞけることによつて、莫大な利潤を獲得しつゝあるわけである。

公債の引うけはかくの如く非常に有利な儲け仕事ではあるが、その償還が保證されてゐることが何よりも必要である。これが公債償還基金保管委員會が設けられるに至つた原因だ。それは千九百二十七年上海海關における輸入一分五厘附加稅の全收入を擔保とするいはゆる江海關二十五附稅國庫債券が發行された時初めて設定せられたもので、これには李銘と張公權が時の財政次

長錢永銘を援けて非常に骨を折つた。こうしてその償還を保證されたこの公債は賣出價格は額面と定められながら最初二期二ヶ月分の利子を差引くから、これだけで額面の九八・六パーセントとなり、さらに、大口の引受けに對しては一割乃至二割の秘密割引が付せられてゐた。……

擔保の確實性と、利廻りの高率はこの公債の實行を非常な好成績に終らせた。そして、この募集事務に從事した虞治卿、李錦、張公權、秦潤卿等浙江財閥の巨頭達はその後も公債募集や借入金の世話をするのが恒例になつてしまつた。

政府側で急に巨額の金を必要とし、到底公債募集の餘裕のない時には、募集すべき公債を擔保として、上海銀行公會、錢業公會に一時現金の立替を依頼するのが常である。ところがこの習慣は公債募集の世話をするのが上述の顔ぶれであるのと相俟つてこれらの兩公會を中心とする浙江財閥が公債を一手に引受ける形勢を馴致した。もちろん、財閥側では、特別秘密割引等公債引うけに伴ふ莫大な利益が、何よりも有難かつたのである。しかも、公債四割、現銀六割をもつてゆけば、中國、交通兩銀行では領券特約者に限り、全額の兌換券を交付してくれるから、領券特約者（これは銀行と錢莊に限られる）は公債實價と兌換券面額との開きを儲けるだけではなく、さら

に、提供した公債の利子まで取得出来得るのだ。これほど有利な「投資」は、めつたにあるものではない。その上、浙江財閥は、その絶大な勢力を利用して各市場で公債を買爆り價格をつりあげて手持公債を徐々に處分して莫大な利益を收める。公債價格の釣上げは、政府をして新公債の發行を容易ならしめる。そして新公債の發行は、また、浙江財閥を肥え太らせる——實によく仕組まれたからくりではある。

公債を中心とする閩江財閥と政權との關係では、銀行が常に表面に立つてゐるよう見えるが、銀行の背後について、その分け前を要求しつゝある錢莊を見のがすことは許されぬ。すでに、おもむろに没落の過程を辿りつゝあつたとはいへ浙江財閥をここまで成長せしめたものは、これらの中堅であるのだ。したがつて上海における錢莊の營業は今でもほとんど浙江人の手に壊滅せられてゐる。そして、これらの錢莊は各々人間的關係を通じて或は取引關係を通じて銀行と密接に結びつけられてゐるので、例へば中央銀行の監事をつとめてゐる秦潤卿は長く福源錢莊の經理をつとめ、現在錢業公會長を承はつて、錢業界を牛耳つてゐる。浙江傍系に屬するが、中央銀行理事、榮宗敬は錢莊業に身を起して、支那における紡績王であり、また製粉王であ

る現在の地歩を築き上げた。さきに上げた金城銀行董事兼總理にして交通銀行董事たる周作民も、もとをたゞせば錢莊の出である。その他、數へ上げれば際限がない。

たゞ、注意すべきは、かつて、錢莊を經營したものが、今では近代的な組織の銀行に移り、或ひは、その他の産業に進出して、すでに錢莊業を「揚棄」しようとしてゐる點である。これは資本主義化の途上にある支那が特に都會において中世紀的なものを、次第に揚棄しつゝある過程の反映にほかならぬ。

公債發行を通じて多大の利潤を銀行および錢莊に奉獻して來た國民黨政權も、赤軍討伐の失敗、滿洲事變勃發來の對外的失敗による公債市價下落には閉口した。それは、露骨に國民ブルヂヨアジーの間に於ける對政府信用の失墜を裏書するとともに、今後ます／＼必要に迫られるであろうところの公債新規發行に多大の障害を與へるからだ。そして更に、これがため、個人的な情愞性關係よりもむしろ相互利用の關係において固く結ばれてゐる浙江財閥から見はなされることにでもなれば、彼らの足場は、たちまち崩壊してしまふ。一方財閥の側にしても、基本的には、直接帝國主義列強のもとに立つ買辦的な、半殖民地ブルヂヨアジー本來の性質にかへらうとする傾向がある。その要項は、

- 一、發券銀行は銀行券に對し百パーセントの準備をしなければならぬ。
- 二、この準備には、内六十パーセントは現金を以て、四十パーセントは證券を以て充てることが出来る。しかも、この證券は公債でなければならぬ。他の種類の證券は絶対に許されない。この原則に違反した發券銀行はその發券の特權を停止される。
- 三、全銀行は少くとも總資本の十パーセントの國債を保有しなければならない。
- 四、一部分は政府財政部、他の一部は上海諸銀行の出資にかかる公債價格安定のための基金を組織する。これは財政部長の直接監督下におき、諸銀行の選舉にかかる總支配人が事務を統轄する。

これを見ると、いかに政府當局が公債市價維持のために憂心をやつしてゐるかと、はつきりとわかる。國民黨政府自體も浙江財閥とともに、當然、帝國主義列強の××に屬するものである

が、ある程度の獨立性はそれにふりあてられる分け前をより多くからしめるために望ましい。したがつて、財政的破綻によつて少くとも今までの立場を失ふことは何よりも恐ろしいのだ。こゝにそれが全力をあげて浙江財閥との結び目を固くしやうとあせる原因が横はつてゐる。

#### 四、浙江財閥の陣容

##### 附、廣東財閥

公債の問題をめぐつて露呈せられた國民黨政權と浙江系金融業者の關係の一班は上述の如くであるが、これら金融業者と不可離の關係に立つ浙江系產業資本、商業資本と政府との關係も同様に緊密なものである。

國民黨政權が首領をとつてゐる自國産業の保護育成、その極端な現はれたる國貨愛用の提唱、日貨抵制運動等は、すべて、浙江系を中心とする支那産業資本の利益擁護を目標としたものなることは、今さらいふまでもない。こゝでは、もつと露骨な、個々の産業に對する政府の「偏愛」

を拾ひあげて見よう。

千九百二十九年一月、三北輪船公司は、政府に對し前年北京への軍隊輸送によつて蒙つた損失補償を要求したが、政府は直ちに、三百五十萬ドルをこれに支拂つた。こうした軍費は、毎月々々全國大衆に賦課せられたもので、この三北輪船公司以外には、未だ曾て支拂はれたことはない。ところでこの汽船會社は虞洽卿——放浪時代の蔣介石に金を與へて廣東の革命軍に投ぜしめた浙江財閥の元老株たるあの虞洽卿が創設し未だに總理をつとめてゐる會社なのである。

國民黨は、とにかく政權を握ると直ちに廣汎な建設事業を起したのであるが、これについても浙江財閥と當局は堅く結託して莫大な利潤を山分した。蔣介石が國民黨の元老にして浙江財閥の巨頭たる張靜江を全國建設委員會主席にすえたのは、過去における張の援助に對してすべらしい利權を以て酬るためにはかならなかつた。南京における首都建設の場合など、張靜江、劉紀文その他の有力者は匿名組合で土地建物會社を組織し、市街の區劃整理を豫知して土地買占めをやつたり、政府筋の建築を請負つたりして巨利を博したと傳へられてゐる。

すべてこういつた調子で、浙江系の企業はほとんど何らかの形における政府の「偏愛」をうけ

てゐる。ところで金融業以外における浙江財閥の勢力を人的關係の方面のみから追究してみると次の如くである。

### 一、紡織業

イ、大豐慶記紡織、數個の錢莊の經營者で上海の綿糸および標金市場の大手筋たる徐慶雲、(浙江省寧波の人)並びに秦潤卿の共同經營。

ロ、厚生滋記紡織染、寧波の人、薛寶潤、貝潤生の共同經營。

ハ、振華利記紡織、寧波の人、薛文泰の經營、彼はこのほか二つの錢莊を經營し、製油、絲棉工場をもつ。

ニ、振泰紡織、寧波の人、余葆三の經營。

ホ、崇信紡績、寧波の人、綿糸商の邵聲濤と蘇州の人綿糸商吳麟書との共同經營、一部分外資を入れてゐる。

ヘ、華豐紡織、王正延と錢永錦の發起にかかるが、下日華紡績に經營を委託してゐる。

以上が浙江直系と見なすべきものであるが、廣義の浙江系と目すべきものは、申新、三新、溥

をもたぬものは殆んどないといつていゝ。

二、石炭業

上海市中に約二百の石炭業者があるといはれてゐるが、内浙江直系は百五十、江蘇系一、廣東系二、安徽系一、實權は殆んど浙江財閥の手に握られてゐる。ことにその巨擘たる義泰興煤號、(最大の株主、浙江省紹興人、杜啓明)源泰煤號(店主、浙江省寧波人、劉鴻生)、湧記煤號(店主、浙江省紹興人、韓芸根)等はすべて浙江直系である。ことは劉鴻生は錢莊業、セメント業等に進出し、買辦としても有名、韓芸根は煤業銀行を通じて銀行業にも地歩を占めてゐる。

### 三、製糸工業、

經營者は江蘇省無錫、浙江省湖州の人が多く、最有力者、沈聯芳は浙江直系、但し、資金關係を通じてその殆んど全部が浙江系金融業者に結びついてゐる。

### 四、生糸業

泰康祥、同康泰、寶元祥等有力系棧はすべて浙江人の手に獨占せられてゐる。

### 五、航運業

最大の規模を有する招商輪船總局（江蘇系）はほとんど浙江系の勢力下に立ち、これに次ぐ一  
流汽船會社、三北輪船公司（虞治卿の創設）、寧紹輪船公司（上海在住寧波紹興出身者の共同  
經營）は浙江直系である。この他、鴻安、恒安、文記、元一は浙江系、大達、大通は江蘇系、  
政記、肇興は山東系であるが、實權はやはり浙江財閥が握つてゐる。

### 六、綿布業

最も有力な日新盛、および日新增以下一流の商店は大部分が浙江系、一部が江蘇系である。  
今次の排日で問題を起した協大祥は江蘇系に屬する。浙江系、萬成永號の主人李學暢以下、主  
な棉糸商が株主となつてゐる達豐、綸昌、兩染織商は千九百二十八年の排日に際して、日本  
品を國產加工品と稱して賣りこみ巨利を博した。これなどは、支那國民ブルヂヨアジイが排日  
運動を如何に利用してゐるかを示す好適例である。

### 七、棉糸業

江蘇及び浙江系が對立的に優勢であり、廣東、四川系がこれに次ぐ。したがつて廣義の浙江系  
がほとんどこれを獨占してゐると見て差支ない。最大的益大號は江蘇人吳麟書が經營してゐる  
が、これに次ぐ福泰號はさきにのべた浙江人徐慶雲の經營、崇德號はやはり浙江人邵聲濤の經  
營である。

### 八、棉花業

之に關しては浙江直系より上海および漢口の商人が有力だ。しかし、この仕事は取扱ひ金高が  
嵩むので、自然、金融業者と密接なる關係にあり、この方面から浙江財閥の支配を受てゐる。

### 九、染料業

大半は浙江系である。ことに歐洲大戰當時一躍財を成した瑞康盛、咸康潤、恒豐昌、德和潤  
等はすべて浙江人の經營にかかる。

### 十、醫園

この家内工場的な仕事にも浙江系が壓倒的な勢力をもつてゐる。

### 十一、砂糖業

福建省廈門出身の華僑と浙江人が一大勢力をなしてゐる。ことに寧波人方季揚（有名な寧波の資産家、有力な錢莊業者）一家は十数軒の銀行を經營して幅をきかしてゐる。

### 十二、通關運送業

これもその大部分が浙江系に屬してゐる。

### 十三、鐵工業

江蘇省無錫出身者が最大の勢力をもつて居り、浙江省寧波出身者がこれに次ぐ。これすらも魔義の浙江系の支配下に立つといへる。

以上のほか、中小商業に至るまで、浙江系の人物が入りこんでゐない部門はないといつていゝ。そしてこれらはすべて金融業者との關係において浙江財閥巨頭連から直接間接の支配をうけてゐるのだ。したがつてこの場合は、日本の金融寡頭支配の如く、いくつかのピラミッドの上に立つ數人の者が、ともに、眞の支配権を握つてゐることと過ぎを異にし、浙江財閥自身が若干の金融巨頭をその代表者として持ち、この金融巨頭連が國民黨政權を躍らしてゐることになる。しかし、浙江財閥と稱する資本家團のうちにも、資本の集中集積の過程は不斷に進行しつゝあり、

相當尖銳な利害の對立關係があつて、その頂點に立つものは、次第に少數となる傾向がある。この財閥内部における對立關係は、ことに、今次のブルデヨア的な排日戰線内部における矛盾のうちに、見事反映せられたのであつた。

しかし、この絶大なる力を有する浙江財閥の金融巨頭連も、世界資本主義と無關係にその獨自の優越的地位を享樂し得るものではない。上海事件による極度の金融逼迫に際しては、やはり彼らも上海における外國銀行の援助を仰がなければならなかつたし、又外國銀行も、その取引關係によつて、この援助におもむかなければ、自己の立場に累の及ぶ危險があつたのだ。かくの如く、資本主義列強、浙江財閥、國民黨政權は、かすかなる一すぢの「白い糸」によつて互にしつかりとつながれてゐるのである。

浙江財閥の支配者はなるほど、ひと握りの金融巨頭連であるにしても、歴史的に、財閥の中権機關であり、いまもその内部における金融巨頭連の勢力を通じて、依然中権機關たる不失はぬ上海總商會、およびその後身上海特別市商人團體整理委員會の存在を忘れてはならぬ。

上海總商會は光緒二十八年（1902年）上海商業會議公所として生誕した時から、その總理（嚴復）（サムライ）協

理（周金藏）は浙江出身者によつて占められてゐた。翌年、名稱は上海商務總會と改められ、さらに民國元年、商總會と改稱されたが、依然としてそれが浙江財閥の機關たるに變りはなく、歴代の首腦者はすべて浙江直系乃至は傍系の有力實業家であつた。そして、支那革命がまだ、ブルヂア民主主義革命の大旗を高くかゝげて、民族的な共同戰線をはつてゐる間は、總商會も有力な革命的機關であつたが、戰線内の階級分化が發展して遂にプロレタリアートと農民に國民ブルヂアジイが手袋を授けて以來は、強固な反××の一陣營と化して終つた。

大ブルヂアジイの利害を代表するこの總商會は、中小商人の組織した商民協會およびその階級的基礎を小市民におく國民黨市黨部の連中と、排日問題をめぐつてしばしば衝突を演じたが、つひに民國十八年、總商會、商民協會ともに解散し、新たに出來た上海特別市商人團體整理委員會によつて統制せられる事になつた。然し、この改組も、その常務委員會には虞洽卿、秦潤卿、王曉籟等、浙江財閥の巨頭達ががらりと顔をならべ、結局大ブルヂアジイの支配力を強化しただけの話である。だから、この團體もまた浙江財閥寡頭支配の機關以外の何ものでもないのだ。これらの機關のほかに、浙江財閥が人的關係を通じて有力なギヤンダの團體、青帮と結びつい

てゐることを注意しなければならない。その巨頭張嘯林は浙江省杭縣の生れ、阿片營業、銀行業、土地建物業等に關係し、フランス租界工部局華董（市參事會員）をつとめて居り、また、最近めき／＼賣り出した杜月笙は浦東の生れであるが張嘯林と同じ様な仕事に手を出し、財界にも相當幅をきかして、浙江財閥の重要な傍系的人物と見なされてゐる。彼らは、少なく見つもつて約十萬乃至二十萬の配下を擁或し、は「極左」彈壓の先鋒として、或はストライキにおける共產黨の「闘謀」粉碎のために、存分に「闇の王者」の勢威をふるひつゝある。しかも、いかに口に「正義」をとなへつゝありとはいへ、彼らの從事せる仕事は、阿片窟の經營、人身賣買、誘拐、脅喝、賭場の經營、銃砲密賣等々であり、ひと度「治安維持」のために勤員せられた場合には、たゞ捨身でがむしやらに國民ブルヂアジイならびに國民黨政權の御用をつとめるだけのことである。この點どこの國のギヤンダとも共通の性質を有するが、青帮ほど強力にして廣汎な組織を持つものは世界にも稀で、したがつてその擔當する白色×××の姿は到底他の國の比ではない。一片手に國民黨政權を握る浙江財閥は、背後にまわした片手にこの恐るべき「兇器」を握つてゐるのである。まことに至れりつくせりといふべきだ

## 〔廣東財閥〕

浙江財閥の傍系ではあるが、われくは廣東財閥の存在を忘れてはならぬ。ことに國民黨内の南京派對廣東派の對立、廣東政府の樹立等一聯の内紛悲喜劇の物質的基礎としてこの財閥はかなり重大な意義を有する。上海事件における蔣介石の妥協的態度に比しての十九路軍の頑強さは、その背後に手を引いた廣東派の反蔣陰謀の現はれたといはれて居り、アメリカ在住の廣東出身華僑が、事件中十九路軍に對して金一百萬ドルの軍資金を送つたといふ噂には相當の根據がある。

しかし、廣東財閥は、いまでは、敢て浙江財閥と覇を争はうとはしないし、またさうする能力も持合はしてはゐない。過去においても袁世凱の大總統時代、交通銀行總裁として全國金融界に勢力を振つた梁士詒は廣東人であつたが、浙江出身の盧學溥、錢永銘、張公權等を起用して浙江系統とかたく提携してゐた。現在、廣東財閥は、煙草製造業において中國南洋兄弟煙草公司、華商鰐草公司、中國興業煙草公司等、紡績業において永安紡織公司、緯通紗廠、鴻章紗廠等を有し、百貨店においては先施、永安、新々、麗華等をその傘下におさめて殆んど獨占的な地歩を占

めてゐる。錢莊、銀行にも相當の力をもつてゐるが、銀行業においては、その系統の、廣東銀行、東亞銀行、和豐銀行、香港國民商業儲蓄銀行、國華銀行等は多分に爲替銀行的な性質を有するため、商業銀行としての機能に重點を置く浙江系諸行とは自らその分野を異にしてゐる。これは、廣東財閥が當初、華僑、買辦、阿片業者等から構成されてゐたことの反映とも見なされよう。商業においても、いかにも華僑、買辦の出らしく、歐米式な近代的經營が多く、浙江財閥があらゆる部門にわたつて根を張つてゐると好個の對照をなしてゐる。阿片業者はその禁止以來多くは錢莊經營に移り、この方面でかなりの成功を収めたが、その業務擔當者には浙江人が多い。廣東系商工業も、もちろん、資金關係を通じて、浙江系金融業者にある程度まで支配せられてゐる。したがつて、兩財閥は決して本質的な對立關係に立つものではなく、むしろ、國民ブルヂヨアジーの中核として、緊密な融合提携してゐると見ることが出来よう。いや、廣東財閥を浙江財閥の一翼と見なし、全くその獨自性を否定する人もある位だ。然し、兩者の間に強いて對立關係を求むれば、それは副次的なものながら、一部における産業資本と銀行資本のそれを見出す事が出来る。ところで、この系統に屬する主要人物としては、東亞銀行の大株主にして香港銀行の總支配人

である簡東浦、廣東銀行の大株主で理事長をつとめてゐる李焜堂（（彼は新々公司的監督をつとめたこともある）錢莊業者で紡績業を經營してゐた郭子彬、先施公司及び香港國民銀行の大株主黃煥南、買辦の巨擘胡耀庭、陳炳謙等が數へられる。

以上が浙江財閥および廣東財閥のアウトライアである。これにつき「中央公論」に根據を置く世界經濟批判會は、「彼らは國民政府の背後にあつて被帝國主義支那のもつところの解くべからざる矛盾に悩んでゐる。彼らはそのブルヂョアジイとしての發展を續けるためには、あくまで帝國主義と鬪争しなければならない。この意味において彼らは支那四億の民衆の輿望を負つてゐる」と、その「中國ブルヂョアジイの分析」の中にいつてゐる。だが、果して彼らは「あくまで帝國主義と鬪争しなければならない」のであらうか、そして「この意味において支那四億の民衆の輿望を負つてゐる」のであらうか。事實はこの斷定を否定する。支那には今や二つの對立する政權があるが、少なくとも國民黨政權とは全く對立的立場にある政權のもとに立つた大衆は、とつくから財閥中心の反帝運動などには、何の望みをも囁してゐない。また、「帝國主義と鬪争しなければならぬ」はずの浙江財閥の主腦者は、いまや、帝國主義列強の提案する上海自由都

市案に賛成することにより、明かにその「敵手」との共同戦線を希望してゐるのだ。

「この項では上海滿鐵調査資料第六編、浙江財閥（志村悅郎氏執筆）および、中央公論、昭和七年六月號所載、中國ブルヂョアジイの分析（世界經濟批判會）から多くの教示をうけた。つゝしんで謝意を表する」

## 五、上海を自由都市に

上海は、とにかく、國際的な町である。インタナショナル・セツルメント、フレンチ・タウン、城内、それに南市、閘北——その基調は、うすよごれた、青木縫の支那服の氾濫ではあるけれど、てうど、雜草の間に咲いた野花のやうなヨーロッパ、アメリカ人種が、街頭に華美な色彩を點綴する。たとへば、南京路を歩いても、デートリツヒがひまがひの明眸をやりすごしたかと思ふと、直にコールマンひげのダンディだ。支那娘だつて「何の、毛唐が」といはんばかりの勢ひで、長めのシャンハイ・バップをそよ風に波うたせながらハイ・ヒールの靴に曼妙と鋪道を蹴

る。跳舞場即ちダンス・ホールに御出勤の日本ムスメと來ては、古風な大和撫子の優雅さを膝にでも食はしたのか、威風颯爽として人種を超えてゐる。この事變中のどさくさにも拘らず、彼女らの一群は、毎日のやうに日本男子がぶんなんぐられるフランス租界に、悠々支那人のアマを頗して自適しつゝあつたのだ。

上海の町は、その外貌がかくの如く國際的であるのみならず、今や、その臓腑まで國際化しつゝあるのだ。

組織としては、汎太平洋労働組合書記局がこゝにおかれ、機關紙「太平洋労働者」をもつて、プロレタリア・インタナシヨナリズムの煽揚につとめてゐるのが恐らく一足お先きであらうが、こんどの事變を契機として進められつゝある上海自由都市計畫なるものも、コミニターン乃至はブルフィンターンに對抗する、ブルジョア・インタナシヨナリズムの發露として相當注目しなければならぬ。

從來からも、上海には工部局といふものがあつて、所謂「支那の愚衆の妄動」を嚴重にとりしまり、時には、五・三〇事件の時の如く、學生デモ隊に銃火を浴びせかけて問題をいたづらに擴げればならぬ。

大したやうなへまもやつたが、鬼角も立派に國際警察機關たる使命を果して來た。だが、今次の事變は、この機關でもまだ不充分である事を證明した、といはれてゐる。その證據（？）に軍隊をまつ先に動かした日本はいはすもがな、米、英、佛、伊、ポルトガル等の諸國は、われ劣らじと、この町に兵隊をはこんで來た。その理由は、居留民と企業の保護である。英、佛をのぞいた諸國が、上海に何ほどのいはゆる具體的な「權益」を有するといふのか、——うち割つていへばこれ、すべて對支政治經濟關係において日本がとるかも知れぬヘゲモニに對する割込運動なのである。

バンドには、畫面でもイギリス兵の鎌刀がきらめき、フランス租界には、辻々に土蔵のバリケードが築かれてゐる。黃浦江には平和の女神の像を前景に、列強の軍艦が各々その旗を川風にないかせながら、大砲を觸手の如く動かしてゐる……

かうした空氣のうちに上海自由市計劃は醸成されて來たのである。國際的な町、上海を、國際ブルデヨアジーの直接的な支配のもとに——これはあまりにも自然なプランではある。だが、日運動や、打倒帝國主義の口號に象徴された支那人一般の排外感情は、このプランの具體化を

あくまで妨害するのではあるまいか？

心配御無用！ブルジョアジーはすべて國際主義者である。日本のドル買財閥がこれを身をもつて證明したやうに、支那ブルヂョアジーもいま、明かにこの事實を裏書してゐるのだ。

年若い支那資本主義の一指導者は、ある日私に語つた。

「國際的な都市、上海が、國際的な行政機關によつて統治せられるのは至つて當然だ。われくは、何をおいても、この町の治安が完全に維持せられ、安心して商賣の出来ることを希望する。そのためには、この町から、あらゆる種類の軍閥の支配を掃蕩することが必要だ。國民政府の今の狀態に關しても、いろいろ改善しなければならぬ點があると思ふ。だが、これらの問題について、私は今明言をはゞかる。それは愚かな大衆に私の眞意を誤解させ、徒らに彼らの憤激を招くことになるであらうから」

この言葉を聞いたのが停戦のすぐあと、その後しばらくして私は、上海自由市計画を、一部の支那人が熱心に支持してゐることを知つたのである。

まだ何か起るかも知れぬ——といふ重苦しい空氣が上海の町々に立ち罩めて、薄曇りの空か

ら糠のやうな雨が落て來る夜など、辻に立つ哨兵の劍光がいやに不氣味に見えた時分、カセイ。ホテルのダンス場では、すでに、軽やかな舞曲が蜜の如くに流れ、綺麗びやかに着飾つた男女が、水中の魚のやうに、滑らかなステップを踏んでゐた。蘇州河一つわたれば、まつ暗な「死の街」北四川路が、餘燐のくすぶる開北へ、まつすぐに續いてゐるようといふのに、バンドの一角では、もうこの始末だ。

かうした上海である。

戰雲濃く低迷してゐた三月の初め、はやくも軍事行動にけりがついてから、この龐大的な「魔都」と「都」をどう料理しようかといふ計畫が、國際資本家の間に議せられてゐたとしても、それは一向不思議ではない。

ブラインドを深く下したフランス・クラブの一室では、そのころしば〳〵ひそやかな會合が持たれてゐた、集まるものは、英、米、佛、獨、葡、埃及、チエコ・スロヴアキア、日等諸國の居留民首腦者、「ひそやかな會合」といつても何とも「不穏」な計畫が進められつゝあつたといふわけではない。そんなことを考へるのは、こゝに集まつた顔觸れに對しても失禮至極である。

彼らはみんな、列強の資本家か、でなければその代理人で、各々れつきとした肩書きつきの名士たちだ。細田民樹氏の「眞理の春」によれば、名士たつて「不穏」な會合を持たぬでもない様子だが、それはまあそれとして、この人達はここで、夜々、將來上海を國際資本主義の地上樂園として確保するためにはどうしたらいいか、といふいとも嚴肅なる問題について熱心に討議し、プランを練りつゝあつたのである。

この結果生まれ出たのが上海特別區計畫案。つまり上海を自由都市にして、あらゆる種類の支那軍閥の不可侵地帯とし、各國居留民が永遠の繁榮を樂しまうといふ結構な案なのだ。私がはじめて、この計畫のあることを知つて、それに參畫してゐたある日本の紳士を訪ね、どの程度まで進んでゐるのかと聞いたところ、彼は聲をひそめて語るのであつた。

「そんな計畫はあるにはある。だが、今絶対に公表してくれては困る。いろんな誤解をまねく恐れがあるから……」

かうして、私は、かたく嵌口令をしかれてしまつた。

だが、顧みれば、今迄に、幾度「上海自由市計画」なるものが立案せられ、そして流產してい

つた事か。歴史の必然に眼をそむけない限り、こんどの事變が契機となつて、再びかかる種類の計畫がより以上の具體性をもつて表面化するであらう事は誰にだつて容易に想像出來たはずだ。あとになつて大阪毎日と東京日日だけがこの案の細目をかゝげた。そしてこの記事の複製は若干の日本新聞、支那新聞、外字新聞に現はれ、殊に支那側ではこれに關していろんなデマが飛んだ。然し、あらゆるデマや、いはゆる誤解も、事の必然を左右する事は出來ぬ。嵐は枝を折り葉を散らすであらう。だが、それは結局「強い樹」をつくる。この上海自由市計画も、もし四圍の情勢が、その具體化の爲の地盤を固めるならば、多少の障害があつても實現するはすだ。かくいへばとて、私は、毛頭、この案の具體化を保證するために太鼓判を押すつもりではない。この計畫が、かゝる場合に立案せられたことに對して一つの必然性を認めるだけの話だ。何が故に必然といふか。

それはこんどの上海事變が國民黨新軍閥の無力さを白日のもとに暴露し、いままで幾分の期待をかけてゐた甘い人達に對しても、眼に沁むほどはつきりとその本質を見せつけたからだ。從來、それを忠實な手先として飼養してきた支那資本家も、いま、この結果、否應なしにブルヂヨ

ア・インタナショナリズムの旗の下に驅りたてられようとしてゐるからだ……  
中國共産黨は、南支那におけるソヴィエト地域の人口約五千萬と豪語してゐる。何分支那のこ  
とだから、この數字の確實さは保證の限りでないが、いま、赤軍が破竹の勢ひで各地を席捲しつ  
あることは誰だつて認めざるを得ない。

蒋介石は去年數次にわたりて征討軍を出し「出師表」まがひの悲壯なステートメントさへ發表  
たのであるが、一向その効果はなかつた。これだけでも國民黨新軍閥は支那資本家の信賴を失ふ  
に充分であるのに、對資本主義の列強の關係においても、概してへマばかりくりかへしてゐる。支  
那資本主義の指導者たちが國民政府の改造を叫び、あるひは民族的自負をかなぐりすててブルチ  
ヨア・インタナショナリズムの旗の下に馳せ参ぜんとするのも至極當然だ。

支那ブルジョアジーはそのいはゆる「反動份子」即ち旺盛な成長力をもつてます／＼伸びてゆ  
く對敵的な勢力に、甚だしい脅威を感じてゐる。そして、これに對抗して、自己の地盤を固める  
ためには、その陣営の編成がへをやる必要を痛感してゐる。いや、それよりも、直接、世界資本  
主義の共同戦線の一翼となつて彼らに立ち向つた方がはるかに安全だ、——彼らはいま、漸くこ  
案の細目だ。それは本年四月十一日の大晦および東日によると次の如くである。

### 上海自由市計劃概要

れを覺り初めてさへゐる。

「極左」の連中が「國際ブルの陰謀だ、支那分割の第一歩だ」と口な汚なくとなり散らす上海  
自由市計劃に支那側の實業團體代表が參畫してゐるのは、たしかにその證據だ——ところでこの  
案の細目だ。それは本年四月十一日の大晦および東日によると次の如くである。

- 一、本行政團體は支那政府と協力し支那政府に租稅を支拂ふものとす
- 二、本行政團體設立の目的は（イ）上海地域を軍閥の侵略から免れしめ（ロ）獨立司法裁判  
所を置き（ハ）地域内の財政經濟的基礎を確立するにあり
- 三、上記地域の防備のため支那人及び外國人より成るミリタリー・ボリスを置くが軍隊を雇用  
せず

### 地域、行政形式の細目

- 一、地域 上海の三行政區、共同租界、佛國租界、上海特別市及び水路
- 二、付屬保護區域 上海を中心二十マイル以内の地域

三、名稱 上海特別區と稱す

四、行政團體名稱 上海特別區工部局とす

五、統治の形式 本行政團體は支那政府及び列國より該地域の統治を委任されたる形式をとる

六、期限 期限を三十年とし期限完了五年前に取消しの申し出なきときは更に自動的に十年間延長するものとす

七、基本原則 上海特別區工部局は域内を統治すると共に安寧秩序を維持する主義上より政治的干涉を受けることなく且つ何れの國または政府の支配をも受けず從つて行政の組織につきある一國の絕對多數を許さず

八、行政委員は次の團體より選出す (イ) 上海特別市 (ロ) 共同租界工部局 (ハ) 佛國租界工部局 (ニ) 支那總商會 (ホ) 上海一般商工會議所 (ヘ) 華人納稅會 (ト) 上海在留外人代表者

九、地域保全 支那政府および列國は該地域の保全を保障すべきものとす

十、上海特別工部局と共同租界工部局、フランス工部局および地方行政機關、閩北、浦東、吳淞の關係、前記行政機關は上海特別區工部局の支配下にあるものとす

十一、上海特別區工部局はその經費にあつるため工部局および地方行政機關に對して債券發行および課稅の權能を有す

十二、國稅 正當なる支那國稅を地域内にて徵收することを得 (イ) 支那全體にわたつて普遍的に徵收せらるるもの (ロ) 上海特別區工部局または工部局課稅に對する一定率

十三、防備地域の防備は國際的性質を有する巡查及びミリタリー・ボリスをしてこれに當らしめ別に約五千の支那軍警を置く

十四、借地法 上海特別區工部局は行政地域内の借地法を定むることを得

十五、司法組織 地域内司法のため獨立司法裁判所を設置す

十六、領事裁判權の獨立 司法裁判所設置の上は從來の各國領事裁判權は緩和さるべきものとす

十七、稅關郵便その他 上海特別區地域内においても左の事業は支那政府の所管とす (イ) 稅關 (ロ) 郵便、電信、ラヂオ (但し檢閱を許さず) (ハ) 國營鐵道

十八、安全地域 上海特別區工部局は地域内においていづれの國にも兵力の使用を許さず

十九、撤兵 上海特別工部局設立の上は支那及び列國はその駐屯兵を地域外に撤退せしむべきものとす

二十、義務 上海特別區工部局は一切の國家的差別を排したる一地方行政機關として地方政府の負ふべき責務を執行す

二十一、支那代表 支那政府は上海特別工部局行政委員中に一名の代表者を送ることを得  
計畫はまことに理想的である。

成案はすでに國際聯盟事務局へ提出せられた。聯盟は、これを審議した上で、おそらく、自己の案として支那政府に提示するであらう。これが、最も穩便であり「誤解」を避ける方法であるからだ。いくら孤城落日の支那政府でも、上海居留民の相談づくで作り上げたものだ、といつてこんなことを要求されることは面子にかゝる。

それはとにかく、事の必然でここまで溝ぎつけて來たこの計畫が果して具體化するかどうかがさらに大きな問題だ。それにはまず三つの危険が豫想される。第一は、上海事變を中心に、對立關係がさらに尖鋭化した資本主義列強が足なみそろへて、あくまでこの案を支持するかどうか。

第二は、支那資本家が彼らの自由な行動を牽制する國家主義的、民族主義的勢力を克服して公然この案の具體化に努め得るかどうか。第三に、支那プロレタリアートの勢力が、果してこの「陰謀」を「粉碎」し得るほど強力なものであるかどうか。

これらについて、今はかに斷定するのは輕率である。時日の経過が何よりも正確な結論を與えてくれるであらう。だが、礮火の洗禮を受けた「上海」の今後の動向についてこの自由市計画が大きな暗示を與へてゐる點だけにでも私は深い興味を感じるのである。

## E、曝露的断片

### 一、戦跡で拾つた「理論」

新公園の木立は、ほのかにひは色の新芽をふいてゐた。開北にくすぶる战火の餘燼の異臭を消してあたりには新鮮なエーテルの香が一めんにたゞよつてゐる。

砲火と泥靴に蹂躪せられつくした六三花園の廢址には、それでも日本の春をうつして、チラホラと桜の花だ。それも、朝日に匂ふ絢爛たる色つやはなくて、何か知ら紙細工めいたその花は、人の心に一脈のさびしさを送る。

日本軍の陣地へ向ふ私の車は、オットマンの構圖にも似た瀟洒な風景へところぐ。砲弾にくだかれた家屋が陰惨なげを落してはゐるが)を縫うて、時速六十哩の砂塵をまく。

キャンワン・レース・コース——競馬のある時には、上海の國際ブルジョアジーが、コロナ・コロナとコティの香をふんだんにふり撒いたそのスタンドは、いま見るも無残に打ち壊され、漸く青みかけた芝生のみが草、たんぽゝの刺繡につゝましく春を讀へてゐる……。

やがて労働大學——戰がすんで間もない、雲の降る日、こゝを訪ねた時の生々しい印象がまたよみがへつて來た。

蔡廷楷がインチキであらうと、十九路軍が廣東財閥の傀儡であらうと、若い感激の血潮を一打倒日本帝國主義!」の「口號」に、沸々とたぎらせて、あくまで頑強にこゝを死守した學生義勇軍のひたむきな純情は、今思ひ出してもほろりとさせられる。

だが、労働大學といふ名を冠してゐても、それは一種のこけおどしにすぎない。國民黨政府の作り上げた工場法が八時間労働や最低賃銀の決定を規定しながら、支那ブルジョアジーの貪婪な搾取の自由が國家権力の手で完全に保障されてゐると同様、この名稱も「革命をしてらふ」彼らの自慰にすぎないのであらう。したがつて、この大學がはつきりした階級的イデオロギーの放送所である、などといふのは、とんでもないデマだ。しかし、日本の帝國大學が「極左」國士の培

養所であつたのと同じやうな場合はもちろん、こゝにも起り得た。……

その時、私は、前庭の砲弾にくだかれた孫中山の像の傍をすぎて、焼け落ちたコンクリートと煉瓦の堆積をふみ分け、構内を丹念に見て歩いたのであつた。

印刷工場がある——そこではピラやボスターや教師の論文が印刷されてゐたものらしい、三色版で大きく農民の半身を描き出したピラは國民黨の農業政策の宣傳にすぎなかつた。その他大して眼をひくものも見當らなかつたが、くづれた活字のケースの間から、ふと私はパンフレットの一部分と思はれる一つよりの印刷物をひろひ上げた。

それは「労力價値論答客難」と題し、李權時と署名してある。

とび／＼に讀んでみると、それは朱通九といふ人の労力價値論に對する論難を、自らマルクス主義者をもつて任するらしい李君が痛烈に駁撃したものだ。ところが、その中にはこんな文句がある。

「余は經濟價値が造成せられるのは的確に、人類の労力、或ひは痛苦によるものたるを覺り得た」

この一言で「労働大學」流のマルクス主義者が、いかに見當ちがひなマルクスを祖述してをり、したがつて、しごく「無害」な分子であることがほど明かだ。これは、大正十三、四年ごろ、日本で柳田民藏氏が完膚なきまでにやつつけた河上肇先生の「價値人類犠牲説」のいかにも素朴な複製ではなかつたか。

加ふるに、李君がとりあげた朱君の論難なるものが、

「リカルドは資本は過去と現在の労力の結晶だといふが記者は敢てこれに完全に賛同するものではない」といつた式の實に、粗雑極まる批判なのである。

これを見ても、いまさらに國民黨の旗の下にある學者たちの經濟理論が、右にしろ左にしろ、いかに幼稚なものであるかが痛感される。彼らは、孫中山の三民主義からその「革命性」を蒸發させてしまつたばかりでなく、こけおどしにかつぎ上げたマルクスをまで完全に戯謔化してゐる（一九三二・四）

## 二、戦跡の素描若干

停戦後間もない三月中旬のことである。私は二人の同僚とともに宇都宮〇園の駐軍してゐた南翔、嘉定に向つて、うらゝかな早春の陽光をあびつゝ車を驅つてゐた。北四川路を出はづれるとすぐ開北に入るが、このあたりはまるで震災後の東京だ。しかも、建物の性質上こはれた壁や、家の外壁が烟と煙によごれたまゝ残つてをり、その上、街路には血のにじんだ土囊や、こはされたバリケードが散亂ししるるので、この廢墟風景は東京の場合よりはるかに凄惨である。

白壁に大きく「當」とかいた質屋の焼け跡にはうす汚い人間が灰燼をわけてしきりに何か掘出してゐる、——銀貨や銅貨をさがしてゐるのだ。しかも、彼らは別にこの質屋の身よりもといふのでもない。戦争の生んだ新商賣。いや、戦争がその活動範囲を擴大した拾ひ屋連の枝隊にすぎぬ。拾ひ屋と泥棒の限界はどこの國でも相去る一步なのだが、焼け残りの家に堂々とトラウクを乗つけ、家財道具から縫のはみ出た布團までかつばらつてゆく大がかりな「拾ひ屋」さへ

こゝには公然と横行済歩してゐる。

私たちの車はその後に砂塵の煙幕を張つて、真茹に通する鐵道線路沿ひの街道を疾走する。場末の低い屋並の前にはもう飲食物を賣る露店が立ちならび、縫入れの着物でふくれ上つた子供たちが、さとうきびの莖をしやぶつてゐる。

煙の中に掘つた塹壕、街路に残る土囊、線路上に焼け残つた貨車——まさ／＼と戰ひを思ひ出させるこれらの點景にもかゝはらず、あたりは菜種花咲き、桃の花散る悠々たる江南の春だ。真茹をすぎ、砲車とトラックに破壊された十キロの難路を、時には、自動車の後押しをしながら南翔についた。

うすにこりしたクリークの水に、大きく彌を描いた石橋が影をひたし、人家の白壁が春の陽を吸つて楊柳けむる、のどかな田舎町ではあるけれど、私は、そこですさまじい排日宣傳のあとをいくつか拾ひ上げた。

その一つはまづ町を出はづれたところの寺の白壁に大きく、青天白日旗のあの青のいろで書きつけたスローガンだ。

「抵制日貨可以制日帝國主義的死命」

その右には白馬にまたがり片手に青龍刀を、片手に血のしたゝる日本人の首を二つ三つぶらさげた女神の油繪がかいてある。そしてその説明がふるつてゐる。

「現在的英雄——殺倭奴愈多、英雄愈偉大、八十八師特別黨部」

南翔の町を抜けて嘉定へ、この道中も水ぬるむ流れに純桃の花がかけを映し、黒紫の沃土に麥がのびたうらゝかな田園風景だ。やがて嘉定の城壁が見え、五彩のパゴダがそびえたつ。

嘉定も南翔も人氣なき町並の戸といはず壁といはず、拂日のビラが一面にはりつけられてゐる。白壁でもあれば忽ち例の青い色で大書された拂日スローガンだ。そのうち優秀(?)なものを持つてみる。

「血肉保障國土！」

「誓以鐵血擁護中華民國！」

「日本帝國主義是全世界敵人！」

「國難臨頭同胞速醒！」

「不要忘了日人殺我們的同胞！」

「誓死抗日！」

「國家存亡在此一舉！」

「血可流、頭可斷、國不可亡」

「要世界和平、決要打倒日本帝國主義！」

「嚴防反動份子鞏固後方安寧！」

注、反動份子はこの場合共產主義者のこと。

「軍民團結一致對日經濟絕交！」

「爲國捐軀、雖死猶榮！」

「民衆聯合起來政府的後盾！」

注、今年の正月に貼りつけたらしいのにこんなのがあつた。

「慶祝廿一年元旦誓死奪回東北天地！」

さすがに文字の國である。

だが顧みれば、老牌獅子牙粉（ライオン歯磨）の壁廣告に日貨に對する需要の存在を示すこの田舎町まで浸透して行つた排日感情こそ、後に残された問題である。（一九三二・四）

### 三、宣傳では支那の勝

支那は實に宣傳がうまい。打物とつては鐵軍「十九路」も何のその、長驅南京を陥へることさへして困難とは思はぬ日本軍ではあるけれど、國際宣傳戰ではたしかに負けた。中國共產黨などは、終始一貫、國民黨と列強を向うにまはして、いはゆる處士横譏「打倒帝國主義」「擁護中華蘇維埃臨時中央政府」で一本調子だから、ここにいふ「宣傳のうまい」部類にははいらない。これに引かへ、この連中から「民族的利益」を賣るものと銘うたれた國民黨の、あまりにも日和見的な宣傳上手にはむしろ嘔吐をもよほす。國際聯盟における支那人の態度、ウエリントン・クワの詭辯なんかで、これはもう誰知らぬものもないが、停戰後の上海では今さらながら、眼の前にころがる幾多の實例を見せつけられて、全くうんざりした。

聯盟の調査委員が來るといふと、南京路の飾窓にはりつけてあつた血なまぐさい排日ピラは一齊にはぎとられて、あとには、英、獨、佛語でかゝれた「支那は正義を欲するのみ」だとか「支那は九ヶ國條約を忠實に守つた」とかいつた風な見ええた自己辯護だ、新聞はデカ／＼と委員歓迎の記事をかゝげ、日本側が「美女」を侍らして委員を歓迎し、大いに御機嫌をうかどつたなどと、そこに「何か」があつたやうなデマをとばす。しかもそのデマとともにかけた寫眞には日本人か支那人かわからぬ、晴のやうな顔の「職業婦人」が、二、三人ならんでゐるに至つてはまことに笑止千萬である。

またリットン卿以下と會見した支那の新聞記者などは、Jの發音の巧みな英語を利用して、滔々と「日本軍の殘虐」および「日本浪人の暴狀」についてまくしたて、この觀光調査團をあたかも救世主のごとくにまつりあげたものだ。もちろん、これらの新聞記者は國民黨と、浙江財閥の御用を承はる連中なのである。

これだけならまだ大したことはない。だが、上海支那人商業會議所が、調査委員をあてこんで『SYMPONIUM ON JAPAN'S UNDECLARED WAR IN SHANGHAI』などといふ、堂々

一百餘ページ四六倍判の英文でかゝれた書物を出すに至つては、むしろその機敏なジャーナリズムに感心させられる。

表紙からして「西部戰線異状なし」以下大いに洛陽の紙價を高めた「戰爭物」そつくりの赤と黒と黄の色調、シルエットで描き出した鐘兜の日本兵突撃の場面もいやにセンセーショナルだ。ページをくればまづ廿四ページにわたるグラフ、これはすべて「勇壯な支那軍」の奮闘ぶりと、「日本軍の殘虐」とを物語る。

内容は二部に分れ、それに附録がついてゐる。第一部は「上海における戰争およびその諸部面」と題し戰争の經過から排日運動の本質、戰争による支那側の損害、日本軍の暴戾、この事變に對する外國人の意見等が洩れなく採録してある。このうち異彩(?)を放つてゐるのは、「日本のリベラリストはこの戰争をどう考へてゐるか」といふ一項で、日本のリベラリストを代表してこゝにその意見を掲げた日本人は「マリイ・イツコ・シノワラ」といふ女性たゞ一人だ。私は大たいこの女が何者であるかを知らぬ。だが彼女の見解によると「この重大事件の責任はたゞ日本のミリタリストにのみ歸せらるべき」ものださうである。この斷定を冒頭に彼女はいろいろと軍閥をしてゐる。

のぞいた「日本」のために辯明し支那に對して同情の涙をそゝぐのであるが、その調子はいかにも抹香くさい。大道で黄るい聲をはりあげてパンフレットを賣りつける救世軍の女兵士を思はせる——國民黨支那を肯定し「日本軍の暴虐」をみとめる點で、彼女は明かにコンムニストと對立してゐる。

第二部はこの事變に關する公式文書、附録は事變中の日誌、聯盟規約の一部、ケロツグリブリアン和平協約を含む。とにかくこの書物が諸外國に送られたとしたら、事情を知らぬ連中の間におこすセンセーションは相當なものであらう。

この他、町には戦争畫報、十九路軍抗日戰史、淞滬禦侮記など、事變物がうんと出てゐる。かくの如く上海事變をめぐる支那の自己辯護的宣傳は至れりつくせりだ。日本の軍部も宣傳がまづいといふのではないが、便衣隊の活用と國際的宣傳の陣立てにおいては、たしかに支那に一籌を輸した。(一九三一・四)

## 四、悩みの種「圓」の下落

私の間借りしてゐるうちのマダムは毎朝、せきせいいいんこのやうな聲をはりあげて御亭主にくつてかゝるのであつた。それは、私にとつて、あたかも、目覺し時計と同じなのである。

かくて、私が睡眠不足の眼をこすりながら、一本のカブスタンに火をつけて、ひろいフランス窓を開き、ひからびた葛の絡んだヴァエランダにすると、きまつたやうに、銀翼に鮮やかな日の丸を描いた偵察機が、ブルーン、と、朗らかに、うす紫の大空をかすめてゆくのである。これは停戦後、毎朝午前八時に公大紡績前の飛行場を出て、蘇州あたりまで、偵察飛行をやる日本軍の飛行機なのだ。

——ある朝のことだつた。

パジャマの袖をまくり上げて、三、四日ぶりに、のびたひげに剃刀をあてゝゐた私に

「ヘル、マエシバ！」

と、いま、嗚咽をやめたばかりのマダムが呼びかけた。前の鏡を見ると、彼女は、片手にシャンハイ・タイムズの朝刊を持つて、いやにビジネスライクな顔をして突つ立つてゐる。

「何？　マダム」

「あなたに聞きたいことがあるんです。『圓』の相場は、近いうちにもつとよくなる見込があるかしら」

この質問には、ちょっと面食らつた。もとハンガリア飛行隊の士官で、いま自動車のブローカをやつてゐるヘル・マイエルの夫人であるところの、この、ビル好きな家鴨の如きマダムか、何の必要あつて、私に、圓の相場を聞くのであらうか。

「どうしたんです、マダム」

「實はね、わたし、昔ヨコハマにゐたことがあるんです。そのころ日本の『圓』で八千圓ばかり貯金してゐたんだが、それが、いま、こちらの正金銀行の預金になつてゐるんです。ところが、それをシャンハイのドルでうけとつて、使はうと思ふと、いま、たつた百卅五ドル、去年の今時分は二百四十ドルにもなつたのにね。

わたしは、その時分、誰か銀の値段がもつと下がるから、圓を持つてゐる方がとくだつて教へてくれたものだから、そのままにして置いたんです。それに、どうでせう！ こんなことになるなんて」

かういひながら、彼女は、眉をしかめて、いかにも情なさうな顔をするのである。

私はこれは大問題だと思つた。去年、私も、丁度、ドルが安い時分に上海に來て、大いに有封に入つたものだつた。それに、こんどは、私たちの同僚は、毎日、物價の高いのをこぼしてばかりゐる。

たしかに虹口界限の日本人の店などは、猛烈に暴利を食つてゐる。たとへば、卑近な例だが、セルロイドの橋が一つ、大洋八十セント、小瓶のベーラムが一つ一ドル、スリツバが一足一ドル廿セント、安物の繪はがきが一組四十セント、といふ始末だ。防腐劑入りの、水っぽい菊正宗に至つては、一枚五ドルとられる。すべて内地の倍乃至三倍だ。これでも「圓」の相場がよければ立派に埋合せがついて、まづ、あたり前の値段なんだが、日本が金の輸出禁止をやつて以上、當分この状態はつくものと見なければならぬ。だが、家鴨のごときマダムをつかまへて、今さ

らながながと金再禁止論でもない、やむを得ず私は

「まあ氣長に待つてらつしやい、そのうちには少しはよくなる」

といつて置いた。だが、かうなつちや、誰だつて、日本の金輸出再禁止の直接原因を作つたドル買財閥の策謀を、にくまざるを得ぬ。それは、ランチ・タイムの座談ではなく、しみぐと皮膚に感じる實感だ。

三、四日たつた夕方、マダムはまた、私の部屋の扉をノックした。あけて見ると、片手に夕刊をもつてゐる。

「ありがたう、けふは、百圓が百四十三ドルになりました、もう少し、待つてた方がいいでせうね」

私は、苦笑しながら答へた。

「さう、も少し待つてこちらなさい、ちつとはよくなるでせう」

だが、私は、一向自信がないのである。

——こんな、上海ではあるけれど、草花だけは妙にやすい。私の部屋には、いつも、フリジヤと

ヒアシンスとアネモネの花束が生けてある。これはマダムの心づくしなんだが、虹口の市場で通りがよりに花屋をのぞいてみると、この花束には一つセントの札がついてゐた。(一九三二)。

四)

#### 四、抗日戦線の彼女たち

北満の凍原に、鼠いろの布子を着た兵隊を指揮して、馬占山將軍が頑強に抵抗してゐたころ上海では、はねつかへりの女學生が「英雄馬占山」のために軍資金を集めてゐた。また、蔡廷楷の十九路軍が日本陸戦隊の戰略的退却に「擊敗日軍」のデマをとばして得々としてゐると、上海ガールの一團は戦陣慰問と出かけて、若い幹部どころを有頂天にさせた。「尖端女學生が將兵の士氣を鼓舞するとともに、戰線に赤い思想をふりまいて歩いた」などといふ。興味百パーセントのお話は上海事變中しば／＼傳へられたものだが、こんな連中の「赤い思想」なんて、せい／＼一杯のキュラソーの酔のやうなもので、左翼芝居のデモ・シーンに一時的興奮を感じていゝ

氣持になる日本の「近代型」有閑婦人と大して變りはないのだ。

「打倒日本帝國主義！」などとえらさうな文句を口走るかと思ふと、あくる日にはぬめつとしたモダン・ボーキ型のフイアンセと相たゞさへて逸園(カニドローム)のスタンドに、鞭のやうにしなやかなグレイハウンドの疾駆する姿を讀へやうといふ彼女らだ。「わたし小林多喜一、大すきよ」などといひながら、拳闘の選手やリーチ戦の花形により現實的なアトラクションを感じてゐる東京あたりの自稱近代娘とは縁つどきであるとしても、この女たちは楊樹浦あたりのうらぶれた工場街の夕方を、辨當箱片手に疲れ果てゝ家路をいそぐ支那人の女工たちは、まるで赤の他人なのである。

それに、排日戦線の一翼に馳せ参じて強力な運動を開いた「中國婦女反日救國大同盟」の名はともすると派手に踊つた「彼女ら」と結びつけて考へられ勝ちだ。しかし、これはとんでもない見當ちがひ、同盟の機關紙「婦女之光」の創刊號はまづ「親愛的勞働姊妹們！」と呼びかけ、その本質を明らかにしてゐる。

試みに「日本帝國主義武力侵佔上海與勞働婦女の任務」といふ記事をとりあげてみよう。最初

に彼女らのいはゆる「日本帝國主義の暴虐に關する」いはゆるデマをさんざんならべたてたあげく、結論がかうだ。

「われらは一致團結して起ち、各地の勞農婦人、革命的女學生を組織して大規模な反帝運動をまき起さなければならぬ。そして革命的民衆とともに、革命的兵士とともに、一團となつて、民族解放のための戰全人類の光明のための戰にふるひ立たねばならぬ……」

この文句を聞いたゞけでも、彼女らがいかなるイデオロギーを持つてゐるかは明らかだ。もちろんこの同盟に結集した婦人がすべて「意識的」な分子であるとは考へられない、しかし、こんどの事變が契機となつてかゝる團體が結成せられ、「打倒日本帝國主義」を焦點として勞農婦人大衆を意識化せんとする運動が廣汎に展開せられたことは、なんといつても注目すべき事實である。

市社會局の調べによると上海の工場労働者は總數廿二萬二千六百八十一人、うち譯男子七萬六千二百四十八人、婦人十二萬五千七百八十五人、兒童二萬六百卅七人だ。

これによると、上海における工場労働者、總數の約五十五パーセントは婦人が占めてゐる。し

かも組合労働者として組織されてゐるものゝ率は、男子七・三五パーセント、婦人三・八八パーセント、兒童二・八四パーセントで婦人の組織率是非常に低い。一がいにはいへないが、これはまづ、彼女らの「意識程度」の低いことを意味する。（これが上海における日本紡績資本の立場を有利ならしめた一つの原因であるのだ）

中國婦女反日救國大同盟は、黨部を首班とする排日組織の一部ではない。したがつて、市長吳鑑城の排日團體取締の誓約がたとひ「誠意」あるものにしても、この同盟の運動は系統がちがふから、今後も依然、潜行的に、執拗に續けられることであらう。それは「排日」を焦點とする廣汎な「反帝運動」の一翼にほかならぬ。したがつて、この同盟がどこまで未組織の無智な労働婦人大衆を獲得し得るかは、日本のみならず、列強にとつても、將來に残された問題である。

（一九三二・四）

## 六、企業としての賭博

賭博が一つの企業であるといつたら、日本では、一應、首をかしげる人があるかも知れない。しかし日本にだつて、若干種類の企業的賭博經營があることは儼然たる事實なのである。

競馬——馬事思想普及ならびに、馬匹改良を目的とするといふ鹿つめらしい効能書にもからず、それは依然として賭博の一體たることを失はぬ！ 目黒、根岸、鳴尾、淀等、等、のスタンドに砂ぼこりを浴びて狂奔する貴婦人乃至は貴婦人類似の女性を見給へ。

これらつゝしみ深い女性を人前はからず、かくまでの興奮にかりたてるのは、まさしく、効果戀愛以上、賭博の魅力にあらずして何ぞや、だ。

といへば、公正なる價格を定めるためと銘打つた、資本主義經濟機構の一要素、證券、米、三品の取引所も、一面から見れば、合法的な賭博場にすぎないではないか。破局的な米價の慘落を、まんまと利用して數百萬圓を儲けたゝめ、恨を買つてぶんなぐられた相場師の話など、まさに、賭博的興味百パーセントの挿話である。

このほか、日本には、麻雀、撞球等賭博的企業と見なし得るものはあるにしても、それらはすべて非合法的だ。

それに比べて、上海はまた何といふ博徒のユートピアであることよ！

有名な競馬はいふにおよばず、例のグレイハウンド・ライスから、大世界などゝいふ盛り場の至極單純な丁半的賭博、堂々と店舗をかまへるフランス租界のばくち宿に至るまで、そこは、殆どあらゆる種類の賭博が、實に、公然と開帳せられてゐる。（銀相場の甚だしい動きは一面において一切の商取引をさへ賭博化してゐるではないか。いや、もとより支那商人は商取引を賭博と同一範疇に含めて考へており、逆にまた賭博を一つの商取引と觀念し、これを身をもつて證明してゐるのである）

餘りに有名な競馬は抜きにしてグレイハウンド・ライス以下に就て少しばかり説明を加へよう。ア式蹴球のゴールの立つた芝生の楕圓形グラウンド。スコットランドの兵隊が花やかなユニフォームをつけて軍樂を奏しつゝ前景氣をつける。このグラウンドの周圍を電氣仕掛けの剥製の兎が一時間六十マイルのスピードで走る。これを七八頭のライハウンドが追かけるのだ。馬券を買ふのと同じやうに一枚二ドル、或は五ドルで「犬券」ともいふべきものを買ふ。あたれば配當の來ること競馬と同斷。

大世界などといふ大阪の樂天地じみた歡樂場には、必ず詩の字數のあてつこを主題にしたものの、ルーレットまがひのもの、玩具の競馬等種々のごく單純な賭博場が公然と店を張つてをり、中國の一部の諸君は國民黨政府の麻雀の禁にも拘らず、一ドル二ドルをはつて、勝負に血眼だ。しかし、これらは、まだ、いはゆる中小企業に屬するものでフランス租界には、更に大規模なばくち場が、ちやんと税金を納めて客を呼んでゐる。

一八一號、利生公司、大發公司、榮生公司、小東門、華南等、公認のもの以外に、百餘軒のもぐり賭場があることは殆ど公然の事實だ。

一八一號が一ぱん大きく入場者は千ドル以上を懷中にせざるべからずといふ不文律がある。入場料は五ドル乃至十ドル、これはかけ錢に使用するを條件として徵集する。客は、アヘン、煙草その他山海の珍味を要求に應じて、そしてかなり高價な代金を拂つて提供せられる。この賭場一日の經費約五千ドルといふから、その収益の大きさは十分に想像せられよう。

これらの大賭場は殆どすべて青帮と稱する反動團體が株式組織によつて、直接、間接に經營し

てゐるのだ。

この他、まだ上海における賭博の種類はいろいろあるであらう。しかし、私が、こゝにその二三をとりあげて説明したのは單なる獵奇趣味の満足を目標としためでは断じてない。すべて、が赤裸々な上海！

そこで、人々は、自分が危險を負擔する覺悟さへあれば、大ていのこととはやつてのけられる。そして、利潤の追求を究極の目的とする資本家的經營は、その目的に到達するための道程を誰はからず忠實に、露骨に進んでゆく。

利潤の獲得＝貨幣價值の獲得。

そのための、最も單純な、蒸溜された方法は、實に「賭博」なのではなかつたか。

そして上海における、これらの公然たる賭博は、かゝる視角から眺める時、まさしく支那の社會の一つの皮肉なカリケチュアではなからうか。（一九三一・一）

## 七、アメリカ風の上海

葉の落ちつくしたプラタナスの梢に、冷たい霧雨の烟るある日の午後、私はあてもなく、パンドから南京路へ、人の流れともに流れて行つた。——ぶううん、と空が鳴る。おなじみの飛行機の爆音だ。遠く漢口から上海までやつてくる旅客機、とうで、あれの通る時間だな、と思つてふり仰ぐと、ビルディングの直線で切りとられた灰色の空を濃綠の翼が、さつと掠めて通つた。あれに乗つて、春、楊柳芽ぐむ長江すぢをはるゝと飛んで行つたら、さぞ長閑なことであらう。恐らくは南禪寺山門樓上における石川五右衛門氏の名せり、ふよりも、何層倍か効果的な表現方法を用ひなければ、その「うらゝかさ」をいひ表はすことは出来まい、などゝ、愚にもつかぬことを考へながら、ぼんやり歩きつゝけてゆくと、ある街角で一枚のビラを渡された。大光明戯院（グランド・セアター）の廣告だ。

「美國唯一風騒女明星史明遜女士歌唱有聲巨片」と銘打つて、大きな字で「騷寡婦」と書いてある。即ち、グロリア・フランソン演ずるところのトーキー、原名、「ホワット・ア・ウイドウ」—スワンソンの、あの轟烈的な頬すぢと美しい歯なみがちらと網膜をかすめたが、明るく朗らかで、結局はナンセンスに終るいつもながらのアメリカ映画の一種の型を思ふと、さて行つてみ

る氣にもなれなかつた。だが、そのうちに上海のどの映画館でもアメリカ映画全盛であること、今の中國では、美國式（アメリカ式）といふことばが何かにつけて使はれてゐること、および、さつき、空をかすめて行つた飛行機が、アメリカのカーチス會社製であることなどが、一時に意識の表面に浮び出して來たのであつた。

バンドの和平記念塔の彼方には大日本帝國軍艦が泰然と碇泊してゐる。夜のダンス・ホールには英米佛の兵隊が激しい踊りを踊つてゐる。しかし、それらのみが中國における列強帝國主義の象徴ではないのだ。

ドル資本はもつと／＼違つた形で若き中國の内臓に食ひ入つてゐる。

最も尖端的な航空事業におけるドル資本の優越的地位——これなどはたしかにその一例だ。ドイツも中國と合辦で歐亞連絡航空路の開拓を計畫してゐるが、今のところでは、まだ中國内の航空事業はカーチス會社系の「中國航空公司」が獨占してゐる。この會社は資本金一千萬元、航路は上海から南京、蕪湖、安慶、九江を経て漢口まで。將來は成都まで延長せられるであらう。このほか、上海から廣東および北平への二線も計畫せられてゐる。

飛行場は南郊龍華の河岸つぶち。朝八時に上海をたてば、午後三時すぎにはもう漢口だ。この間を汽船で長江を溯るとすれば四日はかかる。料金は上海、漢口間百卅八ドル、日満汽船の一等の約倍額だ。上海、南京間は汽車で約二百マイル、一等十二、三ドルだが、飛行機は四十ドルで割合に高い。

ある朝、私は疲不足の眼をぱち／＼させながら黃包車に揃られて廣東路の航空公司へかけつけた。南京まで飛んでゆかうとしたのである。

オフィスから「龍華飛機場」まで會社の汽車（自動車のこと）で送りとけてくれるのは日本のそれと同様。乗合は漢口へゆくといふ富裕な中國人の商人一人、彼は天候の都合でもう三日間飛ぶのを待つてゐたといふ位だから、たゞ飛行機に乗るといふことに興味を持つてゐるらしい。飛行機はまだ中國でも十分商業化してはゐないやうだ。

自動車は朝靄にかすむフランス租界を出はづれて淋しい田園の間を走る。やがて龍華塔が見え出すともうすぐ飛行場だ。アンペラと竹の格納庫、板小屋のオフィス、飛行機は濃緑のボディ、眞に大きく白日を描いた水陸兩用機、操縦者、機關士とともにアメリカ人だ。乗客には寫真機の携

帶を許さない。——これは案内記ではなかつたはずだ。説明はこの位で切り上げよう。だが何がゆゑに、私は中國におけるアメリカ帝國主義についてグロリア・スワンソンと旅客機を持ち出したか。それは賢明なる讀者の推察にまかせるが、たゞこれだけのことをいつて置かう。——映畫の影響力はすでに折紙つきだ。飛行機は世界戰爭以來、その絶大な軍事的効果を讃はれてゐる。そして蔣總司令は千九百卅一年初頭、第二次世界戰争の當然来るべきを公言して「平和的」な列強政治家の眼をみはらせた。(一九三一·一)

## 九、偶像孫中山先生

近江の國のある村で、反動の刃に倒れた「同志」山宣のために、急進的な一團の農民が石を持ちよつてさゝやかな記念碑を建てた、といふ話がある。中國では蔣介石一派の國民政權が、革命の父、孫逸仙の偉業を永遠に傳へるために、南京城外、紫金山下に、途方もない巨大な「中山墓」なるものをつくり上げた。

丘陵を一つ占領する宏大的な壁城、幅四、五十間、長さ數町の石階。そして、その上に、方廿間に餘る石造、青瓦の雄大な廟——わが國の日光廟なんか、これにくらべてはコンクリートの大佛の前に置かれた七寶の寶石箱だ。

中山先生のいつた通り「革命未だ成らざる」に、なぜ國民政府はこんな途方もない大工事を起こさなければならなかつたか——これはたしかに三民主義を幾度くり返して讀んだところが到底解決出来ぬ問題である。

極端な財政難、うちに充満する幾千萬の飢民、それにも拘らず、一日廿セント乃至卅セントといふ奴隸的賃銀をもつて幾千の土工、石工を使役しつゝなほ數百萬元を要するこの大工事は續けられたのだ。

しかし、よく考へて見ればこれは別に不思議ではない。「必要」がさうさせたのだ。

ウイットフォーゲルの描いた晩年の孫逸仙と、現在の國民政府の姿を思ひくらべても見給へ。それが近江の國の農民の純情とは似てもつかぬ、實踐上の「必要」から出發したことは、直に明らかに看取されよう。

偶像孫中山——彼が徹底的な唯物論者でなかつたにしても、それは一つのナンセンスだ。そして、世界中、至るところにころがつてゐる成心あるナンセンスの一つだ。

古都南京はいまその面貌をヤンキー型に改めつゝある。この美容術(?)には相當の荒療治が必要であつた。まず、蜿蜒十三里にわたる城壁にかこまれた宏大な地域に地圖の上に定規で引かれた線にしたがつて縱横にアスファルトの鋪道がつけられた。途中をさへぎる古い建物は、涙金にひとしい移轉料で、否應なしに立退きを命ぜられる。そして、新道に向て、官廳やホテルの堂々たる西洋風の建物が建てられた。それはまだ軒を並べて櫛比する、といふ程建てつんではゐない。裏町——新町が出来て裏町になつてしまつた——には招牌華やかな支那固有の商店が依然として残つてゐる。……

人心を緊張させるためとあつて麻雀ならびに諭淫の書は表面、嚴禁。秦淮河のほとりに巢食つた数百の妓女は退散を命ぜられ、有名な畫舫はいぶせき貨家と身をおとした。だが變通自在のことである。街のどこかには相も變らず夜を徹して牌のひどき、女學生類似の「職業婦人」は立派に妓女の役割を努めてゐる。

「青天映世界、白日照新春」

これは千九百卅一年の正月、民家の戸口に貼られた聯の文句であるが、「青天白日滿地紅旗」の旗かけは暗い。いつも南京の街には新軍閥、國民黨政權の軍隊が發散する革と汗の匂ひがほのかに漂つてゐる。(一九三一・一)

## 九、反動亂舞、青帮のこと

政治的支配のファツシヨ化は、必然的に、反動團體乃至は反動化團體の意識的な保護育成を伴ふ。——このことは、支那においても、事實がこれを證明してゐる。  
「紅槍會」「哥老會」「堅骨團」等々、そこには古くから一種の農民團體が存在した。それはすべて中世紀的、封建的な農民組織であるが場合によつては進歩的な役割を努めたこともある。孫逸仙も千九百十一年頃には、相當これを利用した。しかし、もとより、斷え間なき軍閥戰争の慘害より農村(土豪劣紳をも含めての)を守るために組織されたものであり、組織者は豪紳、指

導者は大地主であるから、多分に反動的性質を内包してゐる。報酬の多寡によつては、敵對的立場にあるものに、そつくり賣り渡されてその支配下に働くこともしばくだ。

これらのはかに、より有力にして旗幟鮮明なものとして、青帮(チンパン)および紅帮(ホンパン)がある。紅帮は青帮を模倣して組織したものと傳へられてゐるから、こゝでは、前者のみを考察することにする。

青帮の開祖は羅祖といふ坊主だと傳へられる。今から百八、九十年前の乾隆年間、清の高宗が苗族の亂に悩んだ時、彼を援けて大功をたてたのがこの羅祖だといふのだ。この坊主の弟子に翁錢、潘の三名があり、師と同様清朝のためにつくした。青帮はもと清帮と書き、清朝を守るといふ意味をふくんでゐた。——これが、このゴロツキ仲間に傳はる絆起ともいふべきものであるがもちろんどこまで事實であるかは保證の限りではない。あらゆる反動團體がさうである如く、彼らは一種の宗教的色彩を以て(或は愛國的言辭を以て)その結束を神聖化してゐるのだ。内部には複雑な階級制度があり、引見、傳道、掌布、用印、司禮、監察等、六部の役員を置き、それに對する違背は直ちに斬殺を以て酬ふられるところの嚴重なる十大帮規を制定してゐる。

この帮規のうちには、「前人を藐覗せず」といふ如き、子分の親分に対する絶對的服従を要求した封建的條項もあれば、また、「仁義禮智信たれ」といふ如き、修身讀本のカリケチニアたるゴロツキ道徳も含まれてゐる。宗教的儀式を以て嚴肅化せられた「開香堂」と稱する入帮式「海底問答」と稱する「じんぎ」類似の作法等のあることはなほ、日本の反動的ゴロツキ仲間と同様だ。

現在上海における青帮の本營はフランス租界である。最も有力な親分は、杜月笙、黃金榮、張嘯林の三巨頭、これらはすべて租界の市參事會員をつとめ、ことに、杜、張は、財界にも、浙江系實業家（？）として相當幅をきかしてゐる。一人とも探偵上りで、ことに、杜は、老頭子黃金榮の従弟としてこの世界に足をふみ入れ、最近では、阿片密賣問題をめぐる内紛で一躍男を上げてならぶものなき「闇の王者」の勢威を振つてゐる。千九百卅一年の六月九、十兩日にわたつて、彼は、浦東に造営した祖先の廟の落成祝を行つたが、この時の參列者は支那朝野の名士、ならびに帝國主義列強の上海在留有力者數千名、特別仕立のランチで黃浦江を渡つて各々杜の祖先にうやくしくお賽錢をあげたのであつた。これはいふまでもなくギャングの親玉杜月笙としてで

はなく、有力な國民ブルジョア杜月笙としての祝祭ではあつたが、參列者は、とりすました禮服の下に、「闇の王者」に対する滿腔の「敬意」をつゝんでつめかけたものである。……

青帮の構成分子は、日本の最も封建的な反動團體のそれが妓樓、藝者屋の亭主、土木請負業者紹介業者、博徒、大工、左官等から成つてゐるのに比し、人入れ稼業、野雞（淫賣婦）の元締、賭博場、阿片窟の經營者、探偵、巡査、公安局の幹部どころ、將校、小商人、工場のボス、組合のダラ幹、政治家、銀行家、富豪から、下つて、宿引き、媒合客止業者、阿片密賣者、博徒、工人、浮浪人等々あらゆる層を廣汎に網羅してゐる。そして、そのメムバーは少く見つもつて十萬乃至廿萬といはれる。

旅館、料理屋等の水商賈は必ず彼らの繩張り内にあり、一定の物質的報酬を與へてその保護をうけてゐることは日本と同様だ。

彼らの兇暴なことは、江戸時代における博徒以上である。したがつて、支那封建軍閥、國民ブルジョアジー、外國帝國主義はすべて××の労働者農民に對し、反動的暴力の大支柱として彼らを利用することを忘れなかつた。眞疑の程は保證しかねるが蒋介石も青帮の一

員としては、中級幹部の地位にありと傳へられ、上海に工場を有する外國資本家は彼らに「わたり」をつけることによつて、争議の場合にそなへてゐるといふ話だ。

だが、青帮が、國民ブルジョアジイにとつて一つの政治的な手段となり、名實ともにファシスト化したのは千九百廿七年以來のことである。有名な四・十二の白色テロルには、張噲林に率ひられた青帮が、上海全市にわたつて血に飢えた野獸の如く荒れ狂ひ、四千の××的労働者農民學生を血祭りに上げた。このテロルの直前 蔣介石は大銀行家と何事かについて密談を重ね、その結果彼らと青帮との結びつきを強めるため、或種の行動をとつたと傳へられてゐる。

四・十二以後、青帮のすばらしい効用をみとめた國民黨とその階級的後盾は、このゴロツキの集團の御機嫌をとることに憂心をやつし、力をつくしてその保護育成に努めた。解散させた赤色労働組合のあとには、青帮の一昧を幹部とする黄色組合をつくり上げた。工場のボスには好んで、彼らを傭ひ入れた。杜月笙の如きは、争議に際し、しばしく調停役を買って出て、その背骨を打ち碎いては資本家側に勝利を得させてゐる。ボスのみならず、工人として工場にもぐりこんだその一味が、××主義者に對するスペイの役割を努め、××的な労働運動を内部から爆破した

ことは一度や二度ではない。千九百卅一年五月 蔣介石は、さらに完全な白色テロルの前衛隊を組織せしめるため、杜月笙に百萬ドルを與へたといはれてゐる。現に、××主義者狩りのために青帮から上海全市に放たれたスペイは五百名を越えるであらう。

かくの如く、青帮は、もはや單なる封建的なゴロツキの集團ではない。それは、首領が有力な國民ブルジョアジイの一員であり、その政權への參與者であるとの相呼應して、國民黨政權によるファツショ的支配の先鋒を承認する「捨身の軍隊」である。

だが、かくいへばとて彼らは、四・十二以前には、たゞ阿片商賣と人身賣買専門のゴロツキであつたかといふに、さうではない。村山知義物するところの「暴力團記」（或ひは全線）の中には、千九百廿三年の京漢鐵道ストライキにおける彼らの活躍が細かく描寫されてゐる。たゞこの頃は彼らの首領も自らの役割の政治的意味を意識せず、お雇ひ紋刑吏として狂暴なテロルを擅にしただけであつた。

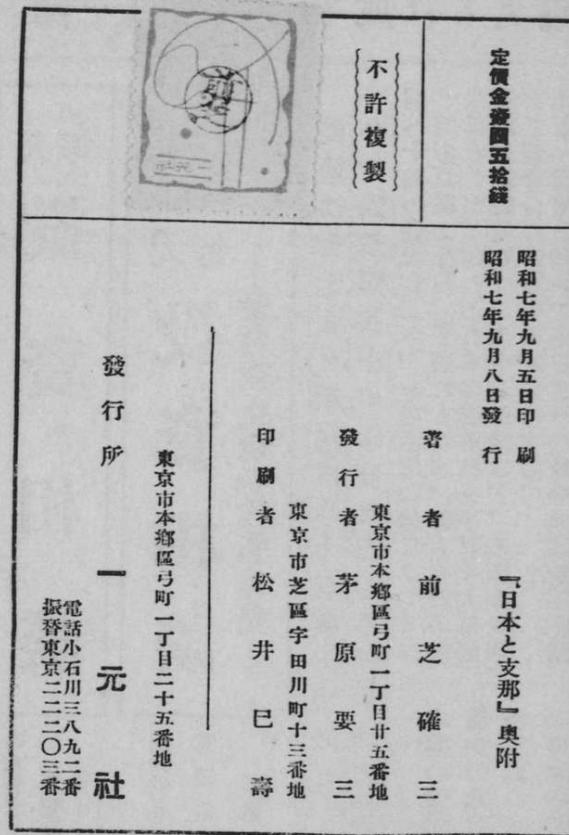
（この劇の中には綠黨といふ名で一つの暴力團が登場する。子分達の挨拶に、「萬年千載長壽香を焼いたか」といふ文句があり、馬を「四脚子」傘を「開花子」酒をのむことを「玉子をうけ

る」といつたりするところを見ると、これは青帮でなくて、紅帮ちやないかとも思はれる）

——ところでこんどの事變だ。

抗日救國會が煽る愛國的感情は、青帮の巨頭連にとつてもつけの幸だつた。彼らは對日ボイコットの組織に、縦横に活躍して大いに儲けた上、軍事行動が上海に飛火すると、鉄器を十九路軍に供給するとともに、その反面、「對日經濟絕交」のスローガンを完全に裏切ることによつてまた巨利を博した。しかし、この故に彼らを批難することは出來ない。彼らは、上海自由市計劃に賛成した國民ブルジョアジーの前衛部隊であり、國民ブルジョアジーにとつては、儲けがある限りにおいて「愛國心はほむべきかな」であつたのだから……。この稿は卅一年一月に書いたものであるが、本年六月に少し手を入れた）

——（終り）——



電話小石川三八九二番  
振替東京二二二〇三番

東京市本郷區弓町一丁目二十五番地

發行所

一元

社

エ18-41

機全の部済經聞新日毎阪大  
篇名るれ成てし員動總を關

每大投資相談

續 每大投資相談  
—金再禁止後の投資方針—

四六判五百頁上製  
定價圓五拾錢  
送料拾四錢

前篇は七十版を、續篇は八十五版を突破し、

例へ十圓の資本にしづ、その活用如何によつては  
十圓が百圓を生み、千圓にもなる。即ち投資の妙  
味はそこだ。何しろ日本經濟消息を牛耳る大毎經  
濟部を總動員して、凡ゆる正確さと、凡ゆる親切  
さで請合つた投資相談が正に本書だ。

而も「石橋を叩いて渡る式」の的中性は實下を断  
じて安心させるのだ

本書の活用から  
僅かの元金で一  
舉巨萬の富を產  
み感謝の辭山積

